

財団法人 アジア女性交流・研究フォーラム アニュアルレポート

Kitakyushu Forum on Asian Women

# ANNUAL REPORT



平成21(2009)年度 年報  
April 2009—March 2010



第20回アジア女性会議-北九州



KFAWアジア研究者ネットワーク キックオフ記念講演会



韓国・忠清南道女性政策開発院(CWPDI)との  
 学術交流協定締結  
 左 韓国・忠清南道女性政策開発院 キム・キョンスク院長  
 右 KFAW 吉崎邦子理事長



「女性のエンパワーメントに向けた取り組みと  
 課題～日本と韓国の経験から」  
 日韓共同セミナー会場風景(ニューヨーク)



ムーブフェスタ2009「男女共同参画一心をつなぐ・夢をつなぐ・未来へつなぐ」オープニングイベント ムーブミュージカル『扉のむこうに』



デートDVの予防啓発カード作成



若松商業高等学校でのデートDV防止教育授業



『ムーブ叢書ジェンダー白書7 KEKKON 結婚—女と男の諸事情』

# 目 次

## 財団法人アジア女性交流・研究フォーラムの概要

設立趣意書	2
目的	2
事業内容	2
組織	3
職員数	4
役員等	4
運営	6

## 平成21（2009）年度実施事業

一般会計事業	9
調査・研究事業	10
交流・研修事業	13
情報収集・発信事業	16
管理事業	19
特別会計事業	21
国際研修特別会計事業	22
デートDVの予防啓発に関するニーズ調査事業特別会計事業	23
北九州市立男女共同参画センター管理運営特別会計事業	23
北九州市立男女共同参画センター自主事業特別会計事業	33
北九州市大手町ビル維持管理事業特別会計事業	33
北九州市立男女共同参画センター利用状況	34

## 財務諸表

収支計算書総括表	38
正味財産増減計算書総括表	39
貸借対照表総括表	40
財務諸表に対する注記 総括表	41

## 資料

財団法人アジア女性交流・研究フォーラムの歩み	44
刊行物一覧	50
海外とのネットワーク	55
施設案内	56

## 財団法人アジア女性交流・研究フォーラムの概要

## 設立趣意書

今日、国際社会においては、地球的規模で、世界の平和と人類の福祉向上の実現に向けての努力が重ねられています。

女性の地位向上の面においても、一国の全面的な発展及び世界の福祉・平和のためには、女性が男性と共に、社会のあらゆる分野に参画することが必要であることが認識され、1975年の「国際婦人年」を契機に、続く「国連婦人の十年」において「平等・開発・平和」を目標として世界的な規模での活動が活発に展開されてきました。しかし、実質的な女性の地位向上には、まだ多くの問題が残されており、国連婦人の十年以後もその精神を引き継ぎ、ナイロビ世界会議で採択された西暦2000年に向けての「婦人の地位向上のためのナイロビ将来戦略」に沿って、世界各地で目標達成のための努力が続けられています。

女性問題は、女性が単に女性であるということから生じるさまざまな不利益、不平等の問題であり、基本的人権、人間の尊厳にかかわる問題であります。その意味において、女性問題は女性だけの問題ではなく、男性を含む社会全体の、世界的に共通な問題であるといえます。このような観点から、現在、女性の視点が反映されることの少なかった従来の社会のありかたの再構築の必要性が認識され、男女共同参画による社会づくりが強く求められています。特に、開発途上国においては、国の開発の推進と開発における女性の参画が重要な問題となっています。

このような女性問題に対する認識と国際婦人年以來のさまざまな活動をふまえ、北九州市のふるさと創生事業を契機にアジア女性交流・研究フォーラムは事業を開始しました。以来、女性の地位向上とアジア地域の連帯・発展の核として機能することを目指して、日本及び他のアジア地域の女性問題に関する調査・研究及び情報の収集・提供、あるいは開発途上国の人材養成のための研修ならびに相互理解を促進するための国際交流などの活動を行ってきました。

国際社会が相互依存の関係を強め、日本の国際的役割がますます重要になるなかで、わたしたちは、アジア女性交流・研究フォーラムの事業の使命と意義を更に深く認識し、安定的な財政基盤の確保と、これまでの活動の一層の充実を図り、日本における女性問題の所在をより明確にするとともに、アジアの女性の地位向上に更に寄与することを念願し、ひいては、国際婦人年以降の目標である「平等・開発・平和」を達成するため、財団法人アジア女性交流・研究フォーラムを設立いたします。（1993年起草）

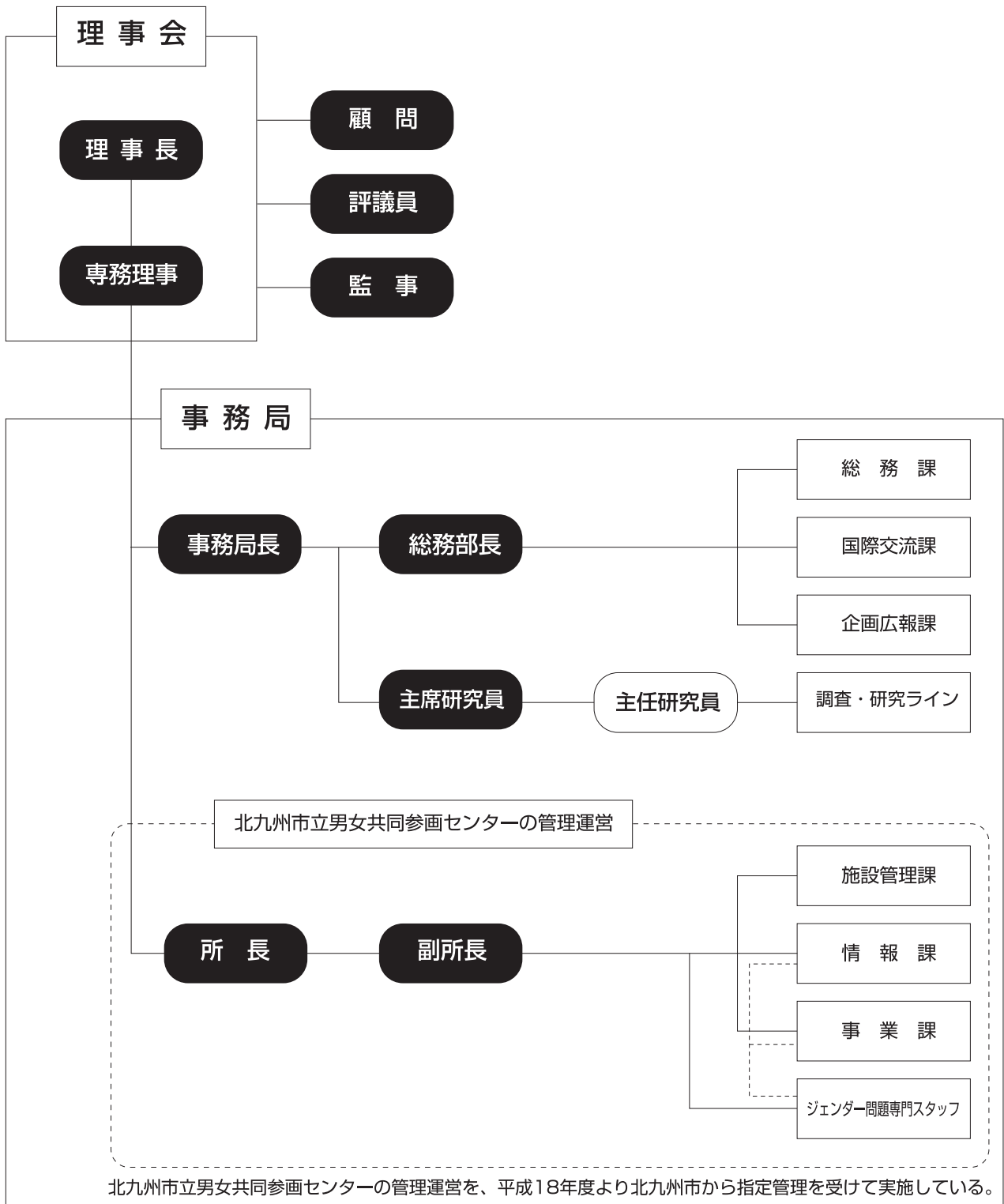
## 目 的

日本および他のアジア諸国の男女共同参画社会形成に関する調査・研究および国際交流等を行い、もって、国内外の女性の地位向上と連帯・発展に寄与し、国際婦人年以降の目標である「平等・開発・平和」の達成を目指す。

## 事業内容

- (1) ジェンダーや男女共同参画に関する課題についての調査・研究
- (2) ジェンダーや男女共同参画に関する課題についての国際交流・研修
- (3) ジェンダーや男女共同参画に関する課題についての情報収集・発信
- (4) 北九州市立男女共同参画センターの管理・運営
- (5) その他、本財団の目的を達成するために必要な事業

組 織



## 職員数

平成22年3月31日現在

区分	所長※ <sup>2</sup>	事務局長※ <sup>3</sup>	部長級	課長級	職員	計
市派遣		1	2	5	1	9
うちムーブ職員※ <sup>1</sup>		0	1	2	0	3
財団採用職員				1	0	1
うちムーブ職員※ <sup>1</sup>				0	0	0
嘱託	1		1	1	19	22
うちムーブ職員※ <sup>1</sup>	1		0	1	16	18

※1 北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”の管理運営に従事する職員。

※2 所長は理事長が兼務する。

※3 事務局長は専務理事が兼務する。

## 役員等（五十音順）

平成21年度名簿

### 理事長

吉崎 邦子 (財)アジア女性交流・研究フォーラム理事長

### 専務理事

永岡 博文 北九州市子ども家庭局担当部長

### 理事

江尻 美穂子 津田塾大学名誉教授

扇谷 恵美子 北九州市公立学校等女性管理職の会 副会長

小川 健一郎 北九州YMCA 総主事

木戸 義彦 北九州市PTA協議会会長

窪田 由紀 北九州市教育委員会教育委員

小林 正博 独立行政法人国際協力機構九州国際センター所長

志賀 幸弘 北九州市副市長

ステファニー・A.ウエストン 福岡大学教授

田村 慶子 北九州市立大学教授

堤 要 NPO法人アジア女性センター理事長

土井 智子 北九州市女性団体連絡会議会長

富安 兆子 高齢社会をよくする北九州女性の会代表

平田 トシ子 第4期北九州市男女共同参画審議会会長

藤岡 佐規子 ユニフェム日本国内委員会北九州地域委員会名誉会長、北九州市保育士会名誉会長

堀内 光子 文京学院大学客員教授

矢田 俊文 北九州市立大学学長

山田 建 NHK北九州放送局局長

## 監 事

磯部 久治 (株)福岡銀行常務取締役北九州本部長  
加藤 憲治 北九州市会計室長

## 顧 問

麻生 渡 福岡県知事  
北橋 健治 北九州市長  
高橋 久子 (財)アジア女性交流・研究フォーラム元理事長 元最高裁判所判事  
原 ひろ子 (財)アジア女性交流・研究フォーラム元会長  
三隅 佳子 (財)アジア女性交流・研究フォーラム前会長

## 評議員

生山 武史 (株)安川電機 人事総務部 人事・キャリア開発部長  
池留 チヨ子 北九州市女性団体連絡会議副会長  
石丸 靖彦 TOTO株式会社総務部長  
石本 淳子 国際ソロプチミスト北九州-西 会長  
宇城 照耀 学校法人 東筑紫学園理事長  
宇都 桂子 北九州国際女性研究会 (ミズ・ウィング) 会長  
岡島 敦子 内閣府男女共同参画局 局長  
小河原 恵子 国際ソロプチミスト北九州-東 会長  
小野 卓爾 (社)北九州青年会議所理事長  
加藤 美佐子 北九州市婦人会連絡協議会会長  
神田 道子 独立行政法人国立女性教育会館理事長  
後藤 勝喜 九州国際大学学長  
下村 輝夫 九州工業大学学長  
下山 公子 北九州市女性団体連絡会議事務局長  
谷村 秀彦 (財)国際東アジア研究センター所長  
寺西 一郎 (株)みずほ銀行北九州支店支店長  
豊川 裕子 北九州ミズ21委員会・OB会会長  
中村 尋子 北九州ゾンタクラブ前会長  
花崎 正子 日本BPW連合会北九州クラブ会長  
樋口 恵子 評論家 高齢社会をよくする女性の会理事長  
福田 信夫 北九州商工会議所理事  
藤本 新二 NPO法人北九州市すこやか住宅推進協議会事務局長  
松井 敬子 国際ソロプチミスト北九州-南 会長  
松村 佐和子 北九州市女性団体連絡会議副会長  
山口 みつ子 (財)市川房枝記念会常務理事  
山崎 信行 九州女子大学学長  
吉村 啓子 国際ソロプチミスト北九州 会長

## 運 営

### 1 理事会

#### 第1回理事会

開催日 平成21年5月27日（水） 13：45～15：35  
場 所 北九州市立男女共同参画センター “ムーブ” 5階大セミナールーム  
出席者数 19名（委任状出席7名を含む）  
議 案 評議員の選出  
就業規則の一部改正  
平成20年度事業報告及び収支決算  
議事結果 全議案可決

#### 第2回理事会

開催日 平成22年3月30日（火） 13：45～14：55  
場 所 北九州市立男女共同参画センター “ムーブ” 5階大セミナールーム  
出席者数 19名（委任状出席7名を含む）  
議 案 評議員の選出  
職員給与規程の一部改正の専決処分の報告  
諸規程の一部改正  
「デートDVの予防啓発に関するニーズ調査」事業特別会計の設置  
平成22年度事業計画及び収支予算  
評価委員会の設置  
議事結果 全議案可決

### 2 評議員会

#### 第1回評議員会

開催日 平成21年5月27日（水） 13：30～15：35  
場 所 北九州市立男女共同参画センター “ムーブ” 5階小セミナールーム、大セミナールーム  
出席者数 25名（委任状出席12名を含む）  
議 案 監事の選任  
就業規則の一部改正  
平成20年度事業報告及び収支決算  
議事結果 全議案可決

#### 第2回評議員会

開催日 平成22年3月30日（火） 13：30～14：55  
場 所 北九州市立男女共同参画センター “ムーブ” 5階小セミナールーム、大セミナールーム  
出席者数 24名（委任状出席11名を含む）  
議 案 理事の選任  
職員給与規程の一部改正の専決処分の報告  
諸規程の一部改正  
「デートDVの予防啓発に関するニーズ調査」事業特別会計の設置  
平成22年度事業計画及び収支予算  
評価委員会の設置  
議事結果 全議案可決

# 平成21年（2009）年度実施事業

1990（平成2）年に設立、1993（平成5）年10月に労働省（現厚生労働省）の認可を受け財団法人となったアジア女性交流・研究フォーラム（KFAW）は、国際婦人年以降の目標である「平等・開発・平和」の達成のため、これまで様々な活動を展開してきた。

「第20回アジア女性会議—北九州」では、本年が国連の女性差別撤廃条約採択から30年という節目の年であることから、女性差別撤廃条約をテーマとして、基調講演と国内外の専門家によるパネルディスカッションを開催し、幅広い層の市民に向けて、男女共同参画社会実現に向けた世界の取り組みについて学ぶ機会を提供した。さらに、KFAW改革プランに盛り込まれている海外拠点づくりの一環として、韓国・忠清南道女性政策開発院と学術交流協定を締結し、米国ニューヨークにおいて国連女性の地位委員会（CSW）の平行・イベントとして共同セミナーを共催するなどの活動を行った。

## 一般会計事業

### 調査・研究事業

KFAW改革プランの一環として、これまでの事業（調査研究活動、客員研究員研究、研究誌の刊行）に加え、3つの新しい事業（ジェンダー関連研究者のネットワーク構築、プログラム開発、シンクタンク事業）を展開した。これらによって、研究者とのネットワーク化、調査・研究ラインの強化を図り、研究成果を広く共有した。

### 交流・研修事業

「第20回アジア女性会議—北九州」を開催した。今回は、女性差別撤廃条約に焦点をあて、男女共同参画社会実現に向けた世界の取組について、アグネス・チャン氏の基調講演と条約の専門家によるパネル・ディスカッションを開催した。

### 情報収集・発信事業

情報誌『Asian Breeze』の発行及び、海外通信員事業を実施して、主にアジア・太平洋諸国について情報の収集や発信に努めた。また、海外通信員経験者を日本に招聘し、市民との交流や海外の女性の状況についての発表会などを行った。さらに関係機関・団体と連携して、先進国の男女共同参画をテーマにセミナーや交流事業を行った。

## 特別会計事業

### 国際研修特別会計事業

独立行政法人国際協力機構(JICA)から国際研修「第8回 ジェンダー主流化政策のための行政官セミナー」を受託し、夏と冬の2回実施した。

### デートDVの予防啓発に関するニーズ調査事業特別会計事業

北九州市子ども家庭局男女共同参画推進部から委託を受け、若年層向けのデートDV予防啓発施策検討の基礎資料とするため、市内学校の教職員を対象にアンケート調査やグループ・インタビューを実施し、現状把握と分析を行い、効果的な予防啓発のあり方を探った。シンクタンク事業の成果の一つである。

### 北九州市立男女共同参画センター管理運営特別会計事業

指定管理者として北九州市立男女共同参画センターの管理運営業務にあたった。

### 北九州市立男女共同参画センター自主事業

男女共同参画社会の形成と個人の能力向上を目的に、受益者負担や助成金を活用して事業を実施した。

### 北九州市大手町ビル維持管理事業特別会計事業

北九州市から受託し、男女共同参画センター“ムーブ”部分を除く北九州市大手町ビルの施設管理及び入居団体との連絡・調整にあたった。

# 一般会計事業

調査・研究事業

1 調査研究

(1) プログラム開発

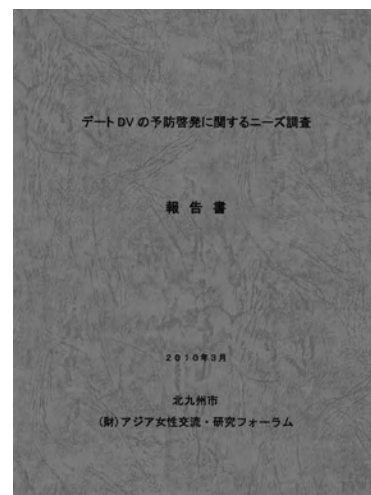
デートDV予防啓発のための研究会、セミナーを行い、啓発教材の作成を含めたプログラム開発を行った。市内の高等学校2校でデートDV予防啓発の授業を実施した。

内容

回	日 時	題 名・講 師
1	2009年8月9日(日) 13:00~16:30 (参加者 31名)	「デートDVを知っていますか？」 コーディネーター 高齢社会をよくする北九州女性の会 代表 富安 兆子 講師 「デートDVってなあに？」 九州産業大学 教授/メープルリーフの会 窪田 由紀 「デートDV防止プログラムについて」 NPO 法人DV防止ながさき 代表 中田 慶子
2	2009年11月10日(火) 18:00~20:00 (参加者 37名)	「デートDVを防ぐには~効果的な方法と実践」 講師 アウェア代表 山口 のり子
3	2010年3月16日(火) (参加者 198名)	福岡県立小倉西高等学校 デートDV防止教育授業 講師 九州産業大学 教授/メープルリーフの会 窪田 由紀 メープルリーフの会 蒲原 くみ恵
4	2010年3月17日(水) (参加者 69名)	福岡県立若松商業高等学校 デートDV防止教育授業 講師 KFAW 主席研究員/日本赤十字九州国際看護大学 教授 篠崎 正美 高齢社会をよくする北九州女性の会 代表 富安 兆子

(2) シンクタンク事業

- ①北九州市を中心に、人口10万人以上の近隣市町村を対象に、男女共同参画やジェンダーに関する調査・計画策定の委託を受けるため、訪問等広報活動を実施した。
- ②この結果、北九州市子ども家庭局男女共同参画推進部から委託を受け、「デートDVの予防啓発に関するニーズ調査事業」(特別会計事業)を行った。



デートDVの予防啓発に関するニーズ調査報告書

## (3) 調査研究活動

① 「アジアの女性のエンパワーメント」をテーマとして、インド、ケララ州（9月16日～9月24日）とアンドラ・プラデシュ州（9月26日～10月7日）で現地調査を行った。前半のケララ州での調査については、兵庫教育大学の服部範子准教授を代表者とする科学研究費補助金による「南アジアにおける女子教育及び女性のライフコースに関する総合的研究」の一部として服部範子氏、名須川知子氏（兵庫教育大学教授）と3人で訪問した。調査結果については、「アジア女性会議」、セミナー「インド好き大集合」、および『アジア女性研究』第19号で報告した。



インド・ケララ州での現地調査

② KFAWの調査・研究活動について、よりよく知ってもらうためにセミナーを開催した。

## (a) 「インド好き大集合」

(2009年12月9日18:30～20:00) (参加者21名)

「ダラムサラで生きるチベット人亡命者とチベット亡命政府」

北九州市立大学 教授 田村 慶子

「インドのカースト制度—苦悩するバラモン(最高位の司祭階級)」

「インド国外に住むインド人」

Ganesha 材料&環境 Links LLP 共同代表 泉 優佳理

「インド女性によるエコビジネス (グジャラート州)」

「インドで特別な州—ケララ州の教育レベルは先進国並み」

KFAW主任研究員 太田 まさこ

コーディネーター KFAW主任研究員 太田 まさこ

## (b) 「イギリス・オーストラリアの研究者とジェンダーを語る」

(2010年2月1日18:30～20:00) (参加者31名)

「ジェンダーの視点から見る日本における国際結婚」

大阪大学大学院人間科学研究科

専任講師 山本ベバリー・アン

「オーストラリアの女性と仕事・生活—現状と事例」

西オーストラリア大学アジア研究学部助教授／

大阪大学大学院人間科学研究科外国人招へい研究員

ローラ・デールズ

コーディネーター KFAW主任研究員 太田 まさこ

## (c) 「少子高齢化社会—韓国はどうしているのか」

(2010年2月9日18:30～20:00) (参加者47名)

忠清南道女性政策開発院 院長 金 景淑(キム・キョンスク)

忠清南道女性政策開発院 研究員 徐 憲柱(ソ・ホンジュ)

コーディネーター KFAW主任研究員 太田 まさこ

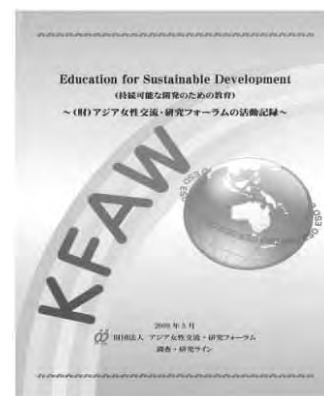
③ KFAWが3年間事務局をつとめた北九州ESD協議会での、KFAWの活動について記録集『「持続可能な開発のための教育」～(財)アジア女性交流・研究フォーラムの活動記録～』を発行した。



「インド好き大集合」



「イギリス・オーストラリアの研究者とジェンダーを語る」



記録集『「持続可能な開発のための教育」～(財)アジア女性交流・研究フォーラムの活動記録～』

## 2 ジェンダー関連研究者のネットワーク構築

北九州市を中心に、近隣市町村、およびアジアのジェンダー関連研究者とのネットワークである KFAW アジア研究者ネットワークを立ち上げた。KFAW が地域のジェンダー研究の中心的役割を果たし、研究者に研究や発表の機会を提供し、さらに北九州市民へ研究成果の普及を進めた。

- (1) 開催期間 2009年6月～2010年3月
- (2) 回数 全8回
- (3) 参加者 延べ204人
- (4) 内容

回	日時	題名・講師
1	2009年6月23日(火) 18:00～19:15 (参加者 34名)	「ベナジールとチアー私の出会った二人のアジア女性」 講師 日本赤十字九州国際看護大学 学長 喜多 悦子
2	2009年7月15日(水) 18:00～20:00 (参加者 12名)	「八幡東区における高齢者の居住問題」 講師 九州国際大学 副学長 湯浅 壘道
3	2009年9月13日(日) 13:00～15:30 (参加者 40名)	「大地から食卓へ—ジェンダーの視点で食の安全を考える」(第2回日韓セミナー) コーディネーター KFAW 主席研究員/日本赤十字九州国際看護大学 教授 篠崎 正美 パネリスト 北九州市の農業女性 塚本 薫子 グリーンコープ生活協同組合ふくおか 理事長 田原 幸子 北九州市食生活改善推進員協議会 会長 大石 紀代子 元韓国忠清南道女性政策開発院 研究員 閔 庚子(ミン・キョンジャ)
4	2009年10月14日(水) 18:30～20:00 (参加者 10名)	「現代台湾における看護師と看護教育—ジェンダーの視点から」 講師 福岡女子大学文学部人文学系 准教授 宮崎 聖子
5	2010年1月19日(火) 18:00～19:30 (参加者 22名)	「東南アジアの国際移動とジェンダー」 講師 北九州市立大学 教授 田村 慶子
6	2010年3月10日(火) 18:00～19:30 (参加者 8名)	「子どもを育てることの自己決定権とジェンダー —共同親権・共同監護をめぐる」 講師 北九州市立大学 教授 河嶋 静代



「大地から食卓へ—ジェンダーの視点で食の安全を考える」

### 3 客員研究員研究

(財)アジア女性交流・研究フォーラムの研究部門の強化・充実のため、客員研究員への委託による調査研究を実施した。

(1) 期間 1年

(2) 客員研究員

小川 玲子 (九州大学アジア総合政策センター准教授)

「東南アジアから東アジアへの国際移動と再生産労働の変容—韓国・台湾・日本の比較研究」

関 育子 (日本赤十字九州国際看護大学国際保健看護学教授)

「内戦・津波災害下の子どもの健康—スリランカ、トリンコマレ県の実態調査に見る性差」

(3) 活動

2009年6月 客員研究員会議開催

2009年11月 「第20回アジア女性会議—北九州」で報告

2010年3月 『アジア女性研究』第19号に報告を掲載

2010年3月 報告書提出

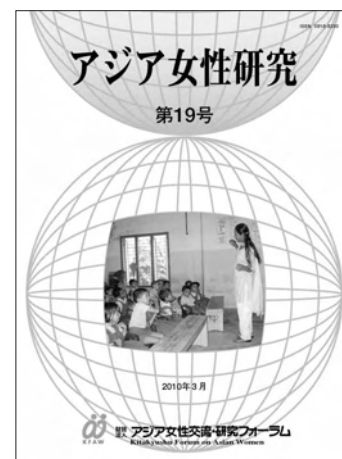
### 4 研究誌の刊行

KFAW 研究員の研究成果の発表の場として、また調査・研究ラインの活動報告の場として、日本語研究誌『アジア女性研究』第19号、『アジア女性研究 別冊 アジア女性学の動向』を刊行した。英語研究誌 *Journal of Asian Women's Studies (JAWS)* については、KFAW 研究員の「アジア女性会議」での発表の要旨、およびドイツ人研究者による介護保険制度に関する論文を E-ジャーナルとしてホームページ上で公開した。

『アジア女性研究』第19号 600部

『アジア女性研究』別冊 アジア女性学の動向 200部

*Journal of Asian Women's Studies*, Vol.18 E-ジャーナル



アジア女性研究第19号

## 交流・研修事業

### 1 第20回アジア女性会議—北九州 (参加者 715名)

(1) 概要

「第20回アジア女性会議—北九州」は、北九州とアジアをつなぐ国際会議として、「現在(いま)、世界の女性たちは～北九州から世界を視(み)る～」をテーマに、2009年11月28日(土)・29日(日)の2日間、北九州市で開催された。

国連が女性差別撤廃条約を採択して、30周年の節目にあたる2009年度は女性差別撤廃条約に焦点を当て、「男女共同参画社会の実現に向けた取組と今後の展望」について、日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんによる基調講演を開催した。

引き続き、基調講演を受ける形で、内外の条約の専門家によるパネルディスカッションを開催した。会議2日目には、当財団の研究員および客員研究員による研究報告会と併催事業としてユニフェム北九州との共催によるDV防止シンポジウムを開催した。

参加者は、715名であった。

(2) 基調講演

テーマ 『現在(いま)、世界の女性たちは～男女共同参画社会の実現に向けた取組と今後の展望～』  
講演者 アグネス・チャン (歌手・エッセイスト)

(3) パネルディスカッション

テーマ 『女性差別撤廃条約と国際社会における日本の役割』  
コーディネーター

山下 泰子 (文京学院大学教授、国際女性の地位協会会長)

パネリスト

アグネス・チャン (歌手・エッセイスト)

イ・ヨンスク (韓国・大学女性協会理事、UN (国際連合) 韓国協会顧問)

瀬地山 角 (東京大学大学院総合文化研究科教授)

三隅 佳子 ((財)アジア女性交流・研究フォーラム顧問)



第20回アジア女性会議—北九州  
パネルディスカッション

(4) KFAW研究員報告会

『インド、ケララ州における女子教育の成果と課題』

太田 まさこ (KFAW 主任研究員)

『ジェンダーの視点による内戦・津波災害下の子どもの健康  
—スリランカ、トリンコマレ県の実態調査』

関 育子 (KFAW 客員研究員、

日本赤十字九州国際看護大学教授)

今村 尚美 (共同研究者、日本赤十字九州国際看護大学修士課程)

『東南アジアから東アジアへの国際移動と再生産労働の変容』

小川 玲子 (KFAW 客員研究員、九州大学アジア総合政策センター准教授)

王 増勇 (共同研究者、国立陽明大学保健福祉研究所准教授 (台湾))

劉 暁春 (共同研究者、実践大学人間環境学部ソーシャルワーク学科准教授 (台湾))



KFAW 研究員報告会

(5) シンポジウム 『DV 根絶のためのシンポジウム～今、あなたにできること!!』

((財)アジア女性交流・研究フォーラム、ユニフェム北九州 共催)

基調講演 『DV：愛と暴力の遠くて近い関係』・ピアノ演奏

草柳 和之 (メンタルサービスセンター代表)

パネルディスカッション

篠崎 正美 ((財)アジア女性交流・研究フォーラム  
主席研究員)

草柳 和之 (メンタルサービスセンター代表)

角田 由紀子 (弁護士)

原 健一 (佐賀県 DV 総合対策センター所長)



シンポジウム 『DV根絶のためのシンポジウム～今、あなたにできること!!』

(6) 報告書の発行

会議の様子を、『第20回アジア女性会議—北九州 報告書』として発行した。

## 2 ジェンダーと開発セミナー

### (1) 国際セミナー「シンガポールの女性はいま」の開催

シンガポール共和国大使館と共催で、駐日シンガポール共和国大使夫人を講師に招いて、高校教師として共働きしながら2人の子どもを育てたご自身の経験を交え、シンガポールにおける女性の社会進出の現状について講演していただいた。

日 時 2009年10月26日(月) 15:00～16:45  
 講 師 モーリーン・タン (駐日シンガポール共和国大使夫人)  
 コーディネーター 田村 慶子 (北九州市立大学教授)  
 会 場 大セミナールーム  
 参加者 80名



国際セミナー「シンガポールの女性はいま」  
シンガポール大使夫人モーリーン・タン氏

## 3 海外の拠点づくりと友好協定の締結

海外のジェンダー関連組織に共通する課題の解決や女性の地位向上、男女共同参画社会の実現に向けた恒常的なネットワーク(海外拠点)の形成を目指して、韓国の忠清南道や仁川市、中国の大連市との交流を図った。

### (1) 忠清南道女性政策開発院 (CWPD) との交流

#### ① 学術交流協定の締結および意見交換会開催

日 時 2009年11月2日(月)～11月3日(火)  
 場 所 忠清南道女性政策開発院 (CWPD) (韓国忠清南道)  
 参加者 CWPD キム・キョンスク院長ほか KFAW 吉崎理事長、中村企画広報課長

#### ② 新春セミナー「少子高齢化社会－韓国はどうしているのか」開催 《再掲》

日 時 2010年2月9日(火) 18:30～20:00  
 講 師 CWPD キム・キョンスク院長、ソ・ホンジュ研究員  
 場 所 小セミナールーム  
 参加者 47名

#### ③ 共同セミナー「女性のエンパワーメントに向けた取組みと課題～日本と韓国の経験から」

日 時 2010年3月1日(月) 14:00～15:30  
 講 師 KFAW 吉崎理事長、太田主任研究員 CWPD キム・キョンスク院長、ソ・ホンジュ研究員  
 場 所 国連チャーチセンタービル (米国・ニューヨーク)  
 参加者 90名

### (2) 韓国・仁川市との交流

仁川市社会福祉協議会の一行(11名)が来北し、交流を図った。

日 時 2009年11月11日(水)  
 訪問先 北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”ほか

### (3) 中国・大連市との交流

大連市婦女連合会の一行(50名)が来北し、交流を図った。

日 時 2009年9月29日(火)  
 訪問先 北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”ほか



大連市婦女連合会ムーブへ来所

## 4 海外派遣

フォーラムの事業をさらに推進するため、第54回国連女性の地位委員会 (CSW) へ参加するとともに、2009年11月に学術交流協定を締結した韓国・忠清南道女性政策開発院 (CWPD) と、共同でセミナーを開催した。

(1) 第54回国連女性の地位委員会 (CSW)

期 間 2010年2月26日 (金) ~3月7日 (日)  
 場 所 国連本部 (米国・ニューヨーク)  
 テーマ 「北京宣言・行動綱領および第23回特別総会女性2000年会議成果文書の実施状況のレビューとミレニアム開発目標達成におけるジェンダー視点導入への貢献」  
 参加者 吉崎理事長、太田主任研究員、中村企画広報課長



第54回 CSW の様子 (ニューヨーク)

(2) CSW パラレルイベント：KFAW/CWPDI 共催日韓共同セミナー

「女性のエンパワーメントに向けた取組みと課題～日本と韓国の経験から」 (再掲)

日 時 2010年3月1日 (月) 14:00~15:30  
 場 所 国連チャーチセンタービル (米国・ニューヨーク)  
 報告者 KFAW 吉崎理事長、太田主任研究員  
 CWPDI キム・キョンスク院長、ソ・ホンジュ研究員  
 参加者 90名

情報収集・発信事業

1 情報誌『Asian Breeze』の発行

主にアジア・太平洋諸国の女性に関する情報やフォーラムの活動を広く国内外に情報提供し、女性問題についての理解を深めるとともに、国内外の公的関係機関、研究者やNGOなどとのネットワークづくりを目指して、日本語と英語で情報誌『Asian Breeze』を発行した。

また、『Asian Breeze』の発行が2010年に20周年を迎えることを記念して、これまでの『Asian Breeze』収録の巻頭エッセイ「いま、女性たちは」(Women Today)を、1991年3月発行の創刊号から最新の2010年3月発行の第58号までに掲載されたものを総集編として発行した。

(1) 情報誌『Asian Breeze』の発行

発行回数・時期 年3回発行  
 第56号 2009年6月 日本語・英語版  
 第57号 2009年11月 日本語・英語版  
 第58号 2010年3月 日本語・英語版  
 発行部数 各号 日本語版 4,000部 英語版 3,000部  
 送付先

市内公共施設のほか、国内・海外女性関連団体および研究機関、在日大使館、国連機関、国際関係団体など

(2) 総集編『いま、女性たちは—Asian Breeze から見る20年の軌跡』、  
*Women Today Reviewing the 20-Year History of Women in Asian Breeze*  
 の発行

発行時期 2010年3月  
 発行部数 日本語版 300部 英語版 200部



『いま、女性たちは—Asian Breeze から見る20年の軌跡』

2 第19期海外通信員事業

アジア・太平洋諸国を中心とした海外における女性の状況についての情報収集を行うとともに、ネットワークを広げることを目指して、アジア・太平洋諸国在住者を中心に世界各国から毎年一定のテーマの

もとに海外通信員を公募し、現地の最新情報をレポートしてもらっている。2009年度は第19期海外通信員から提出されたレポートの一部は、情報誌『Asian Breeze』やウェブサイトに掲載した。

通信員数 9カ国 9人  
 第19期テーマ 「あなたの日常生活—衣食住を中心に」  
 任期 2009年5月～2010年3月  
 レポート回数 3回



第19期海外通信員

### 3 国際理解促進事業

男女共同参画社会の実現に向け、女性の地位向上を図るには、あらゆる立場の人びとと相互理解を深めることが必要不可欠であるため、海外通信員を本市に招聘して、市民、子ども、学生などとの交流を実施した。

また、海外における男女共同参画の状況について情報収集するとともに、参加市民層の裾野を広げるため、関係機関/団体と連携して、各種事業を実施した。

#### (1) 海外通信員招聘事業

アジア・太平洋地域を中心とした海外における女性の状況についての情報収集・交換を行っている海外通信員制度を活用して、海外通信員を本市に招聘して、アジアの社会経済や女性問題に関心を持つ市民から、子ども、学生等これから理解を促すべき世代を主対象に、多様な交流の機会を提供した。

招聘者 ブハワナ・ウパデヒアユ（ネパール）  
 第14, 16, 18期通信員  
 訪問期間 2009年7月10日（金）～7月13日（月）  
 交流事業

#### ① ワールドレポート発表会「ことばにみるアジアの文化—女ことば、男ことば」開催

市内の大学生の参加も交え、ネパール、ベトナムおよび日本についてそれぞれの言葉をジェンダーの視点から見つめ直してもらい、普段何気なく使っている言葉にはさまざまなジェンダーバイアスがかかっていることを再認識しました。

コーディネーター 北九州市立大学 水本 光美 教授  
 日時 2009年7月11日（土）13:30～15:30  
 会場 大セミナールーム  
 参加者 80名



ワールドレポート発表会「ことばにみるアジアの文化—女ことば、男ことば」

#### ② 学校交流訪問

国際理解教育への取組みや英語を活用したクラブ活動が盛んである等、研修員の受入れ環境が整っている小学校や高校など年代の異なる2校を対象に、交流訪問を行った。

◇北九州市立あやめが丘小学校（戸畑区）  
 日時 2009年7月10日（金）14:15～15:00  
 対象 小学4年生(80名; 2クラス)  
 内容 ネパール国紹介と質疑応答



あやめヶ丘小学校訪問

◇北九州市立高等学校（戸畑区）

日 時 2009年7月10日（金）16:10～17:00  
 対 象 ESSクラブ（20名）  
 内 容 ネパール国紹介英語スピーチコンテスト



ESSクラブで英語スピーチコンテスト

③地域女性団体との訪問交流

昨年度の戸畑区に続き、今年度は小倉南区の女性団体を対象に、アジアの社会／文化、女性問題を知るための交流会を開催した。

日 時 2009年7月13日（月）10:00～13:00  
 参加者 小倉南区女性団体連絡会議から約20名  
 会 場 北九州市立若園市民センター（小倉南区）



海外通信員、女性団体を訪問交流

④「おいしいアジア」料理教室

海外通信員の講師と一緒に手軽なネパールの家庭料理を作りながら、食生活からみた文化の違いなどを学ぶとともに、試食後の講話を通じて、ネパール女性の状況について理解を深めた。

日 時 2009年7月12日（日）10:00～14:00  
 参加者 12名



「おいしいアジア」料理教室

(2) サマーセミナー「ミシェル・オバマ：アメリカを変革するファーストレディ」の開催

主 催 (財)アジア女性交流・研究フォーラム  
 在福岡アメリカ領事館福岡アメリカンセンター  
 講 師 ライザ・マンディ  
 (ワシントン・ポスト紙スタッフライター／  
 ジャパン・ソサエティ・メディア・フェロー)

日 時 2009年8月10日（月）18:30～20:00  
 場 所 大セミナールーム  
 参加者 160名



サマーセミナー「ミシェル・オバマ：アメリカを変革するファーストレディ」ライザ・マンディ氏

(3) ロシア・チェリャビンスク国立大学との交流プログラムの実施

主 催 (財)アジア女性交流・研究フォーラム  
 北九州YMCA  
 相手方 ロシア・チェリャビンスク国立大学  
 東洋学科学生7名

日 時 2009年8月6日（木）13:30～16:45  
 内 容

- ①小倉北区男女共同参画地域フォーラムへの参加
- ②固定的性別役割分担意識や結婚観等についての意見交換会



ロシア・チャリャビンスク大学との交流プログラム

#### 4 図書収集

研究資料として、アジアや女性に関する図書及び各種資料を購入・収集した。

収集図書合計 37冊

【内訳】

女性問題	34冊
国際問題・地誌	3冊
その他	0冊

### 管理事業

#### 1 年間事業報告書作成

フォーラムの活動のPR・記録用として年間事業報告書「アニュアルレポート」を作成した。

発行部数 日英併記版 800部

#### 2 フォーラムサポーター活動の推進

フォーラムサポーターと協働で事業運営を行いフォーラムサポーターの活動の推進を図った。

#### 3 ユニフェム（国連女性開発基金）活動への支援

特定非営利活動法人ユニフェム日本国内委員会の正会員として参加、副理事長及び理事を務め、開発途上国の女性の生活向上と自立を支援する活動に積極的に参画するとともに、地域委員会であるユニフェム北九州の活動として、チャリティバザーや募金活動、イベントの開催を支援した。

【イベントの共催】

- (1) ユニフェム北九州15周年記念のつどい（2009年7月14日）
- (2) DV根絶のためのシンポジウム～今、あなたにできること（2009年11月29日）《再掲》
- (3) ユニフェム北九州 特別講演会（2010年2月22日）

#### 4 賛助会員の拡充

多くの方々とネットワークを広げ、財政基盤の強化を目指して、賛助会員の拡充に努めた。

【2009年度実績】

区分	年額（1口）	加入人数	加入口数
個人	3,000円	119名	123口
団体	20,000円	20件	21口
学生	1,500円	9名	9口

※ ただし、10月以降の新規会員については、会費は半額。

#### 5 情報システム管理事業

昨年度に引き続き、ウイルスやハッキングなどの犯罪に対して必要なセキュリティ対策を行った。

# 特別会計事業

### 国際研修特別会計事業

アジア・太平洋地域を中心とした女性の地位向上に向けた取り組みの一環として、JICA九州国際センターよりジェンダー主流化政策をテーマにした研修を受託した。

#### 1 第8回 ジェンダー主流化政策のための行政官セミナー (A)

アジア、アフリカ、中南米及び欧州地域の開発途上国の中央政府および地方政府における政策の計画、実施、評価におけるジェンダー主流化と女性のエンパワーメントを図るため、教育、労働、福祉などの様々な分野を関連させながら、ジェンダー主流化を取り込んだ政策を立案、推進する行政官の育成を目的に、独立行政法人国際協力機構九州国際センターの委託を受けて実施した。

期 間 2009年6月25日～7月24日  
 会 場 独立行政法人国際協力機構九州国際センター (KIC) 他  
 研修員 6カ国8名  
 (アフガニスタン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、カンボジア、ハイチ、ネパール、ウルグアイ)

##### ○カントリーレポート発表会

日 時 2009年7月17日 (金) 13:00～16:00  
 会 場 北九州市立男女共同参画センター  
 “ムーブ”5階大セミナールーム  
 コーディネーター 小川 玲子  
 (九州大学アジア総合政策センター准教授)

参加者 44名



第8回ジェンダー主流化政策のための行政官セミナー (A) カントリーレポート発表会

#### 2 第8回 ジェンダー主流化政策のための行政官セミナー (B)

アジア、アフリカ、中南米及び欧州地域の開発途上国の中央政府および地方政府における政策の計画、実施、評価におけるジェンダー主流化と女性のエンパワーメントを図るため、教育、労働、福祉などの様々な分野を関連させながら、ジェンダー主流化を取り込んだ政策を立案、推進する行政官の育成を目的に、独立行政法人国際協力機構九州国際センターの委託を受けて実施した。

期 間 2010年1月27日～2月26日  
 会 場 独立行政法人国際協力機構九州国際センター (KIC) 他  
 研修員 5カ国6名  
 (インド、ナイジェリア、マラウイ、メキシコ、ラオス)

##### ○カントリーレポート発表会

日 時 2010年2月24日 (水) 13:30～16:30  
 会 場 北九州市立男女共同参画センター “ムーブ”5階大セミナールーム  
 コーディネーター 小川 玲子 (九州大学アジア総合政策センター准教授)  
 参加者 56名

### デートDVの予防啓発に関するニーズ調査事業特別会計事業

北九州市子ども家庭局男女共同参画推進部から委託を受け、若年層向けのデートDV予防啓発施策検討の基礎資料とするため、市内学校の教職員を対象にアンケート調査やグループ・インタビューを実施し、現状把握と分析を行い、効果的な予防啓発のあり方を探った。

北九州市内の中学校以上の学校173校に対して、各校 3 通ずつ合計519通のアンケート調査票を送付し、230通の回答を得た（回収率44.3%）。また市内の中学校、高等学校の教諭 9 名を対象にグループ・インタビューを行い、学校現場での現状を把握し、予防啓発教育を実施していく上での課題、環境整備、具体的な授業内容、方法などについて、意見を質的に把握した。調査結果をもとに政策提言を含めた報告書を執筆、提出した。

### 北九州市立男女共同参画センター管理運営特別会計事業

#### 【指定管理業務】

男女共同参画社会の形成を目指して、平成7年7月1日に開所した北九州市立男女共同参画センターの指定管理者として同センターの管理運営等を実施した。

## 1 事業業務

男女共同参画社会の形成に向けての活動を支援するために、「ムーブフェスタ2009」や自己開発事業をはじめとする各種事業を展開した。男女共同参画社会基本法制定10周年記念事業として開催した「ムーブフェスタ2009」では、「男女共同参画一心をつなぐ・夢をつなぐ・未来へつなぐ」をテーマとし、市民の自主的な研究・実践活動を積極的に支援する市民企画事業を中心に、市民参加によるミュージカル公演、イベント、講演会等の事業を行った。

### (1) 自己開発事業

#### ① ジェンダー問題講座

男女共同参画に関する講座、講演会等を開催し、ジェンダーをめぐる諸問題について学際的に考察し、意識改革を促進

##### (a) 男女共同参画講座「どう立ち向かう一格差社会と生活困難」

期 間 平成22年1月30日(土)、2月27日(土)、3月6日(土)  
14:00～16:00 全3回

受講料 200円

講 師 大竹 文雄（大阪大学社会経済研究所教授）  
小杉 礼子（独立行政法人労働政策研究・研修機構統括研究員）  
山田 昌弘（中央大学文学部教授）

参加者 295名（延べ人数）

##### (b) おとこのライフセミナー

期 間 平成21年11月20日(金)、12月5日(土)、12月11日(金) 全3回  
第1回、第3回 18:30～20:30 第2回 14:00～16:00

受講料 200円

講 師 中村 彰（とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ館長）  
奥山 和弘（静岡県立掛川西高等学校副校長）  
大橋 清朗（結婚コンサルタント）

参加者 165名（延べ人数）



男女共同参画講座  
「どう立ち向かう一格差社会と生活困難」

(c) 地域リーダー養成講座「北九州小町参上！」

日時 平成21年12月20日（日）及び12月21日（月）  
講演会10:00～11:30、ワークショップ13:00～15:00

受講料 無料

講師 長谷川 幸介

（茨城大学生涯学習教育研究センター准教授）

外岡 仁（江戸文化・江戸しぐさ研究会主宰）

参加者 130名（延べ人数）



地域リーダー養成講座「北九州小町参上！」

(d) 地域リーダー養成講座「北九州小町参上！」フォローアップ講座

日時 平成22年1月22日（金） 15:00～16:00

受講料 無料

講師 小山 三恵子（ムーブ副所長）

参加者 17名

(e) セクハラ・パワハラ防止&両立支援セミナー

日時 平成22年2月17日（水） 13:30～16:30

受講料 無料

講師 市川 俊司（市川法律事務所 弁護士）

清成 留美（きよなり社会保険労務士事務所 社会保険労務士）

共催 福岡県福祉労働部、財団法人21世紀職業財団

参加者 28名

(f) 企業セミナー（兼 人権を考える企業のつどい） 主催 北九州市

日時 平成22年2月5日（金） 14:00～16:30

入場料 無料

講演 講師 岡田 康子（㈱クオレ・シー・キューブ代表取締役）

映画上映 「声を聞かせて」

会場 北九州市芸術劇場

参加者 530名

(g) English Conversation Class for Empowerment エンパワーメントの英会話

期間 第1期 平成21年5月13日（水）～平成21年7月31日（金）

第2期 平成21年11月11日（金）～平成22年2月12日（金）

初級13:00～14:30 中級・上級19:00～20:30 各コース1期12回

受講料 初級12,000円、中級15,000円、上級15,000円

運営委託 オフィース M&M

参加者 619名（延べ人数）

(h) ムーブ語学講座 アジアを見よう！

期間 韓国コース 平成21年5月12日（金）～7月14日（金）

中国コース 平成21年9月4日（金）～11月6日（金）

19:00～20:30 各10回

受講料 12,000円

運営委託 (株)アウルズ

参加者 208名（延べ人数）

## ② 就業支援講座

就業の機会を拓げるための、再就職支援講座や女性起業家を目指す女性のための講座を開設し、女性の経済的な自立を支援

## (a) 女性起業家支援塾2009

期 間 平成21年11月7日（土）～11月22日（日） 10：00～17：00 全5回

受講料 15,000円

コーディネーター 佐々木 茂（㈲ジャンクション代表取締役）

参加者 119名（延べ人数）

## (b) 女性起業家フォローアップセミナー

日 時 平成22年1月20日（水） 14：00～16：00

受講料 無料

講 師 三好 正雄（中小企業診断士）

参加者 19名

## (c) 女性起業家相談会

日 時 平成22年1月23日（土） 10：00～17：00

受講料 無料

講 師 三好 正雄（中小企業診断士）

共 催 独立行政法人中小企業基盤整備機構九州支部

参加者 6名

## (d) ムーブ就活塾

期 間 平成21年9月20日（日）～10月11日（月） 10：00～17：00 全7回

参加費 15,000円

講 師 新開 よしこ（キャリア・アドバイザー、CDA）、  
浅野 美枝（キャリア・カウンセラー）

参加者 63名（延べ人数・公開講座除く）

## (e) ムーブ就活塾 公開講座「自律・自立をめざすキャリア形成について」

日 時 平成21年9月26日（土）

講 師 小島 貴子（立教大学大学院ビジネスデザイン研究科准教授）

参加費 200円

参加者 101名

## (f) ムーブ就活塾 フォローアップセミナー

日 時 平成21年12月19日（土） 13：00～16：00

講 師 新開 よしこ（キャリア・アドバイザー、CDA）

浅野 美枝（キャリア・カウンセラー）

参加者 9名

## (g) 働く女性・働きたい女性のための仕事に活かすキャリアアップ講座

日 時 平成21年10月23日（金） 13:30～16:30

受講料 無料

講 師 俵 純子（社員教育接遇マナー研究所）

共 催 福岡県北九州労働者支援事務所

参加者 67名

## (h) アサーティブ・コミュニケーション講座

日 時 平成22年2月2日（火） 10:00～12:00

- 受講料 無料  
 講師 とみなが 明子（臨床心理士・フェミニストカウンセラー）  
 共催 福岡県北九州労働者支援事務所  
 参加者 67名
- (i) 労働教育講座
- 日時 平成21年12月2日（水） 18:30～19:30  
 平成22年3月4日（木） 18:30～20:00  
 講師 國武 英生（北九州市立大学法学部准教授）  
 渡辺 晶子（ナリッジ共同法律事務所弁護士）  
 受講料 無料  
 共催 福岡県福祉労働部  
 参加者 55名（延べ人数）
- (j) 労働経営セミナー
- 日時 平成21年12月2日（水） 17:00～18:00  
 平成22年2月23日（火） 15:00～16:30  
 講師 大仁田 広恵（医療法人新光会不知火クリニック心理士）  
 江田 博（福岡県社会保険労務士会会長）  
 受講料 無料  
 共催 福岡県福祉労働部  
 参加者 54名（延べ人数）
- (k) パソコン講座
- 期間 平成21年4月1日（水）～平成22年3月31日（水）  
 内容 一般講座（2カ月間）31講座（各講座8回）、特別講座（1日）15講座  
 受講料 一般講座13,000円、特別講座4,000円  
 運営委託 (有)ケーエムテクノロジー、(有)ウイズコーポレーション  
 参加者 3,289名（延べ人数）
- (l) 自立を目指す女性のためのパソコン講座（ワード）
- 期間 平成21年5月9日（土）～7月1日（水）  
 毎週土曜日10:00～12:00、毎週水曜日18:30～20:30 各8回  
 受講料 無料  
 運営委託 (有)ケーエムテクノロジー、(有)ウイズコーポレーション  
 参加者 256名（延べ人数）
- (m) 自立を目指す女性のためのパソコン講座（エクセル）
- 期間 平成21年9月2日（水）～11月28日（土）  
 毎週土曜日10:00～12:00、毎週水曜日18:30～20:30 各12回  
 受講料 無料  
 運営委託 (有)ケーエムテクノロジー、(有)ウイズコーポレーション  
 参加者 256名（延べ人数）
- (n) 年長者いきいきクラブ（パソコン講座）
- 日時 平成21年4月16日（木）～平成22年1月21日（木） 原則毎週木曜日  
 午前コース10:00～12:30、午後コース14:00～16:00 各全28回  
 受講料 無料（ただし、教材費別。保険料1,000円）  
 講師 四丸 美智代（(有)ウイズコーポレーション）

主催 北九州市保健福祉局  
 運営 社団法人北九州市老人クラブ連合会  
 参加者 1,013名（延べ人数）

(o) コンピューターサービス技能評価試験

期間 平成21年6月14日（日）～平成22年2月14日（日）  
 内容 表計算部門2,3級、ワープロ部門2,3級（各1回）  
 合格者 30名（受験者49名）

(p) OAルームの個人利用

利用日・時間 毎週水曜日・金曜日14:00～16:00、毎週土曜日13:00～18:00  
 利用料金 2時間300円  
 参加者 1,028名（延べ人数）

③ 生活実験・生活技術講座

男女の性別役割分担意識にとらわれずに、生活面でのあらゆる分野で学習、研究することにより、その技術の習得を図った。

(a) いまどきママのリフレッシュ講座

期間 第1期 平成21年6月4日（木）～平成21年7月9日（木）  
 第2期 平成21年9月3日（木）～平成21年10月15日（木）  
 第3期 平成21年11月5日（木）～平成21年12月10日（木）  
 第4期 平成22年1月7日（木）～平成22年2月18日（木）各期全5回  
 時間 10:00～12:30  
 受講料 3,000円（材料費含）  
 参加者 266名（延べ人数）

(b) 父と子の食育講座

期間 平成21年8月25日（火）～平成22年1月30日（土）  
 6回  
 参加費 各回大人1,000円、子ども500円、  
 母親（会食のみ）500円  
 共催 NPO法人男女・子育て環境改善研究所  
 参加者 181名（延べ人数）



父と子の食育講座

(c) ムーブの創作工房 体験講座

期間 平成21年5月13日（水）～平成21年3月3日（水） 9講座11回  
 内容 木工教室、草木染め、シルバーアクセサリー教室、手織り教室  
 受講料 2,200円～4,500円（材料費含む。）  
 参加者 141名（延べ人数）

(d) 工芸室の個人利用

利用日 各月概ね第2,3,4水曜日 9:30～17:00  
 利用料 2時間300円  
 参加者 44名（延べ人数）

(2) 市民活動支援・連携事業

さまざまな活動を行っている団体やグループの情報交換、交流を促進し、ネットワーク化を図ることによって、男女共同参画センターを利用する個人、団体、グループが相互に新たな発見をし、男女共同参画社会の形成を目指すための自主的・創造的な活動ができるよう支援・連携して事業を展開

① ムーブサポーター事業

(a) サポーター総会

日時 平成21年4月18日（土） 10:00～12:00

参加者 42名

(b) 託児サポーター支援講座

日時 平成21年11月4日（水）～平成21年11月19日（木） 3講座4回

参加者 77名（延べ人数）

(c) ムーブサポーター わっしょい百万夏まつり参加

日時 平成21年8月2日（日） 19:20～20:30

参加者 80名（延べ人数）

② 市民活動支援・連携事業

(a) ファミリークリスマス in 北九州

日時 平成21年12月19日（土） 10:00～12:00

参加費 200円（一家族）

共催 NPO 法人男女・子育て環境改善研究所

参加者 260名（延べ人数）

(b) 子育てママ・パパのためのコミュニケーションセミナー

期間 平成22年2月9日（火）～平成22年3月2日（火） 全4回

参加費 1回500円

共催 NPO 法人GGP ジェンダー・地球市民企画

参加者 56名（延べ人数）

(3) リプロダクティブ・ヘルス／ライツ事業

女性の多様な活動を支えるために、心と身体の健康を家族や職場など日常生活の中で、自分の力を維持増進できるように、技術と知識の習得の機会を提供する「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」に関する講座等を開催

(a) 目指せ！美腰体操でカラダ美人！

日時 平成22年3月14日（日） 10:30～12:15

受講料 300円

講師 Ayu（美腰スタイリスト、薬剤師）

参加者 151名（延べ人数）

(b) 実践編！美腰体操でカラダ美人！

日時 平成22年3月23日（火）

①13:30～14:30 ②15:00～16:00

受講料 500円

講師 Ayu（美腰スタイリスト、薬剤師）

参加者 83名（延べ人数）



目指せ！美腰体操でカラダ美人！

## (c) マタニティエアロビクス

期 間 第1期 平成21年5月12日（火）～6月9日（火）  
 第2期 平成21年8月18日（火）～9月15日（火）  
 第3期 平成21年11月10日（火）～12月15日（火）  
 第4期 平成22年1月19日（火）～2月16日（火） 各期全5回

時 間 13：00～15：30  
 受講料 4,000円  
 参加者 246名（延べ人数）

## (d) フィットネスルームの個人利用

利用時間 毎週水・金曜日9:30～21:30 毎週日・月曜日9:30～17:00  
 利用料金 2時間300円  
 参加者 8,220名（延べ人数）

## (4) ムーブフェスタ2009

「男女共同参画一心をつなぐ・夢をつなぐ・未来へつなぐ」をテーマとし、市民の自主的な研究・実践活動を積極的に支援する市民企画事業を中心に、ミュージカル、イベント等の事業を行った。また、ムーブフェスタ期間中の総合案内、環境整備、受付業務、事業運営等については、イベントサポーター延べ137人の協力をいただいた。

期 間 平成21年7月4日（土）～平成21年7月31日（金）  
 参加者 73,846名（うち男性 17,909名）

## ① 主催事業

## (a) オープニングイベント ムーブミュージカル『扉（ドア）の向こうに』

日 時 平成21年7月4日（土）  
 13：00～15：00（開会行事含む）、18：30～20：00

作・演出 大塚 恵美子（劇団「夢の工場」座長）  
 音楽・演奏 山根 浩志、原田 耕平

出演者 21名（うち市民オーディションによる選出16名）  
 入場料 一般券500円、ファミリー券1,000円  
 参加者 982名（延べ人数）



ムーブミュージカル  
『扉（ドア）の向こうに』

## (b) あなたとわたしをつなぐ詩（うた）

日 時 平成21年7月12日（日） 10：00～15：00

イベント 音楽・ダンスの部 チアフル、北九州市立  
 高等学校ダンス部、Caps & Hats  
 トークの部 村仲 ともみ（タレント）  
 中島 俊介（北九州市立大学教授）  
 三行詩表彰（応募総数373作品）

参加者 460名（延べ人数）



「あなたとわたしをつなぐ詩（うた）」  
トークの部

## (c) 知ってなっ得！防犯教室

日 時 平成21年7月18日（土） 13:00～14:00

講 師 野田 憲治（防犯整備士）  
 浅田 清之（小倉北警察署生活安全課防犯係長 警部補）

参加者 125名（延べ人数）

(d) 第12回 ジェンダー問題調査・研究公開報告会

日 時 平成21年7月18日(土) 13:00～15:00

テーマ 北九州市の学校経営への女性参画モデルの構築に関する実証的研究

研究者 九州大学自治体行政研究会 代表 楊 川 共同研究者 元兼 正浩

コメンテーター 森 邦昭(福岡女子大学文学部教授)

参加者 56名

(e) ブックリサイクル

期 間 平成21年7月4日(土)～平成21年7月31日(金)

配布冊数 1,206冊

② 市民企画事業

期 間 平成21年7月4日(土)～7月31日(金)

総事業数 112

イベント 62事業

サマーカーニバル 14事業

フリーマーケット 36事業

参加者 37,911名(延べ人数)

(5) 相談事業

① 各種相談

\* ( ) 内は男性からの相談件数で内数

区 分	電話相談件数	面接相談件数	合 計	
一般相談	2,459 (187) 件	238 (6) 件	2,697 (193) 件	3,315 (228) 件
人権侵害相談	273 (29) 件	88 (4) 件	361 (33) 件	
就労応援相談	24 (1) 件	85 (0) 件	109 (1) 件	
法律相談	—	148 (1) 件	148 (1) 件	

② 講座等

(a) 女性のための法律基礎講座

期 間 平成21年5月16日(土)～平成22年2月20日(土)

14:00～16:00 全4回

講 師 小倉 知子、原田 美紀(弁護士)

参加者 69名(延べ人数)

(b) 男性のための法律基礎講座

日 時 平成21年9月5日(土)及び10月17日(土) 14:00～16:00 全2回

講 師 緒方 剛、河原 一雅(弁護士)

参加者 24名(延べ人数)

(c) 女性への暴力ゼロ運動特別講座「あなたは大丈夫? ストーカー対策について知ろう」

日 時 平成21年11月21日(土) 14:00～16:00

講 師 矢野 直子、門司 裕樹(小倉北警察署警察官)、小倉知子(弁護士)

参加者 16名

## (d) 対人援助者セミナー「思春期の心の問題とその支援」

日 時 平成22年2月21日(日) 13:30～16:00  
 講 師 水島広子(水島広子こころの健康クリニック院長)  
 参加者 85名

## ③ ホットライン

## (a) 女性への人権侵害ゼロ！ホットライン

日 時 平成21年6月23日(火) 10:00～17:00  
 共 催 福岡県弁護士会  
 参加者 25名

## (b) 女性への暴力ゼロ！ホットライン

日 時 平成21年11月24日(火) 10:00～17:00  
 共 催 福岡県弁護士会  
 参加者 13名

## ④ 自助グループへの支援

支援内容 会場提供、ロッカーの提供、託児、グループ運営上のアドバイス等  
 グループ数 4  
 参加者 307名(延べ人数)

## ⑤ パネル展示等啓発

## (a) パネル展示

## (i) 「男女雇用機会均等月間」「男女共同参画週間」におけるパネル展示

期 間 平成21年6月1日(月)～6月30日(月)

## (ii) パネル展示『デートDVについて知ろう！』

期 間 平成21年8月1日(土)～8月31日(月)

## (iii) 女性への暴力ゼロ運動 パネル展示

期 間 平成21年11月12日(木)～11月30日(月)

## (b) 福岡県内男女共同参画センター共同DVキャンペーン(啓発チラシ等配布)

日 時 平成21年11月13日(金) 16:00～16:30

## (c) 「デートDVについて知ろう！」啓発カード作成・配布

発行数 150,000部

## 2 情報業務

男女共同参画社会の実現に向けて、ジェンダー問題に関する国内外の図書・資料や団体情報等の収集・提供を行った。

また、ジェンダー問題の解決に向けての方向性を探り、活動へとつなげていくための調査・研究や女性差別撤廃条約の普及・啓発に取り組んだ。

### (1) 情報収集提供事業

#### ① 図書・資料等の収集・提供

ジェンダーに関する専門書を中心に、行政資料、雑誌、ミニコミ誌、児童書、ビデオ、DVD等の収集・提供の充実を図った。

(a) 図書等所蔵数 図書47,054冊（雑誌、行政資料等を除く。）、ビデオ504本、DVD117本

（平成22年3月31日現在）

(b) 図書貸出冊数 25,965冊

(c) 図書情報「ムーブブック」の発行 第6号、第7号

(d) お話し会 親子を対象に紙芝居や絵本の読み聞かせを実施（2回）

#### ② ジェンダー関連情報の収集・提供

情報システム「ムーブネット」により団体情報等の収集・提供を行った。

（平成22年3月31日現在 人材情報161件、団体・グループ情報220件）

#### ③ ホームページ等による情報の提供

ホームページやムーブメール（登録者数400人）で施設情報や講座・イベント情報などの最新情報を提供した。

#### ④ 図書情報サポーター活動

新聞切り抜き（クリッピング）の分類整理・情報提供

#### ⑤ ブックリサイクル 1,206冊（再掲）

### (2) 調査研究事業

#### ① ジェンダー問題調査・研究支援事業

(a) ジェンダー問題の解決に向けて自主的に調査・研究する市民グループ・研究者等を支援するため、その調査・研究費の一部を1組に助成し、平成21年3月末に報告書を発行した。

テーマ 「男女共同参画社会の実現に向けた北九州市における放課後児童クラブの生活環境整備に関する研究」

研究グループ 福岡住教育研究会

#### (b) 第12回ジェンダー問題調査・研究公開報告会（再掲）

平成20年度調査・研究グループ等による報告会を開催

#### ② ジェンダーに関する「ムーブ叢書」の発行（平成22年3月末）

『ムーブ叢書 ジェンダー白書7 KEKKON結婚—女と男の諸事情』を明石書店から出版

#### ③ 男女共同参画に関する市民参加型事業

ムーブミュージカル『扉（ドア）の向こうに』上演（再掲）

#### ④ 女子差別撤廃条約の普及・啓発

平成10年度に行った「女子差別撤廃条約名訳コンクール」の最優秀賞作品のパネルの貸出を行い、女子差別撤廃条約の普及・啓発を行った。（パネル貸し出し 5件）



『ムーブ叢書ジェンダー白書7 KEKKON 結婚—女と男の諸事情』

## (3) 広報事業

- ① 情報誌「ムービング」、月刊ムーブの発行
  - (a) 情報誌「ムービング」 年4回、10,000部/回
  - (b) 月刊ムーブ 月1回、3,000部/回
- ② 書誌情報誌「カッティング・エッジ」の発行  
ジェンダー問題に関する最新の包括的な情報を発信するための書誌情報誌を発行した。  
(年4回、3,000部/回)



【ムービング】

## (4) その他

- ① 書籍・CD等販売 106件
- ② ムーブ著作物の他センター情報誌等への掲載許可 6件



【カッティング・エッジ】

## 3 施設管理業務

北九州市立男女共同参画センターの施設の充実を図り、円滑な管理運営に努めるとともに、施設の貸出、視察の受入れ、講師派遣等を行った。

## (1) 施設維持管理業務

安全・安心の観点から、施設・設備の定期的な保守点検や計画的な補修等を行った。

## (2) 貸室業務

平成21年度貸室利用者数 166,775名（前年度169,849名）

## (3) その他

- ① 講師派遣  
講師派遣件数 22件
- ② 視察受け入れ  
他都市、各種団体等の視察の受け入れを行った。  
22団体252名（うち海外3団体64名）

## 北九州市立男女共同参画センター自主事業特別会計事業

- (1) 男女共同参画講座
- (2) 女性起業家支援塾、ムーブ就活塾
- (3) パソコン講座
- (4) エンパワーメントの語学講座（英語、中国語、ハンデル）
- (5) 生活技術講座（父と子の食育講座、いまどきママのリフレッシュ講座等）
- (6) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ事業（目指せ！美腰体操でカラダ美人！等）

## 北九州市大手町ビル維持管理事業特別会計事業

北九州市大手町ビル（北九州市男女共同参画センター以外）の施設管理及び入居団体との連絡・調整にあたった。

平成21年度 北九州市立男女共同参画センター利用状況

(平成21年4月～平成22年3月)

区分 室名	開所日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)	利用人員(人)						
				主催事業 (男性内数)	貸室利用 (男性内数)	総利用者数 (男性内数)	貸室利用 (男性内数)	主催事業 (男性内数)	総利用者数 (男性内数)	
ホール	333	220	66.1	9,152	2,929	37,255	14,295	46,407	17,224	
大セミナールーム	343	220	64.1	2,888	457	17,051	6,370	19,939	6,827	
小セミナールーム	343	266	77.6	1,179	172	9,075	3,616	10,254	3,788	
企画ルーム1	343	312	91.0	651	13	4,210	1,119	4,861	1,132	
企画ルーム2	343	315	91.8	843	140	3,092	872	3,935	1,012	
料理室	343	140	40.8	699	198	1,562	243	2,261	441	
和室(茶室兼備)	343	272	79.3	337	94	3,972	751	4,309	845	
茶室(立礼形式)	343	85	24.8	71	5	531	149	602	154	
フィットネスルーム	専用	343	283	82.5	984	126	1,411	33	2,395	159
	個人				8,220	2,467	—	—	8,220	2,467
	小計				9,204	2,593	1,411	33	10,615	2,626
工芸室	専用	343	196	57.1	852	214	1,788	199	2,640	413
	個人				44	2	—	—	44	2
	小計				896	216	1,788	199	2,684	415
OALルーム	専用	343	241	70.3	4,536	427	0	0	4,536	427
	個人				1,028	133	—	—	1,028	133
	小計				5,564	560	0	0	5,564	560
グループ活動室	343	327	95.3	443	50	7,031	1,012	7,474	1,062	
こどもの部屋	343	211	61.5	1,802	656	62	24	1,864	680	
交流広場	343	343	100.0	44,465	10,712	79,735	22,612	124,200	33,324	
相談室	—	—	—	5,667	963	—	—	5,667	963	
図書・情報室	—	—	—	26,666	4,439	—	—	26,666	4,439	
合計	—	—	—	110,527	24,197	166,775	51,295	277,302	75,492	

男性利用率 27.2%

(参考) 前年度(H20.4月～H21.3月) 291,678人 (内男性 78,078人) (男性利用率 26.8%)

内訳 { 主催 121,829人 (内男性 25,475人)  
貸室 169,849人 (内男性 52,603人) }

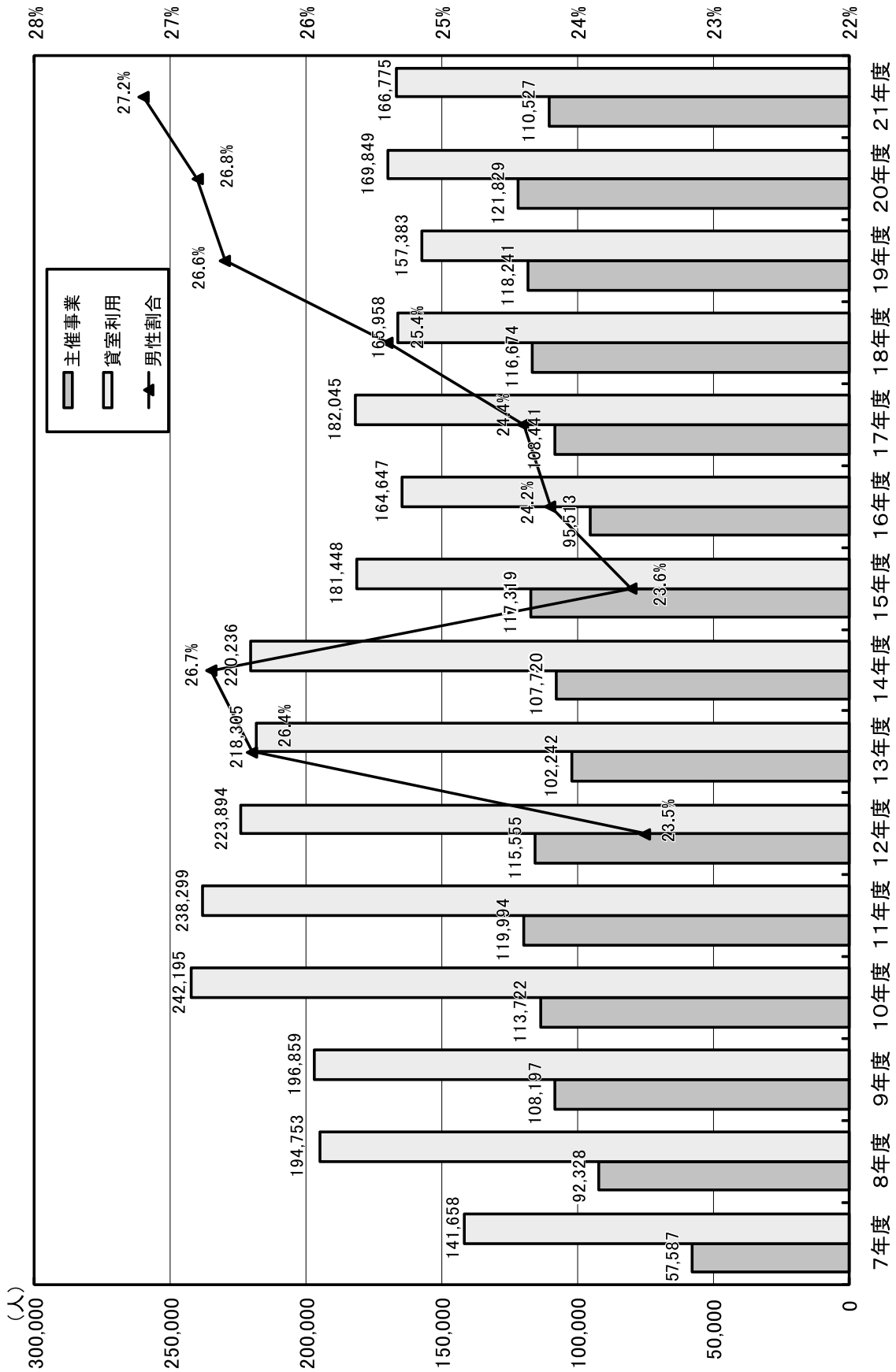
開所からの利用者累計(H7.7～H22.3月) 4,470,193人

講師派遣参加者数・視察受入数(外数)

	H21年度累計 (H21.4月～H22.3月)		前年度累計 (H20.4月～H21.3月)	
	件数	人数	件数	人数
講師派遣参加者数	22件	1,635人	30件	1,880人
視察受入数(国内)	19件	188人	20件	125人
視察受入数(海外)	3件	64人		
合計	44件	1,887人	50件	2,005人

※ セクシュアルハラスメント防止研修、男女共同参画講演等講師派遣

利用者数の推移



# 財 務 諸 表

# 平成21年度収支計算書 総括表

(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	国際研修 特別会計	デートDVの予防 啓蒙に関する ニーズ調査事業 特別会計	北九州市立男女 共同参画セン ター管理運営 特別会計	北九州市立男女 共同参画セン ター自主事業 特別会計	北九州市大手町 ビル維持管理 事業特別会計
I 事業活動収支の部							
1. 事業活動収入							
①基本財産運用収入	4,084,739	4,084,739	0	0	0	0	0
②会費収入	790,500	790,500	0	0	0	0	0
③事業収入	231,090	210,090	21,000	0	0	0	0
④自主事業費収入	9,980,461	0	0	0	0	9,980,461	0
⑤委託料収入	8,054,684	0	8,054,684	0	0	0	0
⑥北九州市委託金収入	266,672,500	0	0	997,500	231,509,000	0	34,166,000
⑦補助金等収入	66,846,000	66,846,000	0	0	0	0	0
⑧寄付金収入	0	0	0	0	0	0	0
⑨雑収入	89,229	88,309	920	0	0	0	0
⑩他会計からの繰入金収入	1,190,090	1,190,090	0	0	0	0	0
事業活動収入計	357,939,293	73,209,728	8,076,604	997,500	231,509,000	9,980,461	34,166,000
2. 事業活動支出							
①調査研究事業費支出	19,115,214	19,115,214	0	0	0	0	0
②交流・研修事業費支出	11,949,211	11,949,211	0	0	0	0	0
③情報収集・発信事業費支出	9,076,498	9,076,498	0	0	0	0	0
④管理費支出	30,316,006	30,316,006	0	0	0	0	0
⑤国際研修事業支出	6,569,877	0	6,569,877	0	0	0	0
⑥デートDVの予防啓蒙に関するニーズ調査事業支出	759,105	0	0	759,105	0	0	0
⑦男女共同参画センター管理運営業務支出	221,137,200	0	0	0	221,137,200	0	0
⑧男女共同参画センター受益者負担金支出	8,152,663	0	0	0	0	8,152,663	0
⑨大手町ビル維持管理事業支出	31,403,180	0	0	0	0	0	31,403,180
⑩返還金支出	12,751,462	0	555,032	0	9,433,610	0	2,762,820
⑪補助金返還支出	6,609,530	6,609,530	0	0	0	0	0
⑫他会計への繰入金支出	1,190,090	0	951,695	238,395	0	0	0
事業活動支出計	359,030,036	77,066,459	8,076,604	997,500	230,570,810	8,152,663	34,166,000
事業活動収支差額	△ 1,090,743	△ 3,856,731	0	0	938,190	1,827,798	0
II 投資活動収支の部							
1. 投資活動収入							
投資活動収入計	0	0	0	0	0	0	0
2. 投資活動支出							
①特定資産取得支出	262,000	262,000	0	0	0	0	0
②固定資産取得支出	938,190	0	0	0	938,190	0	0
③その他支出	0	0	0	0	0	0	0
投資活動支出計	1,200,190	262,000	0	0	938,190	0	0
投資活動収支差額	△ 1,200,190	△ 262,000	0	0	△ 938,190	0	0
III 財務活動収支の部							
1. 財務活動収入							
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出							
財務活動支出計	0	0	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0
当期収支差額	△ 2,290,933	△ 4,118,731	0	0	0	1,827,798	0
前期繰越収支差額	11,329,180	7,979,654	0	0	0	3,349,526	0
次期繰越収支差額	9,038,247	3,860,923	0	0	0	5,177,324	0

# 正味財産増減計算書 総括表

(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	国際研修 特別会計	デートDVの予 防啓発に関する ニーズ調査事 業特別会計	北九州市立男 女共同参画セン ター管理運営 特別会計	北九州市立男 女共同参画セン ター自主事業 特別会計	北九州市大手 町ビル維持管 理事業特別会 計
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	4,084,739	4,084,739	0	0	0	0	0
受取会費	790,500	790,500	0	0	0	0	0
事業収益	231,090	210,090	21,000	0	0	0	0
自主事業費収益	9,980,461	0	0	0	0	9,980,461	0
委託料収益	8,054,684	0	8,054,684	0	0	0	0
北九州市委託金収益	266,672,500	0	0	997,500	231,509,000	0	0
受取補助金等	66,846,000	66,846,000	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	89,229	88,309	920	0	0	0	0
他会計からの繰入額	1,190,090	1,190,090	0	0	0	0	0
経常収益計	357,939,293	73,209,728	8,076,604	997,500	231,509,000	9,980,461	34,166,000
(2) 経常費用							
調査研究事業費	19,115,214	19,115,214	0	0	0	0	0
交流・研修事業費	11,949,211	11,949,211	0	0	0	0	0
情報収集・発信事業費	9,076,498	9,076,498	0	0	0	0	0
管理費	31,004,040	31,004,040	0	0	0	0	0
国際研修事業費	6,569,877	0	6,569,877	0	0	0	0
デートDVの予防啓発に関するニーズ調査事業費	759,105	0	0	759,105	0	0	0
男女共同参画センター管理運営業務費	222,404,995	0	0	0	222,404,995	0	0
男女共同参画センター受益者負担金	8,162,678	0	0	0	0	8,162,678	0
大手町ビル維持管理事業費	31,403,180	0	0	0	0	0	31,403,180
返還金支出	12,751,462	0	555,032	0	9,433,610	0	2,762,820
補助金返還	6,609,530	6,609,530	0	0	0	0	0
他会計への繰出額	1,190,090	0	951,695	238,395	0	0	0
経常費用計	360,995,880	77,754,493	8,076,604	997,500	231,838,605	8,162,678	34,166,000
当期経常増減額	△ 3,056,587	△ 4,544,765	0	0	△ 329,605	1,817,783	0
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,056,587	△ 4,544,765	0	0	△ 329,605	1,817,783	0
一般正味財産期首残高	22,205,889	16,256,686	0	0	2,549,592	3,399,611	0
一般正味財産期末残高	19,149,302	11,711,921	0	0	2,219,987	5,217,394	0
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	323,166,095	323,166,095	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	323,166,095	323,166,095	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	342,315,397	334,878,016	0	0	2,219,987	5,217,394	0

貸借対照表総括表  
(平成21年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	国際研修 特別会計	デートDVの予防 啓発に関する ニーズ調査事業 特別会計	北九州市立男女 共同参画センター 管理運営 特別会計	北九州市立男女 共同参画センター 自主事業 特別会計	北九州市大手町 ビル維持管理事 業特別会計	内部取引消去
I 資産の部								
1. 流動資産								
流動資産合計	55,719,219	14,818,656	1,164,573	997,500	36,706,349	6,082,608	6,338,529	10,388,996
2. 固定資産								
(1) 基本財産								
基本財産合計	329,245,773	329,245,773	0	0	0	0	0	0
(2) 特定資産								
特定資産合計	1,010,000	1,010,000	0	0	0	0	0	0
(3) その他の固定資産								
その他の固定資産合計	4,031,377	1,771,320	0	0	2,219,987	40,070	0	0
固定資産合計	334,287,150	332,027,093	0	0	2,219,987	40,070	0	0
資 産 合 計	390,006,369	346,845,749	1,164,573	997,500	38,926,336	6,122,678	6,338,529	10,388,996
負債の部								
1. 流動負債								
流動負債合計	46,680,972	10,957,733	1,164,573	997,500	36,706,349	905,284	6,338,529	10,388,996
2. 固定負債								
固定負債合計	1,010,000	1,010,000	0	0	0	0	0	0
負 債 合 計	47,690,972	11,967,733	1,164,573	997,500	36,706,349	905,284	6,338,529	10,388,996
III 正味財産の部								
1. 指定正味財産								
指定正味財産合計	323,166,095	323,166,095	0	0	0	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	( 323,166,095 )	( 323,166,095 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )
2. 一般正味財産								
一般正味財産合計	19,149,302	11,711,921	0	0	2,219,987	5,217,394	0	0
(うち基本財産への充当額)	( 6,079,678 )	( 6,079,678 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )
(うち特定資産への充当額)	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )
正味財産合計	342,315,397	334,878,016	0	0	2,219,987	5,217,394	0	0
負債及び正味財産合計	390,006,369	346,845,749	1,164,573	997,500	38,926,336	6,122,678	6,338,529	10,388,996

## 財務諸表に対する注記総括表

平成 22 年 3 月 31 日現在

### 1 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法  
満期保有目的債権・・・取得価額
- (2) 固定資産の減価償却の方法  
車両運搬具・・・定率法によっている。  
什器備品・・・定率法によっている。  
無形固定資産・・・定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準  
退職給付引当金  
期末退職給与の要支給額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税の会計処理は、税込方式によっている。

### 2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	299,950,000	0	0	299,950,000
定期預金	29,295,773	0	0	29,295,773
小計	329,245,773	0	0	329,245,773
特定資産				
退職給付引当資産	748,000	262,000	0	1,010,000
小計	748,000	262,000	0	1,010,000
合計	329,993,773	262,000	0	330,255,773

### 3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
投資有価証券	299,950,000	299,950,000	0	—
定期預金	29,295,773	23,216,095	6,079,678	—
小計	329,245,773	323,166,095	6,079,678	—
特定資産				
退職給付引当資産	1,010,000	0	0	1,010,000
小計	1,010,000	0	0	1,010,000
合計	330,255,773	323,166,095	6,079,678	1,010,000

### 4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
その他の固定資産			
車両運搬具	1,700,000	1,699,998	2
什器備品	13,425,465	9,934,090	3,491,375
合計	15,125,465	11,634,088	3,491,377

### 5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価及び評価損益は次のとおりである。

(単位：円)

科目	帳簿価格	時価	評価損益
投資有価証券			
共同発行市場公募地方債	199,900,000		
大阪府公債	100,000		
北九州市債	99,950,000	101,905,600	1,955,600
合計	299,950,000	101,905,600	1,955,600

### 6 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
市補助金		300,000,000	—	—	300,000,000	指定正味財産
受取市補助金	北九州市	—	66,846,000	66,846,000	0	
合計		543,557,000	66,846,000	0	300,000,000	

# 資 料

## 財団法人アジア女性交流・研究フォーラムの歩み

- 1989年 8月23日 北九州市の「自ら考え自ら行う地域づくり事業（ふるさと創生事業）」として「アジアの女性の研究・研修システム（仮称）アジア女性フォーラム」が101の案の中から選定される。
- 11月 1日 アジア女性フォーラム（仮称）の基本構想について検討し、総合的な提言を得るため、北九州市長の私的諮問機関として、元労働省婦人少年局長高橋久子氏を委員長とする「アジア女性フォーラム基本構想委員会」が設置される。
- 12月26日 基本構想委員会が、組織の正式名称を「アジア女性交流・研究フォーラム」とすることを提言し、名称が決定する。
- 1990年 1月19日 東京ドームで開催された「ふるさと創生展」において、アジア女性交流・研究フォーラムの目指す事業が、マルチスライドを使って紹介される。
- ～21日
- 2月11日 北九州市の7区に組織されている「女性会議実行委員会」の主催により、アジア女性交流・研究フォーラムの設立気運を盛り上げるため、各区においてシンポジウム・交流会・展示会・講演会等「アジア女性フォーラム各区イベント」が開催される。
- ～3月24日
- 3月30日 基本構想委員会が「アジア女性交流・研究フォーラム基本構想」を北九州市長に提言する。
- 3月31日 「'90アジア国際シンポジウム」（テーマ：アジア・女性・未来～共に考え共に歩もう）を開催する。
- 6月～9月 第1回アジアセミナーを開催する。（以後毎年開催）
- 7月 5日 アジア女性交流・研究フォーラムのより具体的な活動について検討するため、北九州市長の私的諮問機関として、「アジア女性交流・研究フォーラム懇談会」が設置される。
- 7月23日 アジア女性交流・研究フォーラム提言をもとに基本構想が策定される。
- 10月20日 **アジア女性交流・研究フォーラム設立**（理事長 高橋久子）
- 10月20日 アジア女性交流・研究フォーラムの設立を記念して、伊東すみ子東京高等裁判所判事を講師として、「国際社会における女性の役割」をテーマに講演会を開催する。
- 10月 共同研究事業「開発が女性と家族に与える影響」が開始される。
- 1991年 3月 9日 「第1回アジア女性会議—北九州」（テーマ：アジアと女性の今）を開催する。
- ～10日 （以後毎年開催）
- 3月 情報誌『Asian Breeze』創刊
- 4月 プロジェクト研究事業が開始される。
- 5月 海外通信員制度始まる。（以後毎年実施）
- 12月 1日 「第2回アジア女性会議—北九州」（テーマ：政策決定における女性）を開催する。
- ～2日
- 1992年 3月18日 「第1回女性の地位向上のための行政官セミナー」（JICAの委託事業）を開催する。
- ～27日 （以後毎年開催）
- 7月24日 1993年10月を目標に財団法人化を図るため、基本財産積み立てのための募金活動を行う募金委員会が理事等の役員を中心に発足し、募金活動を開始する。
- 11月13日 「第3回アジア女性会議—北九州」（テーマ：環境と開発と女性）を開催する。
- ～15日

- 11月24日 国連婦人開発基金（ユニフェム）の活動を支援するための組織として、ユニフェム日本国内委員会を国際婦人年連絡会および財団法人横浜女性協会とともに設立し、その正会員となる。
- 1993年3月 『アジア女性シリーズ』第1号が発刊される。（中国）
- 5月 「国際理解のための教材ビデオ」制作事業を開始する。
- 9月17日 財団法人アジア女性交流・研究フォーラム設立発起人会を開催する。
- 9月22日 労働省より、財団法人としての設立を許可される。
- 10月1日 **財団法人アジア女性交流・研究フォーラム設立**（理事長 高橋久子）
- 11月19日 「第4回アジア女性会議—北九州」（テーマ：地球の未来と人口）を開催する。
- ～21日
- 1994年2月8日 高橋久子理事長が最高裁判所判事就任のため理事長を辞任する。三隅佳子専務理事が理事長代行となる。
- 4月 共同研究事業「アジアの働く女性シリーズ」を開始する。
- 9月1日 第1回海外通信員セミナーを開催する。
- ～8日
- 11月18日 「第5回アジア女性会議—北九州」（テーマ：女性と家族）を開催する。
- ～20日
- 1995年4月1日 北九州市から北九州市立女性センターの管理運営業務の委託を受ける。
- 6月15日 事務所を北九州市大手町ビルに移す。
- 6月22日 第2代理事長に奥田八二氏就任する。
- 7月1日 北九州市立女性センターのオープニングイベントを開催する。
- ～8日
- 9月4日 国連婦人の地位委員会のオブザーバー参加資格を得る。国連第4回世界女性会議にオブザーバー参加する。また、NGOフォーラムにも参加し、ワークショップを開催する。
- ～11日
- 11月17日 「第6回アジア女性会議—北九州」（テーマ：女性と労働）を開催する。
- ～19日
- 1996年2月16日 「第1回環境と開発と女性セミナー」（JICAの委託事業）を開催する（以後毎年開催）
- ～3月21日
- 11月15日 「第7回アジア女性会議—北九州」（テーマ：女性とメディア）を開催する。
- ～17日
- 1997年1月 ホームページを開設する。
- 4月1日 三隅佳子専務理事が理事長代行となる。
- 9月22日 「客員研究員制度」を設置する。
- 11月7日 「第8回アジア女性会議—北九州」（テーマ：女性と教育）を開催する。
- ～9日
- 1998年3月24日 第3代理事長に高橋久子氏就任する。
- 6月 「国際協力カレッジ」を開催する。
- 10月10日 財団設立5周年記念事業を実施する。

11月7日 ～8日	「第9回アジア女性会議—北九州」（テーマ：ジェンダーの視点の主流化（メインストリーム）をめざして）を開催する。
12月12日 ～13日	地球市民教育地域セミナーを開催する。
1999年4月12日	「ジャパン・ソサエティ地方政治・公共政策フェロシップ事業」を実施する。
9月	「フォーラム懇話会」を実施する。
10月17日 ～31日	「女性起業家支援塾」（北九州市立女性センターの委託事業）を開催する。
11月6日 ～7日	「第10回アジア女性会議—北九州」（テーマ：男女共同参画の世紀を拓く～女性2000年会議とその後～）を開催する。
2000年1月9日 ～15日	「女性起業家スタディツアー」（アメリカ サンフランシスコ）を実施する。
6月5日 ～9日	国連特別総会「女性2000年会議—21世紀に向けての男女平等・開発・平和」にオブザーバーとして参加する。
6月5日 ～8日	「女性2000年会議」に関連したNGOのシンポジウム「北京+5 グローバルフェミニストシンポジウム（アメリカ ニューヨーク）」に参加する。またワークショップを開催する。
9月3日	北九州市で開催された「アジア・太平洋環境大臣会議」の関連事業として「アジア・太平洋環境女性会議」を開催
11月	自治大臣表彰「世界に開かれたまちづくり」を受賞
12月28日	理事長制から会長制へ移行、その他諸規定についての寄附行為変更が認可される。
2001年2月25日 ～3月5日	「環境問題を考えるスタディツアー（マレーシア）」を実施する。
4月1日	原ひろ子氏が初代会長に、第4代理事長に三隅佳子氏が、前理事長の高橋久子氏が顧問に、それぞれ就任する。
7月26日 ～28日	「持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD）北東アジア準備会合及びマルチステークホルダー会合（中国 北京）」に参加する。
7月～9月	北九州博覧祭2001の関連事業を実施する。 ・JICA 研修員による報告「世界から日本へ！日本から未来へ」 ・渥美雅子弁護士男女共同参画型講談「山内さんちのパートナーシップ」
9月12日 ～16日	「第1回北東アジア女性環境会議（韓国 ソウル）」に参加する。
10月6日 ～7日	「第12回アジア女性会議—北九州」（テーマ：自分らしく健康に生きる～ジェンダーを超えて）を開催する。
11月24日 ～12月1日	「持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD）に向けてのハイレベル地域会合及び持続可能な開発に関するアジア太平洋ラウンドテーブル（カンボジア プノンペン）」に参加する。
11月28日 ～12月2日	「アフガニスタン女性と子どもの写真展」とアフガニスタンセミナーPart 1を開催する。
2002年1月18日	環境シリーズセミナー「リオ+10 ヨハネスブルグ・サミットにむけて世界の準備状況」を開催する。

- 2月9日 北九州市と東京で「円卓会議：持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）に向けて」を開催する。
- ～17日
- 3月1日 第46回国連女性の地位委員会（CSW）（アメリカ ニューヨーク）に参加する。
- ～10日
- 3月22日 アフガニスタンセミナーPart2 を開催する。
- 3月23日 「WSSD第3回準備会合（アメリカ ニューヨーク）」に参加する。
- ～4月5日
- 3月25日 「環境問題を考えるスタディツアー（中国、韓国）」を実施する。
- ～30日
- 4月1日 北九州市立女性センターの名称を北九州市立男女共同参画センターに変更する。
- 7月 国連経済社会理事会のNGO 協議資格を九州で初めて取得した。
- 7月31日 国際協力事業団（JICA）国際協力功労者表彰を受賞した。
- 8月23日 「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）に参加（フォーラムの主任研究員は日本政府代表の顧問を務めた）し、各国女性NGOとワークショップを開催した。
- ～9月5日
- 10月12日 日本・中国・韓国・モンゴルからの女性環境活動家が集い、「第2回北東アジア女性環境会議」を北九州市と東京で開催した。
- ・14日
- 2003年3月2日 第47回国連女性の地位委員会（CSW）（アメリカ ニューヨーク）に参加する。
- ～16日
- 3月16日 第3回世界水フォーラム（京都、滋賀、大阪）に参加する。
- ～21日
- 5月 「国際協力カレッジ」から名称を変更した「KFAWカレッジ」を開催する。
- 5月17日 北九州市女性史の編纂を行うため北九州市女性史編纂実行委員会の設立に参画した。
- 10月11日 財団設立10周年記念事業を実施した。
- 12日 「第14回アジア女性会議—北九州」（テーマ：女性のエンパワーメントとICT）を開催する。
- 2004年2月26日 第48回国連女性の地位委員会（CSW）（アメリカ ニューヨーク）に参加する。
- ～3月13日
- 6月29日 「アジア太平洋NGOフォーラム」参加スタディツアー（タイ バンコク）を実施する。
- ～7月4日
- 9月7日 国連アジア太平洋経済社会委員会ハイレベル会議（タイ バンコク）に参加する。
- ～10日
- 11月6日 「第15回アジア女性会議—北九州」（テーマ：北京+10に向けて 人間の安性保障とジェンダー）を開催する。
- ～7日
- 2005年2月28日 第49回国連女性の地位委員会（CSW）「北京+10」閣僚級会合（アメリカ ニューヨーク）に参加する。
- ～3月6日
- 11月5日 「第16回アジア女性会議—北九州」（テーマ：歴史を拓いた女性たち）を開催する。
- ～6日
- 12月7日 『北九州市女性の100年史 おんなの軌跡 北九州』を発刊する。

- 2006年1月16日 「インドで考える女性や子どもの人権スタディーツアー」を実施する。  
 ～23日  
 2月27日 第50回国連女性の地位委員会（CSW）に参加する。  
 ～3月10日  
 2月19日 「ノーベル平和賞受賞者 ワンガリ・マータイさんと語る 北九州市民・環境フォーラム  
 世界の環境首都をめざして」を開催（エコライフステージ実行委員会との共催）  
 する。  
 4月1日 北九州市立男女共同参画センターの指定管理者となる。  
 9月28日 北九州ESD（持続可能な開発のための教育）協議会（44団体）が設立される。  
 10月 環境省「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」の認定を受けた。  
 10月15日 『新聞にみる北九州市女性の100年史 おんなの軌跡・北九州』を発刊する。  
 11月11日 北九州市女性史演劇「秋の三色すみれ」を上演する。  
 ～12日  
 11月18日 「第17回アジア女性会議—北九州」（テーマ：公正で豊かな未来を創る～持続可能な開発  
 ～19日 のための教育とは～）を開催する。  
 12月5日 国連大学から持続可能な開発のための教育を推進するため、北九州市が「地域の拠点  
 （RCE）」に認定される（日本で4番目）。
- 2007年2月26日 第51回国連女性の地位委員会（CSW）に参加する。  
 ～3月9日  
 3月1日 「アボリジニ女性のエンパワーメントとアートを活かしたまちづくりスタディーツアー  
 ～8日 （オーストラリア）」を実施する。  
 4月1日 原ひろ子氏が顧問に、三隅佳子氏が第2代会長に、吉崎邦子氏が第5代理事長に、それぞれ  
 就任する。  
 北九州ESD協議会の事務局となる。  
 10月12日 持続可能な開発のための教育（ESD）をテーマにスタディーツアー（韓国）を実施する。  
 ～16日  
 11月10日 「第18回アジア女性会議—北九州」（テーマ：つながる ひろがる 地球の未来）を開催する。  
 ～11日  
 12月14日 在福岡アメリカ領事館とミャンマー民主化講演会を共催する。
- 2008年2月22日 第52回国連女性の地位委員会（CSW）に参加する。  
 ～3月7日  
 3月10日 海外拠点づくりの第一歩として姉妹都市の韓国・インチョン広域市を訪問する。  
 ～12日  
 4月 KFAWアジア研究者ネットワーク立ち上げの準備をする。  
 5月26日 仁川YWCAの一行（11名）が来北する。  
 6月25日 韓国・忠清南道女性政策開発院（CWPI）主催の国際会議に参加・日本の現状を発表する。  
 9月6日 財団設立15周年記念講演会「アジア・太平洋地域の女性の現状」を実施する。  
 11月15日 CWPIと日韓国際セミナーを共同で開催する。  
 11月15日 「第19回アジア女性会議—北九州」（テーマ：地球を食べる、地球で食べる—あなたは食を  
 ～16日 通して何を考えますか？）を開催する。

- 2009年2月27日 第53回国連女性の地位委員会（CSW）に参加し、KFAW 主席研究員がサイドイベントで  
 ～3月6日 「東アジアにおけるケアネットワークの必要性」のテーマで意見発表を行う。
- 3月31日 北九州 ESD 協議会事務局が北九州市環境局に移管される。
- 4月1日 三隅佳子氏が顧問に就任する。
- 6月 ジェンダー関連研究者ネットワークのキックオフ（KFAW アジア研究者ネットワーク）。
- 8月6日 北九州YMCAとロシア・チェリャビンスク国立大学東洋学科学生一行（7名）との  
 交流プログラムを実施する。
- 8月10日 在福岡アメリカ領事館と共催でサマーセミナー「ミッシェル・オバマ；アメリカを変  
 革するファーストレディー」を開催する。
- 9月13日 第2回日韓国際セミナー「大地から食卓へ—ジェンダーの視点で食の安全を考える」  
 を開催する。
- 9月29日 北九州市・大連市友好協定30周年記念チャーター便で、大連市婦女連合会一行がムー  
 ブ（KFAW）を訪問する。
- 10月26日 在日シンガポール大使館と共催で国際セミナー「シンガポールの女性はいま」を実施  
 する。
- 11月2日 CWPDI と学術交流協定を締結する。
- 11月28日 「第20回アジア女性会議—北九州」（テーマ：現在、世界の女性たちは—北九州から  
 ～29日 世界を視る—）を開催する。
- 2010年2月26日 第54回国連女性の地位委員会（CSW）に参加する。  
 ～3月7日
- 3月1日 CSW パラレルイベントにて、韓国・忠清南道女性政策開発院（CWPDI）と共同セミナ  
 ー「女性のエンパワーメントに向けた取組みと課題～日本と韓国の経験から」を開催す  
 る。

## 刊行物一覧

### (1) 出版物

#### アジア女性研究

アジア女性研究	創刊号	アジアにおける開発と女性	1,000円 (売り切れ)
アジア女性研究	第2号	環境・開発・女性	1,000円
アジア女性研究	第3号	A 地球の未来と人口問題 B アジアの女性と人口問題	1,000円
アジア女性研究	第4号	女性と家族	1,000円
アジア女性研究	第5号	女性と労働	1,000円
アジア女性研究	第6号	女性とメディア	1,000円
アジア女性研究	第7号	女性と教育	1,000円
アジア女性研究	第8号	ジェンダーの視点の主流化をめざして	1,000円
アジア女性研究	第9号	男女共同参画の世紀を拓く	1,000円
アジア女性研究	第10号	ジェンダー主流化に向けて	1,000円 (売り切れ)
アジア女性研究	第11号	ジェンダーと健康	1,000円 (売り切れ)
アジア女性研究	第12号	持続可能な開発—ジェンダーの視点から	1,000円 (売り切れ)
アジア女性研究	第13号	ICTとジェンダー	1,000円
アジア女性研究	第14号	人間の安全保障とジェンダー	1,000円
アジア女性研究	第15号	グローバル化とジェンダー	1,000円
アジア女性研究	第16号	ジェンダーと政治 (ポリティクス)	1,000円
アジア女性研究	第17号	福祉とジェンダー	1,000円
アジア女性研究	第18号	科学とジェンダー	1,000円
アジア女性研究	第19号		非売品
アジア女性研究	別冊	アジア女性学の動向	200円

#### Journal of Asian Women's Studies

Journal of Asian Women's Studies Vol. 1	Women in Development in Asia	800円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 2	Environment, Development and Women	1,000円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 3	Population and Our Earth's Future Women's Reproductive Rights and Population Problems in Asia	1,000円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 4	Women and Family	1,000円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 5		1,000円 (売り切れ)
Journal of Asian Women's Studies Vol. 6&7		1,500円 (売り切れ)
Journal of Asian Women's Studies Vol. 8		1,000円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 9		1,000円 (売り切れ)
Journal of Asian Women's Studies Vol. 10	Women / Gender and Globalization	1,000円 (売り切れ)
Journal of Asian Women's Studies Vol. 11	Participation and Good Governance: Environmental Issues from a Gender Perspective	1,000円 (売り切れ)
Journal of Asian Women's Studies Vol. 12	Cairo+10: Reviewing Reproductive Health and Rights	1,000円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 13	ICT and Gender	1,000円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 14		1,000円

Journal of Asian Women's Studies Vol. 15	1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 16	1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 17      Welfare and Gender	1,000 円
Journal of Asian Women's Studies Vol. 18	E-Journal
<b>環境シリーズ</b>	
アジアにおける環境と女性—実践実例集—	500円
地球温暖化対策の未来	500円
ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさんと語る 北九州市民・環境フォーラム 世界の環境首都をめざして 記録	300円
「持続可能な開発のための教育」～(財)アジア女性交流・研究フォーラムの活動記録～	非売品
<b>農業女性シリーズ</b>	
アジアの農業女性のエンパワーメント—韓国と中国からの報告—	1,000円
Empowerment of Female Farmers in Asia—Korea and China—	1,500円 (売り切れ)
Empowerment of Female Farmers in Asia—Vietnam and Thailand—	1,500円
<b>アジアのドメスティック・バイオレンスシリーズ</b>	
アジアのドメスティック・バイオレンス (ハードカバー)	2,500円
アジアのドメスティック・バイオレンス (ペーパーバック)	2,000円
Domestic Violence in Asia—A Report from Korea and Cambodia—	800円
<b>アジア家族研究シリーズ</b>	
日本と韓国の家族意識の比較研究—福岡・ソウル調査を中心に—	2,000円
A Comparative Study on the Family Consciousness between Korea and Japan —Centered on Seoul and Fukuoka—	2,000円
現代タイの家族意識の研究—バンコク・ソウル・福岡調査の比較と共に—	2,000円
A Study of Family Consciousness in Contemporary Thailand —With Comparison among Bangkok, Seoul and Fukuoka—	2,000円
現代中国における都市家族の意識と生活に関する研究 —北京調査及びバンコク・ソウル・福岡との比較—	2,000円
A Study on Life and Consciousness of Contemporary Urban Family in China —A Research in Beijing with Comparison among Bangkok, Seoul and Fukuoka—	2,000円 (売り切れ)
アジアの経済発展と家族及びジェンダー	1,000円
The Influences of Economic Development upon Women and Families —Experiences in Seven Asian Countries—	2,000円
マレーシアの経済開発と家族及びジェンダー—経済危機の前夜まで—	2,000円
Effects of Socio-Economic Development on Family and Gender Relations Before Economic Crisis in Malaysia—Focusing on Kuala Lumpur—	2,000円
アジアの経済発展と家族及びジェンダー—改訂版—	1,200円

## アジアの働く女性シリーズ

パキスタンの働く女性—綿摘み女性労働者と縫製業の女性労働者—	1,000円
ベトナムの働く女性—ホーチミン市縫製工場の女性移住労働者—	1,000円
フィリピンミンダナオ北部における経済開発と女性 —開発における社会・経済ジェンダー分析 (SEGA) モデルの検証—	1,000円

## 客員研究員研究

マレーシアとシンガポールにおける女性と政治 —ナショナリズム・国家建設・ジェンダー—	1,000円
中国における社会福祉政策の展開状況に関する研究	1,000円
Globalizationの新潮流と「環境保全型経済発展の課題」 —東南アジア諸国における「中間階層」の増大との関連で—	1,000円 (売り切れ)
上海市女性高齢者生活状況に関する訪問調査	1,000円
アウンサンスーチーの思想と行動	1,000円
アウンサンスーチーの思想と行動 (ビルマ語付)	1,500円 (売り切れ)
グローバリゼーションの新潮流と環境保全型経済発展の課題 —東南アジア諸国の事例で—	1,000円
ミャンマーにおける女性の地位	1,000円
インドにおける生涯にわたる健康とジェンダー	1,000円
インドの経済開発と再生可能エネルギー利用—女性の社会的役割の増大する中で—	1,000円
女性労働者の非正規化に関する日韓比較 —労働市場と女性政策、職場のジェンダー構造化の分析—	非売品
「法」・「貧困」・「ジェンダー」：法多元主義と正義へのアクセス	非売品
フィリピンとミャンマーにおける、若者および女性を対象とした HIV/AIDS対策に関する調査研究	非売品
「権利をよりどころにするアプローチ」の展開とアジアの女性のエンパワメント	非売品 (*)
大連市に進出の日本企業における現地採用女性従業員の労働実態と企業の社会的責任	非売品 (*)
表現アートセラピーを応用したリサーチ手法の可能性 —人身売買被害者の「<ほんもの>の語り」—	非売品 (*)
東北アジアにおけるジェンダー予算の動向—日本、韓国、台湾を事例として	非売品 (*)
中央アジア諸国におけるコミュニティ研究—ジェンダーの視点から— (ウズベキスタン、タジキスタン、カザフスタン、キルギスの事例より)	非売品 (*)
自治体の入札・契約におけるポジティブ・アクション評価による男女共同参画推進に 関する比較研究	非売品 (*)
東南アジアから東アジアへの国際移動と再生産労働の変容 —韓国・台湾・日本の比較研究—	非売品 (*)
内戦・津波被害下の子どもの健康 —スリランカ、トリンコマレ県の実態調査に見る性差—	非売品 (*)

(\*) KFAWのホームページ上で公開。

### 起業家シリーズ

私の起業体験—きたきゅうしゅう・ふくおかの女性起業家たち—	1,000円
アジアの女性起業家	1,000円
Women Entrepreneurs in Selected Asian Countries	1,000円

### アジア女性シリーズ

No. 1 「中国の女性」	1,000円
No. 2 「スリランカの女性」	1,000円
No. 3 「インドネシアの女性」	1,000円
No. 4 「韓国の女性」	1,000円
No. 5 「フィリピンの女性」	1,000円
No. 6 「バングラデシュの女性」	1,000円
No. 7 「ベトナムの女性」	1,000円
No. 8 「タイの女性」	1,000円
No. 9 「中国の女性 (改訂版)」	1,000円
No. 10 「シンガポールの女性」	1,000円
No. 11 「マレーシアの女性」	1,000円
No. 12 「インドの女性」	1,000円

### 海外通信員レポート集

Vol. 1 (1991-1992)	500円
Vol. 2 (1992-1993) 「家族教育と女性」	800円 (売り切れ)
Vol. 3 (1993-1994) 「教育と女性」	800円
Vol. 4 (1994-1995) 「女性と家族」	800円
Vol. 5 (1995-1996) 「女性と労働」	800円
Vol. 6 (1996-1997) 「女性とエンパワーメント」	800円
Vol. 7 (1997-1998) 「女性とエンパワーメント」	800円
Vol. 8 (1998-1999) 「女性と起業家」	800円
Vol. 9 (1999-2000) 「高齢者と子ども」	800円
Vol. 10 (2000-2001) 「環境と女性」	800円
Vol. 11 (2001-2002) 「健康と女性」	非売品

### 中間階層の研究シリーズ

現代フィリピンにおける「中間階層」の研究	1,000円
現代タイにおける「中間階層」の研究	1,000円
現代インドネシアにおける「中間階層」の研究	1,000円
現代マレーシアにおける「中間階層」の研究	1,000円
現代シンガポールにおける「中間階層」の研究	1,000円
東南アジアにおける「中間階層」の研究	1,000円

## その他

Princess Sunflower	1,500円
--------------------	--------

### (2) ビデオ

国際理解のための教材ビデオ (解説書つき)	ライブラリー価格10,000円	通常価格
中国の子どもたち/スリランカのサボミちゃん		3,000円 (売り切れ)
素顔の韓国/ほほ笑みの国・タイ		3,000円 (売り切れ)
インドネシアの子どもたち/共に生きるアジアの隣人		3,000円 (売り切れ)
陽気なフィリピンの子どもたち/手と手を結ぼう		3,000円
こんにちはマレーシアの子どもたち/マレーシアってどんな国?		3,000円
多文化社会の子どもたち/オーストラリアってどんな国?		3,500円
シンチャオ こんにちはベトナム/ベトナムの子どもたち—いちばん大切なものはなに?—		3,500円

※全て税込価格です。

出版物、ビデオを郵送する場合、送料が別途かかります。

海外とのネットワーク 104カ国 2地域 961人 (2010年3月末まで)

合計	961
国 (104)	950
地域 (2)	11

<b>アジア 24カ国</b>		<b>669</b>
1	イスラエル国	1
2	インド	53
3	インドネシア共和国	50
4	ウズベキスタン共和国	1
5	カンボジア王国	21
6	キプロス共和国	1
7	シンガポール共和国	29
8	スリランカ民主社会民主共和国	32
9	タイ王国	65
10	大韓民国	62
11	中華人民共和国	75
	(うち香港特別行政区)	4
12	ネパール王国	40
13	パキスタン・イスラム共和国	32
14	バングラデシュ人民共和国	41
15	東ティモール民主共和国	1
16	フィリピン共和国	81
17	ブータン王国	2
18	ブルネイ・ダルサラーム国	2
19	ベトナム社会主義共和国	18
20	マレーシア	34
21	ミャンマー連邦	7
22	モルディブ共和国	3
23	モンゴル国	11
24	ラオス人民民主共和国	7
<b>北米 3カ国</b>		<b>69</b>
1	アメリカ合衆国	63
2	カナダ	4
3	ハイチ共和国	2
<b>中南米 14カ国</b>		<b>39</b>
1	ウルグアイ東方共和国	6
2	コスタリカ共和国	2
3	コロンビア共和国	1
4	ジャマイカ	1
5	スリナム共和国	3
6	セントルシア	1
7	チリ共和国	4
8	ニカラグア共和国	1
9	パナマ共和国	3
10	パラグアイ共和国	1
11	ブラジル連邦共和国	4
12	ペルー共和国	6
13	ホンジュラス共和国	1
14	メキシコ合衆国	5
<b>欧州 (NIS諸国を含む) 16カ国</b>		<b>34</b>
1	英国 (グレート・ブリテン及び北アイルランド連合王国)	7
2	イタリア共和国	2
3	オランダ王国	3
4	キルギス共和国	2
5	クロアチア共和国	1
6	コソボ	1
7	タジキスタン共和国	2
8	チェコ共和国	1
9	デンマーク王国	1
10	ドイツ連邦共和国	2

11	ノルウェー王国	1
12	フィンランド共和国	2
13	ボスニア・ヘルツェゴビナ	5
14	ポルトガル共和国	1
15	マケドニア旧ユーゴスラビア共和国	1
16	ロシア連邦	2
<b>大洋州 8カ国</b>		<b>45</b>
1	オーストラリア連邦	17
2	サモア独立国	2
3	ソロモン諸島	1
4	パプアニューギニア独立国	13
5	パラオ共和国	1
6	バヌアツ共和国	2
7	フィジー諸島共和国	8
8	ミクロネシア連邦	1
<b>中東 7カ国</b>		<b>25</b>
1	アフガニスタン	5
2	イエメン共和国	2
3	イラク共和国	1
4	イラン・イスラム共和国	3
5	シリア・アラブ共和国	1
6	トルコ共和国	5
7	ヨルダン・ハシミテ王国	8
<b>アフリカ 32カ国</b>		<b>69</b>
1	アルジェリア民主人民共和国	1
2	ウガンダ共和国	4
3	エジプト=アラブ共和国	1
4	エリトリア国	1
5	ガーナ共和国	4
6	ガボン共和国	1
7	カメルーン共和国	2
8	ケニア共和国	9
9	コートジボワール共和国	3
10	コンゴ共和国	1
11	コンゴ民主共和国 (旧ザイール)	2
12	サントメ・プリンシペ民主共和国	1
13	ザンビア共和国	3
14	ジンバブエ共和国	2
15	スワジランド王国	1
16	赤道ギニア	1
17	セネガル共和国	1
18	タンザニア連合共和国	4
19	チャド共和国	2
20	中央アフリカ共和国	1
21	ナイジェリア連邦共和国	4
22	ニジェール共和国	4
23	ブルキナファソ	2
24	ブルンジ共和国	1
25	ベナン共和国	1
26	ボツワナ共和国	1
27	マダガスカル共和国	1
28	マラウイ共和国	5
29	マリ共和国	2
30	南アフリカ共和国	1
31	モーリシャス共和国	1
32	モーリタニア・イスラム共和国	1
<b>地域 2地域</b>		<b>11</b>
1	イギリス領ヴァージン諸島	1
2	台湾	10



**ANNUAL REPORT**  
**April 2009 – March 2010**

**Kitakyushu Forum on Asian Women**  
**(KFAW)**

# Table of Contents

## Overview of Kitakyushu Forum on Asian Women (KFAW)

Establishment Prospectus .....	60
Mission .....	61
Activities .....	61
Organization .....	61
Number of Staff .....	62
Members of the Management Team .....	62
Management and Operations .....	64

## Main Projects in the Fiscal Year 2009

General Accounting Projects .....	69
Survey and Research Projects .....	70
Exchange and Training Projects .....	74
Information Exchange Projects .....	78
Management Projects .....	81
Special Account Projects .....	82
Special Account for International Training Projects .....	83
Special Account for a Needs Assessment on Education to Prevent Dating Violence .....	84
Special Account for Managing and Operating the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center .....	84
Special Account for Independent Projects of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center ..	98
Special Account for Maintenance and Management of the Kitakyushu Otemachi Building .....	98
Use of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center, MOVE .....	99

## Financial Statements

Summary Table of Changes in Net Worth .....	102
Summary Table of Revenues and Expenditures .....	103
Balance Sheet .....	104
Summary Table of Footnotes for Financial Statements .....	105

## Documentation

History of Kitakyushu Forum on Asian Women (KFAW) .....	107
List of Publications .....	117
Overseas Networks .....	122
Location and Facilities .....	123

# **Overview of the Kitakyushu Forum on Asian Women (KFAW)**

## Establishment Prospectus

In the international community today, efforts are under way on a global scale to realize world peace and enhance the well-being of humankind.

During the United Nations Decade for Women following the International Women's Year in 1975, global scale activities to advance the status of women were vigorously carried out with the goals of creating "equality, development and peace," based on the idea that a nation's overall development and the welfare and peace of the world require social participation by both men and women in all areas. Today, however, many problems remain to be solved when it comes to advancing the actual status of women. Therefore, the spirit of the United Nations Decade for Women has been carried forward to the present, and all over the world efforts are under way in line with the Nairobi Forward-looking Strategies for the Advancement of Women, adopted with the target year of 2000 at the Nairobi Conference in 1985.

When talking about women's issues, we refer to various forms of disadvantages and inequalities that befall women simply because of their gender. Women's issues therefore concern basic human rights and human dignity. In this sense, women's issues affect not only women, but society as a whole. Women's issues are universal. From such a standpoint, there is a need to reform the current state of society in which women's views may rarely be reflected into one that strongly encourages joint participation by both sexes. In developing countries, the promotion of national development and women's participation in such development have become issues of great importance.

In recognition of the significance of women's issues, and based on various activities carried out since the International Women's Year, the Kitakyushu Forum on Asian Women (KFAW) commenced its activities with The Hometown Revitalization Plan of the City of Kitakyushu.<sup>1</sup> Since then, KFAW has been conducting research, collecting and disseminating information on women's issues in Japan and the rest of Asia, offering training programs for human resource development in developing countries, and organizing international exchange programs to promote mutual understanding. KFAW, thus, has assumed a central role in advancing the status of women and promoting solidarity and development in the Asian region.

As interdependency in the international community grows stronger, and Japan's role therein becomes increasingly important, we must deepen our awareness of the mission and significance of KFAW and its activities. Accordingly, KFAW has become a foundation with an objective to further improve activities, clarify the meaning of women's issues in Japanese society, and contribute to the advancement of the status of women in Asia, as well as achieve the goals of the International Women's Year: "Equality, Development and Peace" (quoted from the KFAW charter which was drawn up in 1993).

---

<sup>1</sup> In 1989, a national project, *Furusato-osei* (Hometown Revitalization Project), was implemented in all municipalities. For this project, the City of Kitakyushu committed to provide ¥100 million to establish KFAW.

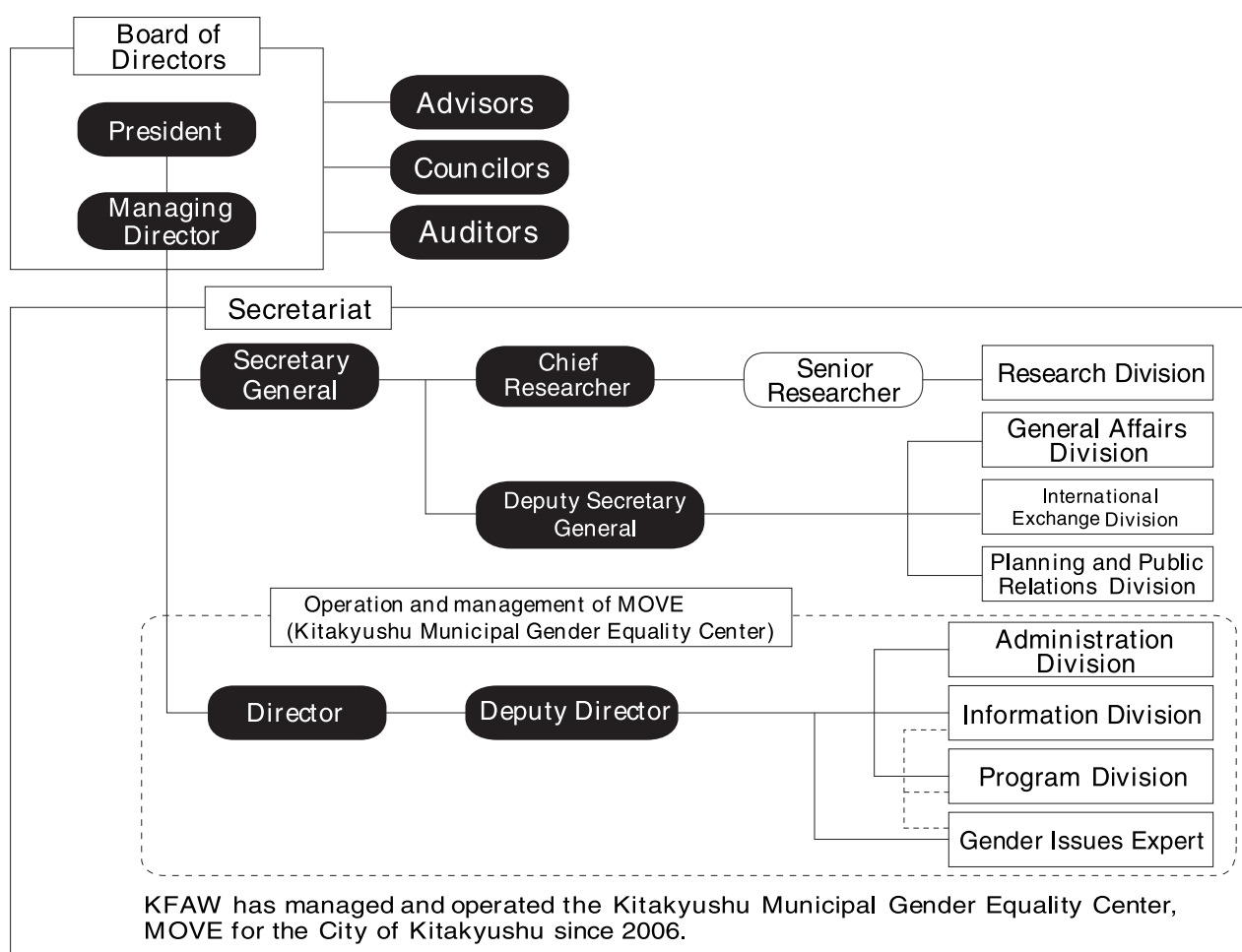
## Mission

KFAW aims to promote a gender-equal society, improve the status of women and develop women's solidarity through research projects and international exchange programs on women's issues in Japan and other Asian countries, and contribute to the achievement of the goals of the International Women's Year: "Equality, Development and Peace."

## Activities

- (1) Conducts surveys and research projects on various aspects of gender and gender equality
- (2) Organizes international exchange programs and seminars on various aspects of gender and gender equality
- (3) Collects and disseminates information on various aspects of gender and gender equality
- (4) Carries out the management and administration of the Municipal Gender Equality Center
- (5) Conducts other projects to achieve the mission of this foundation

## Organization



KFAW has managed and operated the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center, MOVE for the City of Kitakyushu since 2006.

## Number of Staff

Division	Head *2	Secretary General of the Secretariat *3	General Manager	Director	Staff	Total
City officials (Secondment)		1	2	5	1	9
MOVE staff* <sup>1</sup>		0	1	2	0	3
Permanent staff				1	0	1
MOVE staff* <sup>1</sup>				0	0	0
Temporary staff	1		1	1	19	22
MOVE staff* <sup>1</sup>	1		0	1	16	18

※1. Staff engage in managing and operating the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE).

※2. The President also holds the post of Head, Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE).

※3. The Managing Director also holds the post of Secretary General of the Secretariat.

## Members of the Management Team

As of FY 2009

### President

Kuniko Yoshizaki

President, Kitakyushu Forum on Asian Women

### Managing Director

Hirofumi Nagaoka

Executive Director, Child and Domestic Affairs Bureau, City of Kitakyushu

### Directors

Mihoko Ejiri

Professor Emeritus, Tsuda College

Emiko Ohgiya

Vice-chair, Society of Women Managers of Public Schools in Kitakyushu

Kenichirou Ogawa

Chief Executive Officer, Kitakyushu YMCA

Yoshihiko Kido

President, Council of Kitakyushu Parents and Teachers Associations

Yuki Kubota

Committee Member, Kitakyushu Board of Education

Masahiro Kobayashi

Managing Director, Kyushu International Center (JICA)

Yukihiro Shiga

Deputy Mayor, City of Kitakyushu

Stephanie A. Weston

Professor, Fukuoka University

Keiko Tamura

Professor, The University of Kitakyushu

Kaname Tsutsumi

President, NPO Asia Women's Center

Tomoko Doi

Chair, Council of Women's Groups of Kitakyushu

Yoshiko Tomiyasu

Representative, Kitakyushu Women's Association for a Better Aging Society

Toshiko Hirata

Fourth Term Chair, Kitakyushu Municipal Gender Equality Deliberative Council

Sakiko Fujioka	Honorary President, UNIFEM Kitakyushu Honorary President, Kitakyushu Association of Nursery & Kindergarten Teachers
Mitsuko Horiuchi	Visiting Professor, Bunkyo-Gakuin University
Toshifumi Yada	President, The University of Kitakyushu
Tatsuru Yamada	Director General, NHK Kitakyushu

#### Auditors

Hisaharu Isobe	Managing Director and Kitakyushu Administrative Headquarters Executive General Manager, The Bank of Fukuoka, Ltd.
Kenji Kato	Chief Executive, Accounting Office, City of Kitakyushu

#### Advisors

Wataru Aso	Governor, Fukuoka Prefecture
Kenji Kitahashi	Mayor, City of Kitakyushu
Hisako Takahashi	Former President of KFAW Former Justice of the Supreme Court
Hiroko Hara	Former Chair of KFAW
Yoshiko Misumi	Former Chair of KFAW

#### Councilors

Takeshi Ikuyama	Manager, Human Resources and Career Development Division, Yaskawa Electric Corporation
Chiyoko Ikedome	Vice-Chair, Kitakyushu Federation of Women's Organizations
Yasuhiko Ishimaru	General Manager, General Affairs Department, TOTO Ltd.
Junko Ishimoto	President, Soroptimist International of Kitakyushu-Nishi
Teruaki Ushiro	President, Higashichikushi Gakuen Educational Foundation
Katsurako Uto	Director, International Women's Research Society (Ms. Wing)
Atsuko Okajima	Director General, Gender Equality Bureau, Cabinet Office
Keiko Ogawara	President, Soroptimist International of Kitakyushu-Higashi
Takuji Ono	President, Kitakyushi Junior Chamber, Inc.
Misako Kato	President, Kitakyushu Liaison Council of Women's Groups
Michiko Kanda	President, National Women's Education Center, Japan
Katsuki Goto	President, Kyushu International University
Teruo Shimomura	President, Kyushu Institute of Technology
Kimiko Shimoyama	Chief Secretary, Kitakyushu Foundation of Women's Organizations
Hidehiko Tanimura	Director, The International Centre for the Study of East Asian Development
Ichiro Teranishi	Branch Manager, Mizuho Bank, Ltd.
Hiroko Toyokawa	President, Kitakyushu Ms. 21 Committee Alumni Association
Hiroko Nakamura	Former President, Zonta Club of Kitakyushu
Masako Hanasaki	President, National Federation of Business and Professional Women's Club of Japan, Kitakyushu Club
Keiko Higuchi	Literary critic, Representative Secretary General, NPO Women's Association for a Better Aging Society

Nobuo Fukuda	Director, Kitakyushu Chamber of Commerce and Industry
Shinji Fujimoto	Bureau Chief, NPO Kitakyushu Association of Promoting Healthy Housing
Keiko Matsui	President, Soroptimist International of Kitakyushu-Minami
Sawako Matsumura	Executive Director, Council of Women's Groups of Kitakyushu
Mitsuko Yamaguchi	Executive Director, Fusae Ichikawa Memorial Association
Nobuyuki Yamasaki	President, Kyushu Women's University
Keiko Yoshimura	President, Soroptimist International of Kitakyushu

## Management and Operations

### 1. Board of Directors Meeting

#### 1<sup>st</sup> Board of Directors Meeting

Date	May 27 (Wednesday), 2009 13:45 -15:35
Venue	Kitakyushu Municipal Gender Equality Center, MOVE
Number of Participants	19 persons (Including seven by proxy)
Agenda	Election of councilors Partial revision of working regulations Report on completed projects and closing accounts for FY 2008
Result of Meeting	All agenda items were approved.

#### 2<sup>nd</sup> Board of Directors Meeting

Date	March 30 (Tuesday), 2010 13:45-14:55
Venue	Kitakyushu Municipal Gender Equality Center, MOVE
Number of Participants	19 persons (Including seven by proxy)
Agenda	Election of councilors Report on executive decisions for partial revisions to staff salary regulations Partial revision of applicable regulations Establishment of a special account for a "Needs Assessment on Education to Prevent Dating Violence" Operational plan and budget for FY 2010 Establishment of an evaluation committee
Result of Meeting	All agenda items were approved

### 2. Board of Councilors Meetings

#### 1<sup>st</sup> Board of Councilors Meeting

Date	May 27 (Wednesday), 2009 13:30-15:35
Venue	Kitakyushu Municipal Gender Equality Center, MOVE
Number of Participants	25 persons (Including 12 by proxy)
Agenda	Election of auditors Partial revision of working regulations Report on completed projects and closing accounts for FY 2008
Result of Meeting	All agenda items were approved.

2<sup>nd</sup> Board of Councilors Meeting

Date	March 30 (Tuesday), 2010 13:30-14:55
Venue	Kitakyushu Municipal Gender Equality Center, MOVE
Number of Participants	24 persons (Including 11 by proxy)
Agenda	Election of directors Report on executive decisions for partial revisions to staff salary regulations Partial revision of applicable regulations Establishment of a special account for a “Needs Assessment on Education to Prevent Dating Violence” Operational plan and budget for FY 2010 Establishment of evaluation committee
Result of Meeting	All agenda items were approved.

# **Main Projects in Fiscal Year 2009**

Established in 1990 and approved as a foundation by the Ministry of Labour (currently the Ministry of Health, Labour and Welfare) in 1993, the Kitakyushu Forum on Asian Women (KFAW) has developed various activities to achieve “equality, development and peace,” which have been the goals for advancing the status of women since the International Women’s Year.

It has been 30 years since the adoption of the United Nations Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women (CEDAW). At the 20<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women, a keynote address and panel discussion of experts from Japan and abroad were held on the theme of the CEDAW, which offered a broad-range of Kitakyushu’s residents the opportunity to learn about the actions taken at the global level to realize a gender equal society.

KFAW concluded a Memorandum of Understanding on academic exchange with the Chungcheongnam-do Women’s Policy Development Institute (CWPD), as part of the development of overseas focal points which has been included in the KFAW’s Revision Plan, and jointly organized a seminar with CWPD in New York, U.S.A.

## **Projects and Activities under General Accounting**

### *Survey and Research Projects*

As part of the KFAW Revision Plan, three new projects were developed (creation of a network of researchers on gender, program development, and a think tank project), in addition to current projects (survey and research projects, research by visiting researchers, and publication of research journals). Through the existing and new project activities, KFAW aims to develop a network of researchers and strengthen the survey and research division, and share the outputs of research with various organizations and people.

### *Exchange and Training Projects*

KFAW organized the 20<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women. The focus of this year’s conference was on the Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women, with a keynote address by Ms. Agnes Chan and a panel discussion of experts on the Convention as highlights of the conference.

### *Information Exchange Projects*

KFAW published its newsletter, *Asian Breeze*, and carried out the foreign correspondents’ program in its efforts to collect and disseminate information primarily on countries in the Asia-Pacific region. Former overseas correspondents were invited to Japan to speak with Kitakyushu’s residents and deliver presentations on the status of women in their countries. In addition, KFAW also carried out cooperation with related institutes and organizations to organize seminars and exchange programs on the topic of gender equality in advanced countries.

## **Projects and Activities under Special Accounting**

### *Special Account for International Training Projects*

Commissioned by the Japan International Cooperation Agency (JICA), KFAW organized an international training program, the 8<sup>th</sup> Seminar on Gender Mainstreaming Policies for Government Officers, in summer and winter.

*Special Account for a Needs Assessment on Education to Prevent Dating Violence*

Commissioned by the Gender Equality Promotion Department of the Child and Domestic Affairs Bureau of the City of Kitakyushu, KFAW developed a questionnaire and conducted surveys of school personnel in the city's schools in order to gather basic materials to study policies to educate young people about dating violence. By gaining an understanding of the current situation facing young people, KFAW identified effective methods to educate people on preventing dating violence. The results of this survey are one of the outputs of the think tank project.

*Special Account for the Management and Operation of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center*

KFAW managed and operated the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE) on behalf of the City of Kitakyushu.

*Special Account for Independent Projects of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center*

KFAW carried out benefit assessments and utilized subsidies to conduct projects to form a gender-equal society and improve individual ability.

*Special Account for the Maintenance and Management of the Kitakyushu Otemachi Building*

KFAW managed the Kitakyushu Otemachi Building with the exception of floors occupied by the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE).

# **General Accounting Projects**

## Survey and Research Projects

### 1. Survey and Research Projects

#### (1) Program Development

Research meetings and seminars were organized on education to prevent dating violence to develop a program that includes educational and teaching materials. Classes on preventing dating violence were held at two high schools in Kitakyushu city.

#### Content

Times	Date and Time	Theme and Lecturers
1	August 9, 2009 (Sunday) 13:00-16:30 (Participants: 31)	<p>“Do You Know About Dating Violence?”</p> <p>Coordinator: Ms. Yoshiko Tomiyasu, Representative, Kitakyushu Women’s Association for a Better Aging Society</p> <p>Lecturers</p> <p>“What is Dating Violence?” Ms. Yuki Kubota, Professor, Kyushu Sangyo University ; Maple Leaf Association</p> <p>“About the Dating Violence Prevention Program” Ms. Keiko Nakata, Representative, DV Prevention Nagasaki</p>
2	November 10, 2009 (Tuesday) 18:00-20:00 (Participants: 37)	<p>“Effective Techniques and Practices to Prevent Dating Violence”</p> <p>Lecturer Ms. Noriko Yamaguchi, Founder of Aware</p>
3	March 16, 2010 (Tuesday) (Participants: 198)	<p>Dating Violence Prevention Education Class at Kokuranishi High School (Fukuoka Prefecture)</p> <p>Lecturers Ms. Yuki Kubota, Professor, Kyushu Sangyo University ; Maple Leaf Association Ms. Kumie Kamohara, Maple Leaf Association</p>
4	March 17, 2010 (Wednesday) (Participants: 69)	<p>Dating Violence Education Class at Wakamatsu Business High School (Fukuoka Prefecture)</p> <p>Lecturers Ms. Masami Shinozaki, Chief Researcher KFAW Professor, The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing Ms. Yoshiko Tomiyasu, Representative, Kitakyushu Women’s Association for a Better Aging Society</p>

(2) Think Tank Project

① KFAW carried out public relation activities such as visits to neighboring municipalities with populations of 100,000 people or more in order to be commissioned for studies and policy planning on gender equality and gender issues.

② As a result, KFAW was commissioned by the Gender Equality Promotion Department of the Child and Domestic Affairs Bureau of the City of Kitakyushu to carry out a “Needs Assessment on Education to Prevent Dating Violence” (special account project).

(3) Survey and Research Activities

① Fieldwork was conducted in the states of Kerala (September 16 - 24) and Andhra Pradesh (September 26 - October 7), India on the topic of “Empowerment of Asian Women.” The visit to Kerala was made by three researchers (Ms. Masako Ota, Senior Researcher of KFAW, Ms. Noriko Hattori, Associate Professor of Hyogo University of Teacher Education as the head of the project, Ms. Tomoko Nasukawa, Professor of Hyogo University of Teacher Education), as part of the research project, “Comprehensive Study on Female Education and Women’s Life Course in South Asia” which was funded by the Grant-in-Aid for Scientific Research under Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Government of Japan. The results of the study were presented at the 20<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women and a seminar on “Come on! India Fans,” and were published in *Ajia Jyosei Kenkyu* Vol. 19.

② Seminars were organized to provide latest information and knowledge on Asian women (coordinated by Ms. Masako Ota, KFAW Senior Researcher).

(a) “Come on! India Fans” (18:30-20:00, December 9, 2009) (21 participants)

“The Tibetan Government-in-Exile and Tibetans in Exile in Dharamsala, India”

Ms. Keiko Tamura, Professor, The University of Kitakyushu

“The Caste System: Brahman (the priestly class of the highest ranking) in Difficulties”

“Indians Living Outside India”

Ms. Yukari Izumi, Co-Director, Ganesha Materials and Environment Links LLP

“Eco-Business by Women in Gujarat state”

“Kerala, a Special State in India: Its Education Level on Par with Developed Countries”

Ms. Masako Ota, Senior Researcher, KFAW

(b) “Talking about Gender with UK and Australian Researchers” (18:30-20:00 February 1, 2010)

(31 participants)

“International Marriage in Japan Seen from the Perspective of Gender”

Ms. Beverley Anne Yamamoto, Full-time Instructor, Graduate School of Human Sciences,  
Osaka University

“Work and Lifestyles of Australian Women—Currently and Examples”

Ms. Laura Dales, Assistant Professor, Discipline Group of Asian Studies, University of Western  
Australia/Guest Researcher, Graduate School of Human Sciences, Osaka University

- (c) “What Is Korea Doing about its Dwindling Birthrate?” (18:30-20:00, February 9, 2010) (47 participants)  
 Ms. Kyung Sook Kim, President, Chungcheongnam-do Women’s Policy Development Institute  
 Mr. Heon Joo Suh, Research Fellow, Chungcheongnam-do Women’s Policy Development Institute

③ “Education for Sustainable Development: A Report on Activities of the Kitakyushu Forum on Asian Women” (Japanese) was published as a result of various activities conducted by KFAW which was the secretariat of the Kitakyushu ESD Council for three years (2006/07 - 2008/09).

## 2. Development of the KFAW Asian Researchers Network

KFAW has established the KFAW Asian Researchers Network with the aim of developing a broad network of researchers on gender in Kitakyushu, neighboring municipalities and Asia. KFAW has played a central role in promoting gender studies in the region, by providing researchers with opportunities for conducting research projects and presenting the results, and by sharing the results with people in the region.

- (1) Period: June 2009-March 2010  
 (2) Times: 8  
 (3) Participants: 204  
 (4) Contents:

Times	Date and Time	Theme and Lecturers
1	June 23, 2009 (Tuesday) 18:00-19:15 (Participants: 34)	“Benazir and Chia: Two Asian Women I Met” Lecturer: Ms. Etsuko Kita, President, The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing
2	July 15, 2009 (Wednesday) 18:00-20:00 (Participants: 12)	“Residence Problems for Senior Citizens in Yahatanishi Ward” Lecturer: Mr. Harumichi Yuasa, Vice President, Kyushu International University
3	September 13, 2009 (Sunday) 13:00-15:30 (Participants: 40)	“From the Earth to the Dining Table: Let’s Think About Food Safety from a Gender Perspective” Coordinator: Ms. Masami Shiozaki, Chief Researcher, KFAW Professor, The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing Panelists: Ms. Fusako Tsukamoto, Local Farmer Ms. Sachiko Tabara, President, Green Co-op Fukuoka Ms. Kiyoko Oishi, Kitakyushu Diet Improvement Instructor’s Committee Ms. Kyong Ja Min, Former Researcher, Chungcheongnam-Do Women’s Policy Development Institute

4	October 14, 2009 (Wednesday) 18:30-20:00 (Participants: 10)	“Nurses and Nursing Education in Modern-Day Taiwan: From a Gender Perspective” Lecturer: Ms. Seiko Miyazaki, Associate Professor, Department of Humanities, Faculty of Literature, Fukuoka Women’s University
5	January 19, 2010 (Tuesday) 18:00-19:30 (Participants: 22)	“Transnational Migration and Gender in Southeast Asia” Lecturer: Ms. Keiko Tamura, Professor, The University of Kitakyushu
6	March 10, 2010 (Tuesday) 18:00-19:30 (Participants: 8)	“Autonomy and Gender in Raising Children: Joint Authority and Joint Custody” Lecturer: Ms. Shizuyo Kawashima, Professor, The University of Kitakyushu

### 3. Visiting Researchers

KFAW invited visiting researchers 2009/10 to enhance its research activities.

Ms. Reiko Ogawa, Associate Professor, Kyushu University Asia Center

“Transnational Migration from Southeast Asia to East Asia and the Transformation of Reproductive Labor”

Ms. Ikuko Seki, Professor, The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

“The Child Health under Conflict and Disaster Condition in Sri Lanka: Differences between Boys and Girls”

#### Activities

June 2009	Organization of visiting researchers meeting
November 2009	Presentations on research projects at the 20 <sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women
March 2010	Publication of reports in <i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 19
March 2010	Submission of reports on the research projects

### 4. Publication of Journals

KFAW published two journals in Japanese, *Ajia Josei Kenkyu* Vol. 19 and a supplementary volume of *Ajia Josei Kenkyu* on Trends in Women’s Studies in Asia. The volume 19 includes the reports on KFAW researchers’ research projects and activities conducted by Research Division. The *Journal of Asian Women’s Studies* (JAWS) Vol. 18 (in English) includes the summaries of the presentations by KFAW researchers at the 20<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women and a paper on the nursing care insurance system by a German researcher. It was published as an E-journal on KFAW’s website.

<i>Ajia Josei Kenkyu</i> (Japanese), Vol. 19	600 copies published in March 2010
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> (Japanese), Supplementary volume on Trends in Asian Women’s Studies	200 copies published in March 2010
<i>Journal of Asian Women’s Studies</i> , Vol.18	E-journal published in March 2010

## Exchange and Training Projects

### 1. The 20<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women

#### (1) Outline

The 20<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women, an international meeting to link Kitakyushu and other parts of Asia, was held over a period of two days from November 28 (Saturday) to 29 (Sunday), 2009 in the City of Kitakyushu under the theme of “Women Now in the World: Viewing the World from Kitakyushu.”

With the United Nations adoption of the Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women thirty years ago, KFAW applied a focus on the Convention in FY 2009 with a keynote address by Agnes Chan, ambassador of the Japan Committee for UNICEF, on the topic of “Women Now in the World: Actions to Promote a Gender-Equal Society and Future Prospects.”

Following the keynote address, a panel discussion was held with the participation of experts on the Convention from Japan and abroad.

On the second day of the conference, a symposium on the prevention of domestic violence was organized jointly with UNIFEM Kitakyushu as a meeting to report research output by KFAW in-house and visiting researchers.

There were 715 participants at the conference.

#### (2) Keynote Address

Theme “Women Now in the World: Actions to Promote a Gender-Equal Society and the Future Prospects”

Speaker Ms. Agnes Chan (Singer, essayist)

#### (3) Panel Discussion

Theme “The Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women (CEDAW) and Japan’s Role in the International Community”

Coordinator Yasuko Yamashita (Professor, Bunkyo Gakuin University; President, Japanese Association of International Women’s Rights)

Panelists Ms. Agnes Chan (Singer, essayist)

Ms. Yonsook Lee (Member of the Board, Korean Association of University Women; Advisor, UN Association of Korea)

Mr. Kaku Sechiyama (Professor, Graduate School of Art and Science, University of Tokyo)

Ms. Yoshiko Misumi (Advisor, KFAW)

#### (4) Reports on KFAW Research Activities

“Achievements and Challenges in Promotion of Female Education: A Case of Kerala, India”

Ms. Masako Ota (Senior Researcher, KFAW)

“The Child Health under Conflict and Disaster Condition in Sri Lanka from the Point of View of Gender”

Ms. Ikuko Seki (Visiting Researcher, KFAW; Professor, The Japanese Red Cross Kyushu International

College of Nursing)

Ms. Naomi Imamura (Co-researcher, KFAW; Graduate student, The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing)

“Transnational Migration from Southeast Asia to East Asia and Transformation of Re-productive Labor”

Ms. Reiko Ogawa (Visiting Researcher, KFAW; Associate Professor, Kyushu University Asia Center)

Mr. Frank Tsen-Yung Wang (Co-researcher, KFAW; Associate Professor, Institute of Health and Welfare Policy, National Yang Ming University)

Ms. Hsiao Chun, Hannah, Liu (Co-researcher, KFAW; Assistant Professor, Department of Social Work, College of Human Ecology, Shin Chien University)

#### (5) Symposium

Theme “Symposium on the Elimination of Domestic Violence: What You Have to Do Now!!”  
(Co-organized by KFAW and UNIFEM Kitakyushu)

Keynote address “DV: Relationship between Love and Violence”, Piano performance  
Mr. Kazuyuki Kusayanagi (Director & Counselor, Mental Service Center)

Panel Discussion Ms. Masami Shinozaki (Chief Researcher, KFAW)  
Mr. Kazuyuki Kusayanagi (Director & Counselor, Mental Service Center)  
Ms. Yukiko Tsunoda (Lawyer)  
Mr. Kenichi Hara (Director, Saga Prefecture Domestic Violence Prevention and Advisory Center)

#### (6) Publication of Report

KFAW published the conference proceedings in a “Report on the 20<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women.”

## 2. Seminar on Gender and Development

### (1) Organization of International Seminar on Women in Singapore Now

KFAW co-hosted a lecture with the Embassy of the Republic of Singapore and invited the spouse of the Singapore Ambassador to Japan to speak about the current status of women in Singapore today and her own experiences in raising two children while working as a high school teacher.

Date and time	October 26 (Monday), 2009 15:00-16:45
Lecturer	Ms. Maureen Tan (Spouse of Singapore Ambassador to Japan)
Coordinator	Ms. Keiko Tamura (Professor, The University of Kitakyushu)
Venue	5 <sup>th</sup> Floor Main Seminar Room Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE)
Number of attendees	80

### 3. Developing Overseas Focal Points and Concluding Memorandums of Understanding

KFAW carried out exchange with Chungcheongnam-do and Incheon in Korea, and Dalian in China, aiming at the formation of a fixed network to identify solutions to common issues faced by gender-related organizations overseas, improve the status of women in society, and achieve a gender-equal society.

#### (1) Exchange with the Chungcheongnam-do Women's Policy Development Institute (CWPD)

- ① Conclusion of a Memorandum of Understanding on academic exchange and organization of an exchange session

Date	November 2 (Monday)-3 (Tuesday), 2009
Venue	Chungcheongnam-do Women's Policy Development Institute (CWPD) (Chungcheongnam-do, Korea)
Participants	Ms. Kyung-sook Kim (President, CWPD), others Ms. Kuniko Yoshizaki (President, KFAW) Mr. Masahiro Nakamura (Director, Planning and Public Relations Division, KFAW)

- ② Organization of New Year Seminar: Falling Birthrates and Ageing Societies: What is Korea Doing? (see previous section)

Date and time	February 9 (Tuesday), 2010 18:30-20:00
Lecturers	Ms. Kyung-sook Kim (President, CWPD), Mr. Heon Joo Suh (Research Fellow, CWPD)
Venue	5 <sup>th</sup> Floor Seminar Room Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE)
Number of attendees	47

- ③ Joint Seminar on Empowerment of Women: Best Practices and New Challenges in Japan and the Republic of Korea

Date and time	March 1 (Monday), 2010 14:00-15:30
Lecturers	Ms. Kuniko Yoshizaki (President, KFAW) Ms. Masako Ota (Senior Researcher, KFAW) Ms. Kyung-sook Kim (President, CWPD) Mr. Heon Joo Suh (Research Fellow, CWPD)
Venue	Church Center for the United Nations (New York, U.S.A.)
Number of attendees	90

(2) Exchange with Incheon, Korea

A group of 11 people from the Incheon Council of Social Welfare visited Kitakyushu and carried out exchange.

Date November 11 (Wednesday), 2009  
Places visited Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE), other

(3) Exchange with Dalian, China

A group of 50 people from the Dalian Women's Federation visited Kitakyushu and carried out exchange.

Date September 29 (Tuesday), 2009  
Places visited Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE)

#### 4. Dispatching Staff Overseas

In order to further promote the Forum's activities, KFAW participated in the 54<sup>th</sup> United Nations Commission on the Status of Women (CSW) and jointly organized a seminar with the Chungcheongnam-do Women's Policy Development Institute (CWPD), with which KFAW concluded a Memorandum of Understanding on academic exchange in November 2009.

(1) 54<sup>th</sup> United Nations Commission on the Status of Women (CSW)

Date February 26 (Friday)-March 7 (Sunday), 2010  
Venue New York, U.S.A. (UN Headquarters)  
Theme Review of the implementation status of the Beijing Platform for Action and the outcomes of the 23<sup>rd</sup> special session of the General Assembly on Women 2000, and contributions to the introduction of a gender perspective in the achievement of the Millennium Development Goals  
Participants Ms. Kuniko Yoshizaki (President, KFAW), Ms. Masako Ota (Senior Researcher, KFAW), Mr. Masahiro Nakamura (Director, Planning and Public Relations Division, KFAW)

(2) CSW Parallel Event: KFAW/CWPD Japan and Republic of Korea Joint Seminar

"Empowerment of Women: Best Practices and New Challenges in Japan and the Republic of Korea" (see previous section).

Date and time March 1 (Monday), 2010 14:00-15:30  
Venue Church Center for the United Nations (New York, U.S.A.)  
Reports Ms. Kuniko Yoshizaki (President, KFAW)  
Ms. Masako Ota (Senior Researcher, KFAW)  
Ms. Kyung-sook Kim (President, CWPD)  
Mr. Heon Joo Suh (Research Fellow, CWPD)  
Number of attendees 90

## Information Exchange Projects

### 1. Publication of *Asian Breeze*

KFAW published its information newsletter, *Asian Breeze*, in Japanese and English in order to provide information about women in the Asia-Pacific region and the Forum's activities to a wide audience in both Japan and overseas. The newsletter helps people better understand women's issues and aids in networking with public organizations, research institutes, researchers, and NGOs involved in women's issues in Japan and overseas.

To commemorate *Asian Breeze*'s 20<sup>th</sup> anniversary in 2010, KFAW also published "Women Today," a series of essays from *Asian Breeze* carried at the beginning of the periodic journal, highlighting articles from its first publication in March 1991 to its most recent publication (Vol. 58) in March 2010.

#### (1) Publication of *Asian Breeze*

Frequency of publication	Three times a year Vol. 56 (June 2009, Japanese and English) Vol. 57 (November 2009, Japanese and English) Vol. 58 (March 2010, Japanese and English)
Number of copies	4,000 (Japanese) and 3,000 (English) per publication
Places distributed	Public facilities in Kitakyushu, women's organizations, research institutes in Japan and overseas, foreign embassies in Japan, United Nations organizations, international organizations, other

#### (2) Publication of "Women Today: Reviewing the 20-Year History of Women in Asian Breeze," a series of essays

Publication date	March 2010
Number of copies	Japanese: 300 / English: 200

### 2. Foreign Correspondents (19<sup>th</sup> Term)

In order to expand KFAW's networks in other countries in the Asia-Pacific region and collect data on the status of women from overseas, KFAW publicly recruits foreign correspondents from around the world to report the latest local news on a predetermined topic every year focusing on people living in countries in Asia and the Pacific. Foreign correspondents in the 19<sup>th</sup> term carried out activities in FY 2009.

Highlights of their reports appear in *Asian Breeze* and on the KFAW website (<http://www.kfaw.or.jp/about/about04-01.html.en>).

Number of correspondents	Nine correspondents from nine countries
Topic for 19 <sup>th</sup> term	"Your Daily Life: Clothing, Dietary Life and Living Environment"
Tenure	May 2009-March 2010
Number of reports submitted	Three

### 3. Projects to Promote International Understanding

To improve the status of women to achieve a gender-equal society, KFAW invited foreign correspondents to Kitakyushu to carry out exchange with the city's residents, children, and students because it is essential to deepen mutual understanding with people from different walks of life.

In addition, KFAW collected information about the state of gender equality in countries overseas and carried out various projects in cooperation with related organizations and groups to expand the range of public participation.

#### (1) Foreign Correspondents' Program

KFAW utilized the Foreign Correspondents' Program to carry out information collection and exchange on the status of women overseas, with particular focus on the Asia-Pacific region. KFAW invited correspondents from overseas to Kitakyushu, which provided various opportunities for exchange for the city's residents who possess an interest in socio-economic and women's issues in Asia, as well as the generation of young people that will promote understanding in the future, such as children and students.

Foreign correspondent Ms. Bhawana Upadhyay (Nepal, Correspondent in the 14<sup>th</sup>, 16<sup>th</sup>, and 18<sup>th</sup> terms)  
Period July 10 (Friday)-13 (Monday), 2009

Main exchange programs

##### ① World Report Seminar on "Gender and Language – Nepal, Vietnam and Japan"

This provided the audience with an opportunity to reconsider gender in terms of words or expressions we commonly use in our daily lives. In the discussion, we shared cases from overseas and focused on language culture from a gender perspective by introducing each country's words or expressions.

Coordinator Ms. Terumi Mizumoto (Professor, The University of Kitakyushu)  
Date and time July 11 (Saturday), 2009 13:30-15:30  
Venue 5<sup>th</sup> Floor Main Seminar Room  
Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE)  
Number of attendees 80

##### ② School visit exchange

School visits were held in two schools with students of different ages (elementary and high schools), where activities on international understanding and education, as well as club activities using English were being carried out, providing a welcoming environment for the correspondent.

###### ◇ Kitakyushu City Ayamegaoka Elementary School (Tobata Ward)

Date and time July 10 (Friday), 2009 14:15-15:00  
Attendees 4<sup>th</sup> graders (80 students, two classes)  
Contents Introduction of Nepal, Q & A

###### ◇ Kitakyushu City High School (Tobata Ward)

Date and time July 10 (Friday), 2009 16:10-17:00  
Attendees ESS Club (20 people)  
Contents Introduction of Nepal, English speech contest

③ Visit and exchange with local women's groups

This fiscal year, a cultural exchange was organized for women's groups in Kokuraminami Ward, following last fiscal year's exchange program in Tobata Ward to disseminate information about Asian society/culture and women's issues.

Date and time	July 13 (Monday), 2009 10:00-13:00
Number of attendees	20 participants from the Council of Women's Groups of Kokuraminami Ward
Venue	Kitakyushu Wakazono Citizen's Center (Kokuraminami Ward)

④ "Delicious Asia" cooking class

While cooking easy homestyle dishes from Nepal with the foreign correspondent lecturer, this cooking class allowed participants to learn about cultural differences as seen from another country's food culture and promoted greater understanding about the current status of women in Nepal with a lecture following the taste testing.

Date and time	July 12 (Sunday), 2009 10:00-14:00
Number of attendees	12

(2) Summer Seminar: "The Meaning of Michelle Obama: The Evolving Role of the First Lady"

Organizers	KFAW, Fukuoka American Center, Consulate of the United States, Fukuoka
Lecturer	Ms. Lisa Mundy (Staff writer for <i>The Washington Post</i> / Media Fellow, Japan Society)
Date and time	August 10 (Monday), 2009 18:30-20:00
Venue	5 <sup>th</sup> Floor Main Seminar Room Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE)
Number of attendees	160

(3) Exchange Program with Chelyabinsk State University (Russia)

Organizers	Kitakyushu YMCA, KFAW
Exchange partners	7 students from the Oriental Faculty, Chelyabinsk State University
Date and time	August 6 (Thursday), 2009 13:30-16:45
Contents	① Participation in a local gender-equality forum in Kokurakita Ward ② Information exchange on ideas of fixed gender roles and marriage

#### 4. Purchase of Books and Reference Materials

KFAW purchased various materials on Asia and/or women.

Total number of books acquired: 37 books

Women's issues	34 books
International exchange (including topography)	3 books
Miscellaneous	0

## Management Projects

### 1. Development of Annual Project Reports

The Annual Report, a yearly project report, was developed to be used in PR activities and as a record of the Forum's activities.

Number of copies      English/Japanese version      800 copies

### 2. Promotion of the Forum Supporter System

Project management was carried out in cooperation with Forum supporters to promote Forum support activities.

### 3. Assistance to the United Nations Development Fund for Women (UNIFEM)

KFAW is a full member of the National Committee for UNIFEM Japan, and acts as the committee's vice-president and director. KFAW actively participated in activities to support the improvement of women's living standards and self-sufficiency in developing countries, and supported the activities of the UNIFEM Kitakyushu Local Committee, including the organization of charity bazaars, fundraising campaigns, and other events.

#### 【Jointly organized events】

- (1) Gathering for the 15<sup>th</sup> anniversary of UNIFEM Kitakyushu (July 14, 2009)
- (2) Symposium on the Elimination of Domestic Violence: What You Have to Do Now!!  
(November 29, 2009) (see previous section)
- (3) UNIFEM Kitakyushu Special Lecture (February 22, 2010)

### 4. Enhancing the Support Member System

The Support Member System has been expanded to enhance KFAW's networks and strengthen its financial base.

FY 2009			
Classification	Annual membership fee	Number of members	Number of entries
Individuals	¥3,000	119 members	123 entries
Groups	¥20,000	20 groups	21 entries
Students	¥1,500	9 members	9 entries

※ Half membership for new members entering after October.

### 5. Information System Management

As in the previous fiscal year, necessary security measures were taken to prevent viruses and hacking.

# **Special Account Projects**

## Special Account for International Training Projects

As a part of a project to promote the status of women mainly in the Asia-Pacific region, KFAW conducted training courses from a gender perspective, which was commissioned by JICA Kyushu International Center.

### 1. 8<sup>th</sup> Seminar on Gender Mainstreaming Policies for Government Officers (A)

- (1) Commissioned by JICA Kyushu International Center, KFAW organized a seminar to assist government officials in the development of policies which mainstream gender into the development, implementation, and evaluation of policies in national and local governments of developing countries in Asia, Africa, South America, and Europe.

Date                      June 25-July 24, 2009  
Venue                     JICA Kyushu International Center and other institutions  
JICA trainees            8 participants from 6 countries  
                              (Afghanistan, Bosnia and Herzegovina, Cambodia, Haiti, Nepal, and Uruguay)

#### (2) Country Reports Presentation

Date                      July 17 (Friday), 2009   13:00-16:00  
Venue                     5<sup>th</sup> Floor Main Seminar Room  
                              Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE)  
Moderator                Ms. Reiko Ogawa, Associate Professor, Kyushu University Asia Center  
Number of attendees    44 people

### 2. 8<sup>th</sup> Seminar on Gender Mainstreaming Policies for Government Officers (B)

- (1) Commissioned by JICA Kyushu International Center, KFAW organized a seminar to assist government officials in the development of policies which mainstream gender into the development, implementation, and evaluation of policies in national and local governments of developing countries in Asia, Africa, South America, and Europe.

Date                      January 27-February 26, 2010  
Venue                     JICA Kyushu International Center and other institutions  
JICA trainees            6 participants from 5 countries (India, Nigeria, Malawi, Mexico, and Laos)

#### (2) Country Reports Presentaion

Date                      February 24 (Wednesday), 2010   13:30-16:30  
Venue                     5<sup>th</sup> Floor Main Seminar Room  
                              Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE)  
Moderator                Ms. Reiko Ogawa, Associate Professor, Kyushu University Asia Center  
Number of attendees    56 people

## **Special Account for a Needs Assessment on Education to Prevent Dating Violence**

KFAW was commissioned by the Gender Equality Promotion Department of the Child and Domestic Affairs Bureau of the City of Kitakyushu to conduct a project, Needs Assessment on Education to Prevent Dating Violence. The objective was to consider policies on educating young people about dating violence by collecting information from schools in Kitakyushu. KFAW conducted a questionnaire survey and held group interviews in order to understand the present situation on education to prevent dating violence and explore effective approaches to the prevention.

Questionnaires were sent to 173 schools (junior high and above) in Kitakyushu: three questionnaires per school, in total 519. Out of these, 230 questionnaires were returned (response rate of 44.3%). Group interviews were conducted with nine teachers from the city's junior high schools and high schools to understand the current situation and problems in providing education to prevent dating violence, and to obtain opinions on how to conduct such education in terms of school environment, contents and methods. On the basis of the results of the survey and interviews, KFAW compiled and submitted a report with policy recommendations.

## **Special Account for Managing and Operating the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center**

As a designated management body, KFAW manages and operates the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE) which was established on July 1, 1995, and which aims at the creation of a gender-equal society.

### **1. Projects**

MOVE organized various projects, such as MOVE Festa 2009 and independently-developed programs in order to support activities to create a gender-equal society. MOVE Festa 2009, organized as an event commemorating the 10<sup>th</sup> anniversary of the Basic Law for a Gender-Equal Society, was held under the theme of "Gender Equality: Linked to the heart, dreams, and the future." Musical performances, events, and lectures with the participation of the city's residents were held and featured public participation projects that actively support independent research and the practical activities of residents.

#### **(1) Self-Development Projects**

##### **① Courses on gender issues**

Courses and lectures on gender equality were organized to carry out a interdisciplinary examination of gender issues and promote public awareness.

##### **(a) Gender Equality Course: "How Do You Stand Up To an Unequal Society and Life Difficulties?"**

Date and time	January 30 (Saturday), February 27 (Saturday), March 6 (Saturday) 14:00-16:00 three times
Participation fee	200 yen

Lecturers Mr. Fumio Otake (Professor, Institute of Social and Economic Research, Osaka University)  
Ms. Reiko Kosugi (Research Director, The Japan Institute for Labour Policy and Training)  
Mr. Masahiro Yamada (Professor, Faculty of Letters, Chuo University)  
Number of attendees 295

(b) Seminar on Men's Lifestyles

Date and time November 20 (Friday), December 5 (Saturday), December 11 (Friday)  
Three times  
1<sup>st</sup> and 3<sup>rd</sup> seminar: 18:30-20:30; 2<sup>nd</sup> seminar: 14:00-16:00  
Participation fee 200 yen  
Lecturers Mr. Akira Nakamura (Director, Toyonaka Gender Equality Promotion Center "STEP")  
Mr. Kazuhiro Okuyama (Assistant Principal, Kakegawa West High School, Shizuoka Prefecture)  
Mr. Kiyooki Ohashi (Marriage Consultant)  
Number of attendees 165

(c) Training Course for Local Leaders: "Community Leaders and Gender Equality"

Date and time December 20 (Sunday)-December 21 (Monday)  
Lecture: 10:00-11:30; Workshop: 13:00-15:00  
Participation fee Free  
Lecturers Mr. Kousuke Hasegawa (Associate Professor, Center for Education and Research in Lifelong Learning, Ibaraki University)  
Mr. Masashi Tonooka (Supervisor, Edo Culture and Behaviors Society)  
Number of attendees 130

(d) Training Course for Local Leaders: Follow-up on "Community Leaders and Gender Equality"

Date and time January 22 (Friday) 15:00-16:00  
Participation fee Free  
Facilitator Ms. Mieko Koyama (Deputy Director, Kitakyushu Municipal Gender Equality Center)  
Number of attendees 17

(e) Seminar on the Prevention of Sexual and Power Harassment & Support for Work/Life Balance

Date and time February 17 (Wednesday) 13:30-16:30  
Participation fee Free  
Lecturers Mr. Syunji Ichikawa (Lawyer, Ichikawa Law Office)  
Ms. Rumi Kiyonari (Social Insurance Consultant, Kiyonari Social Insurance Labor Consulting Office)

Co-organizers	Welfare and Labor Department, Fukuoka Prefecture; Japan's Institute of Workers' Evolution
Number of attendees	28

(f) Business Seminar (Business Gathering to Examine Human Rights) Organized by the City of Kitakyushu

Date and time	February 5 (Friday) 14:00-16:30
Participation fee	Free
Lecture	Lecturer: Ms. Yasuko Okada (Representative Director, Cuore C3 Co, Ltd)
Film	"Hear My Voice" (Japanese)
Venue	Kitakyushu Performing Arts Center
Number of attendees	530

(g) English Conversation Class for Empowerment

Date	1 <sup>st</sup> session: May 13 (Wednesday)-July 31 (Friday), 2009 2 <sup>nd</sup> session: November 11 (Friday), 2009-February 12 (Friday), 2010 Beginners: 13:00-14:30, Intermediate/Advanced: 19:00-20:30
Contents	12 times in one session for each course
Course fee	Beginner: 12,000 yen, Intermediate: 15,000 yen, Advanced: 15,000 yen
Management	Office M&M Co., Ltd.
Number of attendees	619

(h) MOVE Language Classes: Looking at Asia

Date and time	Korean course: May 12 (Friday)-July 14 (Friday), 2009. 19:00-20:30 Total of 10 times Chinese course: September 4 (Friday)-November 6 (Friday), 2009. 19:00-20:30 Total of 10 times
Course fee	12,000 yen
Management	OWLS Co., Ltd.
Number of attendees	208

② Lectures to support employment

Courses were developed for women who aim to re-enter the workforce and become entrepreneurs, and support was provided to women who wish to be financially independent in order to expand work opportunities.

(a) Training for Women Entrepreneurs 2009

Date and time	November 7 (Saturday)-22 (Sunday), 2009. 10:00-17:00 Total of 5 times
---------------	--

Course fee 15,000 yen  
Coordinator Mr. Shigeru Sasaik (Representative Director, Junction, Ltd.)  
Number of attendees 119

(b) Follow-up Seminar for Women Entrepreneurs

Date and time January 20 (Wednesday), 2010. 14:00-16:00  
Lecturer Mr. Masao Miyoshi (Small – and Mid – Sized Business Management Consultant)  
Number of attendees 19

(c) Counseling for Women Entrepreneurs

Date and time January 23 (Saturday), 2010. 10:00-17:00  
Lecturer Mr. Masao Miyoshi (Small – and Mid – Sized Business Management Consultant)  
Co-organizer Kyushu Branch, Organization for Small & Medium Enterprises and Regional  
Innovation  
Number of attendees 6

(d) MOVE Job-Hunting Cram School

Date and time September 20 (Sunday)-October 11 (Monday), 2009. 10:00-17:00  
Total of 7 times  
Course fee 15,000 yen  
Lecturers Ms. Yoshiko Shinkai (Career Advisor, CDA)  
Ms. Mie Asano (Career Counselor)  
Number of attendees 63 (Excluding open course)

(e) MOVE Job-Hunting Cram School: Open Course: “Career Development to Achieve Autonomy and Independence”

Date September 26 (Saturday), 2009  
Lecturer Ms. Takako Kojima (Associate Professor, Graduate School of Business  
Administration, Rikkyo University)  
Participation fee 200 yen  
Number of attendees 101

(f) MOVE Job-Hunting Cram School Follow-up Seminar

Date and time December 19 (Saturday), 2009. 13:00-16:00  
Lecturers Ms. Yoshiko Shinkai (Career Advisor, CDA)  
Ms. Mie Asano (Career Counselor)  
Number of attendees 9

- (g) Career Advancement Course for Working Women and Women Returning to the Workforce
- |                     |   |
|---------------------|---|
| Date and time       | October 23 (Friday), 2009. 13:30-16:30                                      |
| Participation fee   | Free  |
| Lecturer            | Ms. Junko Tawara (Human Resources Development Universal Service Laboratory) |
| Co-organizer        | Kitakyushu Labor Support Office, Fukuoka Prefecture                         |
| Number of attendees | 67  |
- (h) Course on Assertive Communication
- |                     |   |
|---------------------|---|
| Date and time       | February 2 (Tuesday), 2010. 10:00-12:00                       |
| Participation fee   | Free  |
| Lecturer            | Ms. Akiko Tominaga (Clinical psychologist/Feminist counselor) |
| Co-organizer        | Kitakyushu Labor Support Office, Fukuoka Prefecture           |
| Number of attendees | 67  |
- (i) Educational Course on Labor Issues
- |                     |  |
|---------------------|--|
| Date and time       | December 2 (Wednesday), 2009. 18:30-19:30<br>March 4 (Thursday), 2010. 18:30-20:00   |
| Lecturers           | Mr. Hideo Kunitake (Associate Professor, Faculty of Law, The University of Kitakyushu)<br>Ms. Akiko Watanabe (Lawyer, Knowledge Lawyers' Office) |
| Participation fee   | Free   |
| Co-organizer        | Welfare and Labor Department, Fukuoka Prefecture   |
| Number of attendees | 55   |
- (j) Labor Management Seminars
- |                     |  |
|---------------------|--|
| Date and time       | December 2 (Wednesday), 2009. 17:00-18:00<br>February 23 (Tuesday), 2010. 15:00-16:30              |
| Lecturers           | Ms. Hiroe Onita (Psychologist, Shiranui Clinic)<br>Mr. Hiroshi Eda (Chair, SR Fukuoka Association) |
| Participation fee   | Free   |
| Co-organizer        | Welfare and Labor Department, Fukuoka Prefecture   |
| Number of attendees | 54   |
- (k) Personal Computer Courses
- |                     |  |
|---------------------|--|
| Date                | April 1 (Wednesday), 2009-March 31 (Wednesday), 2010   |
| Contents            | General course (2 months) 31 lectures, 8 courses/period<br>One-day course Total of 15 lectures |
| Participation fee   | General course: 13,000 yen/Special course: 4,000 yen   |
| Management          | Knowledge Management Technology Co., Ltd., With Corporation, Inc.                              |
| Number of attendees | 3,289  |

(l) Computer Courses for Women (Word)

Date and time	May 9 (Saturday)-July 1 (Wednesday) Every Saturday 10:00-12:00, Every Wednesday 18:30-20:30 Total of 8 times/course
Participation fee	Free
Management	Knowledge Management Technology Co., Ltd., With Corporation, Inc.
Number of attendees	256

(m) Computer Courses for Women (Excel)

Date and time	September 2 (Wednesday)-November 28 (Saturday) Every Saturday 10:00-12:00, Every Wednesday 18:30-20:30 Total of 12 times/course
Participation fee	Free
Management	Knowledge Management Technology Co., Ltd., With Corporation, Inc.
Number of attendees	256

(n) Active Seniors' Club (Computer Course)

Date and time	April 16 (Thursday), 2009-January 21 (Thursday), 2010. Every Wednesday, in principle Morning course: 10:00-12:30, Afternoon course: 14:00-16:00 Total 28 times
Participation fee	Free (Teaching materials available for purchase separate. Insurance: 1,000 yen)
Lecturer	Ms. Michiyo Shimaru (With Corporation, Inc.)
Organizer	Public Health and Welfare Bureau, City of Kitakyushu
Management	Kitakyushu Federation of Senior Citizens Clubs
Number of attendees	1,013

(o) Computer Service Skill Evaluation Tests

Date	June 4 (Sunday), 2009-February 14 (Sunday), 2010
Contents	2 <sup>nd</sup> /3 <sup>rd</sup> levels of Excel (1 time) 2 <sup>nd</sup> /3 <sup>rd</sup> levels for Word (1 time)
Successful candidates	30 (49 examinees)

(p) Individual use of OA room

Date and time	Every Wednesday and Friday 14:00-16:00, every Saturday 13:00-18:00
User fee	300 yen/2 hours
Number of attendees	1,028

③ Lecture Courses on Experimental Living and Lifestyle Techniques

These courses facilitated the acquisition of skills through study and research in all fields of life, without being bound by gender roles.

(a) Refresher Courses for Moms

Date and time	1 <sup>st</sup> session: June 4 (Thursday)-July 9 (Thursday), 2009 2 <sup>nd</sup> session: September 3 (Thursday)-October 15 (Thursday), 2009 3 <sup>rd</sup> session: November 5 (Thursday)-December 10 (Thursday), 2009 4 <sup>th</sup> session: January 7 (Thursday)-February 18 (Thursday), 2010 5 times, each session (10:00-12:30)
Participation fee	3,000 yen (includes material fee)
Number of attendees	266

(b) Food Education Seminars for Fathers and Children

Date	August 25 (Tuesday), 2009-January 30 (Saturday), 2010, Total of 6 times
Participation fee	Adults: 1,000 yen / Children: 500 yen /session Mothers (dining together only): 500 yen
Co-organizer	(NPO) Research Institute on Improving the Environment for Men and Women in Raising Children
Number of attendees	181

(c) MOVE Production Studio

Date	May 13 (Wednesday), 2009-March 3 (Wednesday), 2010 9 lectures/11 times
Contents	Wood workshop, plant dyeing, silver accessories, hand-weaving
Participation fee	2,200 yen-4,500 yen (includes materials fee)
Number of attendees	141

(d) Private use of arts and crafts studio

Date and time	Generally held on the 2 <sup>nd</sup> , 3 <sup>rd</sup> , 4 <sup>th</sup> Wednesday of each month 9:30-17:00
User fee	300 yen/2 hours
Total attendees	44

**(2) Support for Resident Activities and Partnership Projects**

Through the promotion of information dissemination and exchange with organizations and groups involved in various activities and the facilitation of networking opportunities, MOVE supported new discoveries by individuals, organizations and groups using the Center, and encouraged independent, creative activities aiming at the formation of a gender equal society. MOVE also facilitated linkages and the development of projects with organizations carrying out public activities.

① MOVE Supporter Program

(a) General Meeting of MOVE Supporters

Date and time	April 18 (Saturday), 2009. 10:00-12:00
---------------	--

Number of attendees 42

(b) Course for Child Care Supporters

Date and time November 4 (Wednesday)-19 (Thursday), 2009. 3 lectures/4 times

Number of attendees 77

(c) Participation of MOVE supporters in the *Wasshoi Hyakuman* Summer Festival

Date and time August 2 (Sunday), 2009. 19:20-20:30

Number of attendees 80

② Support for residents' activities and cooperation

(a) Family Christmas in Kitakyushu

Date and time December 19 (Saturday) 10:00-12:00

Participation fee 200 yen/family

Co-organizer (NPO) Research Institute on Improving the Environment for Men and Women  
in Raising Children

Number of attendees 260

(b) Communication Seminar for Mothers and Fathers Raising Children

Date and time February 9 (Tuesday)-March 2 (Tuesday), 2010. Total of 4 times

Participation fee 500 yen/family

Co-organizer (NPO) GGP: Gender Global Citizen Project

Number of attendees 56

(3) Reproductive Health and Rights Projects

In order to support women's activities, lectures were organized on "Reproductive Health and Rights," which provided opportunities to acquire techniques and knowledge to maintain and improve mental and physical health in daily life, such as at home and in the workplace.

(a) Aim at a Beautiful Body with Exercises for a Beautiful Waistline!

Date and time March 14 (Sunday), 2010 10:30-12:15

Participation fee 300 yen

Lecturer Ayu (*Bikoshi* stylist, pharmacist)

Number of attendees 151

(b) Practicing to Achieve a Beautiful Body with Exercises for a Beautiful Waistline!

Date and time March 23 (Tuesday) ①13:30-14:30 ②15:00-16:00

Participation fee 500 yen

Lecturer Ayu (*Bikoshi* stylist, pharmacist)

Number of attendees 83

(c) Maternity aerobics

Date and time	1 <sup>st</sup> session: May 12 (Tuesday)-June 9 (Tuesday), 2009 2 <sup>nd</sup> session: August 18 (Tuesday)-September 15 (Tuesday), 2009 3 <sup>rd</sup> session: November 10 (Tuesday)-November 5 (Tuesday), 2009 4 <sup>th</sup> session: January 19 (Tuesday)-February 16 (Tuesday), 2010 5 times, each session (13:00-15:30)
Participation fee	4,000 yen
Number of attendees	246

(d) Individual use of fitness room

Date and time	Every Wednesday and Friday: 9:30-21:30, Sunday and Monday: 9:30-17:00
Usage fee	300 yen for 2 hours
Number of visitors	8,220

**(4) MOVE Festa 2009**

Musical performances and events were held during MOVE Festa 2009, organized under the theme of “Gender Equality: Linked to the heart, dreams and the future,” featuring events planned by the city’s residents supporting independent research and activities. Cooperation was received from 137 event supporters for general information, preparation, reception/information, and project management during the MOVE Festa period.

Date	July 4 (Saturday)-31 (Friday), 2009
Number of attendees	73,846 (including 17,909 men)

① Hosted events

(a) Opening Event: Move Musical “On the Other Side of the Door”

Date and time	July 4 (Saturday) 13:00-15:00 (including the opening of the event), 18:30-20:00
Producer	Ms. Emiko Otsuka (Chair, YUMEKOU)
Music/Performance	Mr. Hiroshi Yamane, Mr. Kohei Harada
Performers	21 (including 16 selected through open auditions)
Admission fee	General admission: 500 yen; Family admission: 1,000 yen
Number of attendees	982

(b) Joining You and I (Song)

Date and time	July 12 (Sunday) 10:00-15:00
Events	Music/Dance: Cheerful, Kitakyushu City High School Dance Club, Caps & Hats Talk: Ms. Tomomi Muranaka (TV personality) Mr. Syunsuke Nakashima (Professor, The University of Kitakyushu) Three-line song award (Total number of entries: 373)
Number of attendees	460

(c) Know and Understand! Class on Crime Prevention

Date and time July 18 (Saturday), 2009 13:00-14:00  
 Lecturers Mr. Kenji Noda (Crime Prevention Expert)  
 Mr. Kiyoyuki Asada (Assistant Policy Inspector, Crime Prevention Section  
 Safety Division, Kokurakita Police Department)  
 Number of attendees 125

(d) 12<sup>th</sup> Report Meeting on Gender Research

Date and time July 18 (Saturday), 2009 13:00-15:00  
 Theme Practical Study on Developing Models for Women's Participation in School  
 Management in Kitakyushu  
 Researchers Ms. Chuan Yang (Representative, Kyushu University Local Governmental  
 Research Association)  
 Mr. Masahiro Motokane (Joint Researcher)  
 Commentator Mr Kuniaki Mori (Professor, Fukuoka Women's University)  
 Number of attendees 56

(e) Book recycling

Date July 4 (Saturday)-31 (Friday), 2009  
 Number of distributed books 1,206

② Projects planned by residents

Date July 4 (Saturday)-31 (Friday), 2009  
 Total number of projects 112  
 Events 62  
 Summer carnival 14  
 Flea market 36  
 Number of attendees 37,911

**(5) Counseling Programs**

① General counseling, human rights counseling, legal advice

\* ( ) indicates the number of inquiries from men

Type	Phone counseling	Face-to-face counseling	Total	
General counseling	2,459 (187)	238 (6)	2,697 (193)	3,315 (228)
Counseling on human rights	273 (29)	88 (4)	361 (33)	
Counseling on starting employment	24 (1)	85 (0)	109 (1)	
Legal advice	—	148 (1)	148 (1)	

② Lectures, other

(a) Course on the Fundamentals of Law for Women

Date and time May 16 (Saturday), 2009-February 20 (Saturday), 2010  
14:00-16:00 (Total: 4 times)  
Lecturers Ms. Tomoko Ogura (Lawyer), Miki Harada (Lawyer)  
Number of attendees 69

(b) Course on the Fundamentals of Law for Men

Date and time September 5 (Saturday), 2009. 14:00-16:00  
October 17 (Saturday), 2009. 14:00-16:00 (Total: 2 times)  
Lecturers Mr. Tsuyoshi Ogata (Lawyer), Mr. Kazumasa Kawahara (Lawyer)  
Number of attendees 24

(c) Special Project on Zero Tolerance of Violence to Women: Are You OK? Know about Measurers to Deal with Stalkers

Date and time November 21 (Saturday), 2009. 14:00-16:00  
Lecturers Ms. Naoko Yano (Police Officer, Kokurakita Ward Police Department)  
Mr. Hiroki Monji (Police Officer, Kokurakita Ward Police Department)  
Ms. Tomoko Ogura (Lawyer)  
Number of attendees 16

(d) Supporters Seminar: "Problems and Support for the Adolescent Mind"

Date and time February 21 (Sunday), 2010. 13:30-16:00  
Lecturer Ms. Hiroko Mizushima (Director, Mizushima Hiroko Mental Health Clinic)  
Number of attendees 85

③ Hotline

(a) Women's Human Rights Hotline

Date and time June 23 (Tuesday), 2009. 10:00-17:00  
Co-organizer Fukuoka Lawyers Association  
Number of attendees 25

(b) Hotline for Eliminating Violence against Women

Date and time November 24 (Tuesday), 2009. 10:00-17:00  
Co-organizer Fukuoka Lawyers Association  
Number of attendees 13

④ Support for mutual self-help groups

Details of support	Provision of venues and lockers, childcare, advice on group management, other
Number of groups	4
Total number of attendees	307

⑤ Panel exhibitions, other

(a) Panel exhibitions

(i) Panel exhibitions for Employment Opportunity Equality Month, Gender Equality Week

Date June 1 (Monday)-30 (Monday), 2009

(ii) Panel exhibition for “Understanding Dating Violence!”

Date August 1 (Saturday)-31 (Monday), 2009

(iii) Panel exhibition for Movement to Eliminate Violence against Women

Date November 12 (Thursday)-30 (Monday), 2009

(b) Fukuoka Prefectural Gender Equality Center Joint Domestic Violence Campaign (distribution of educational leaflets)

Date November 13 (Friday), 2009. 16:00-16:30

(c) “Understanding Dating Violence!” Creation and Distribution of Educational Cards

Number published 150,000

## 2. Information Dissemination Projects

In line with its goal to realize a gender-equal society, the MOVE library collected and made available books and materials to the general public, as well as provided information on individuals and organizations working on gender issues both within and outside of Japan.

(1) Collection and Supply of Information

① Purchase and provision of library materials and documents

The MOVE library collected and made administrative materials, magazines, local information magazines, children’s books, videos and DVDs with a focus on technical books on gender issues available to the general public.

(a) Collection of books: 47,054 books (excludes periodicals and government materials), 504 videos, 117 DVDs (as of March 31, 2010)

(b) Number of books lent: 25,965

(c) Publication of “Mo-Book” (library information): Vol. 6, 7

(d) Organization of picture book shows and readings for parents and children (2 times)

② Collection and dissemination of information on gender

Information on organizations was collected and disseminated through MOVE's information system, MOVE Net (As of March 31, 2010, the database contained information on 161 individuals and 220 organizations/groups.)

③ Information dissemination via website, other

The most up-to-date information on facilities, lecturers and events was disseminated via MOVE's website and through MOVE mail (number of registered users: 400)

④ Activities of library information supporters

Arrangement of classifications for newspaper clippings and provision of information

⑤ Book recycling (1,206 books (see previous section))

(2) Research Projects

① Gender research support projects

- (a) In order to support civic groups and researchers carrying out independent studies and research to identify solutions for gender issues, a partial subsidy was provided to one group and a report was published at the end of March 2010.

Theme "Research on Clubs for After School Activities for Children in Kitakyushu"  
Research group Fukuoka Life Educational Society

- (b) 12<sup>th</sup> Report Meeting on Gender Research (see previous section)

Organization of report meeting by FY2008 study and research group, other

② Publication of "Move Series" on Gender (End of March 2010)

Published *KEKKON: for Women and Men*, (MOVE 7<sup>th</sup> Gender White Paper) by Akashi Shoten (Japanese)

③ Public participation projects on gender-equality

Staging of MOVE Musical: *On the Other Side of the Door* (see previous section)

④ Dissemination of information and education on the Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women

Top prize panels from the 1998 translation competition to educate people about the Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women were lent out for exhibit (five times).

(3) Public Relations

① Publication of *Moving* (Information Magazine)

(a) *Moving* Published quarterly; 10,000 copies/printing

(b) *Monthly MOVE* Published monthly; 3,000 copies/printing

② Publication of Bibliographical Information Magazine, *Cutting Edge*

*Cutting Edge*, a bibliographical information magazine, is published to provide the most recent coverage of information on gender issues (published quarterly; 3,000 copies/printing).

(4) Other

① Book/CD sales 106

② Permission to publish MOVE's writings in other centers' information publications 6

### 3. Management of Facilities

MOVE aimed to enhance and smoothly manage the facilities of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center, as well as coordinated room rentals, dispatch of lecturers, and tours of the facilities.

(1) Maintenance and management of facilities

MOVE carried out regular maintenance and safety checks and scheduled repairs for facilities and equipment.

(2) Management of room rentals

Number of people renting rooms: 166,775 (169,849 in fiscal year 2008)

(3) Other activities

① Assignment of lecturers

Number of lectures assigned: 22

② Tours of facilities

MOVE welcomed 252 people from 22 organizations and other cities (includes 64 people from 3 overseas organizations)

## **Special Account for Independent Projects of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center**

- (1) Gender equality lectures
- (2) Training for women entrepreneurs, MOVE Job-Hunting Cram School
- (3) Personal computer courses
- (4) Conversation classes for empowerment (English, Chinese, Korean)
- (5) Life skills courses (Food Education Seminars for Fathers and Children, Refresher Course for Mom's, other)
- (6) Reproductive Health and Rights Projects (Aim at a Beautiful Body with Exercises for a Beautiful Waistline!  
other)

## **Special Account for Maintenance and Management of the Kitakyushu Otemachi Building**

KFAW managed the facilities of the Kitakyushu Otemachi Building including communication and coordination with other tenants, with the exception of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center (MOVE).

## Use of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center, Move

FY2009

RoomName	Available Days	Days Used	Utilization Rate (%)	Number of Users (Persons)						
				Sponsored Events	(Number of Male Users)	Use of Room	(Number of Male Users)	Total Number of Users	(Number of Male Users)	
Move Hall	333	220	66.1	9,152	2,929	37,255	14,295	46,407	17,224	
Main Seminar Room	343	220	64.1	2,888	457	17,051	6,370	19,939	6,827	
Seminar Room	343	266	77.6	1,179	172	9,075	3,616	10,254	3,788	
Planning Room 1	343	312	91.0	651	13	4,210	1,119	4,861	1,132	
Planning Room 2	343	315	91.8	843	140	3,092	872	3,935	1,012	
Cooking Studio	343	140	40.8	699	198	1,562	243	2,261	441	
Japanese Room	343	272	79.3	337	94	3,972	751	4,309	845	
Tea Ceremony Room	343	85	24.8	71	5	531	149	602	154	
Fitness Room	Group	343	283	82.5	984	126	1,411	33	2,395	159
	Individual				8,220	2,467	—	—	8,220	2,467
	Sub Total				9,204	2,593	1,411	33	10,615	2,626
Craft Studio	Group	343	196	57.1	852	214	1,788	199	2,640	413
	Individual				44	2	—	—	44	2
	Sub Total				896	216	1,788	199	2,684	415
OA Room	Group	343	241	70.3	4,536	427	0	0	4,536	427
	Individual				1,028	133	—	—	1,028	133
	Sub Total				5,564	560	0	0	5,564	560
Group Activity Room	343	327	95.3	443	50	7,031	1,012	7,474	1,062	
Children's Room	343	211	61.5	1,802	656	62	24	1,864	680	
Move Plaza	343	343	100.0	44,465	10,712	79,735	22,612	124,200	33,324	
Consultation Room	—	—	—	5,667	963	—	—	5,667	963	
Information Library	—	—	—	26,666	4,439	—	—	26,666	4,439	
<b>Total</b>	—	—	—	<b>110,527</b>	<b>24,197</b>	<b>166,775</b>	<b>51,295</b>	<b>277,302</b>	<b>75,492</b>	

**% of Male Users 27.2%**

Reference: FY 2008 **291,678 Persons** (includes Male users 78,078) (Male Users 26.8%)

Contents { Organizer 121,829 Persons (Males 25,475)  
Room Rental 169,849 Persons (Males 52,603) }

7/1/95 - 3/31/10 Total Move Users

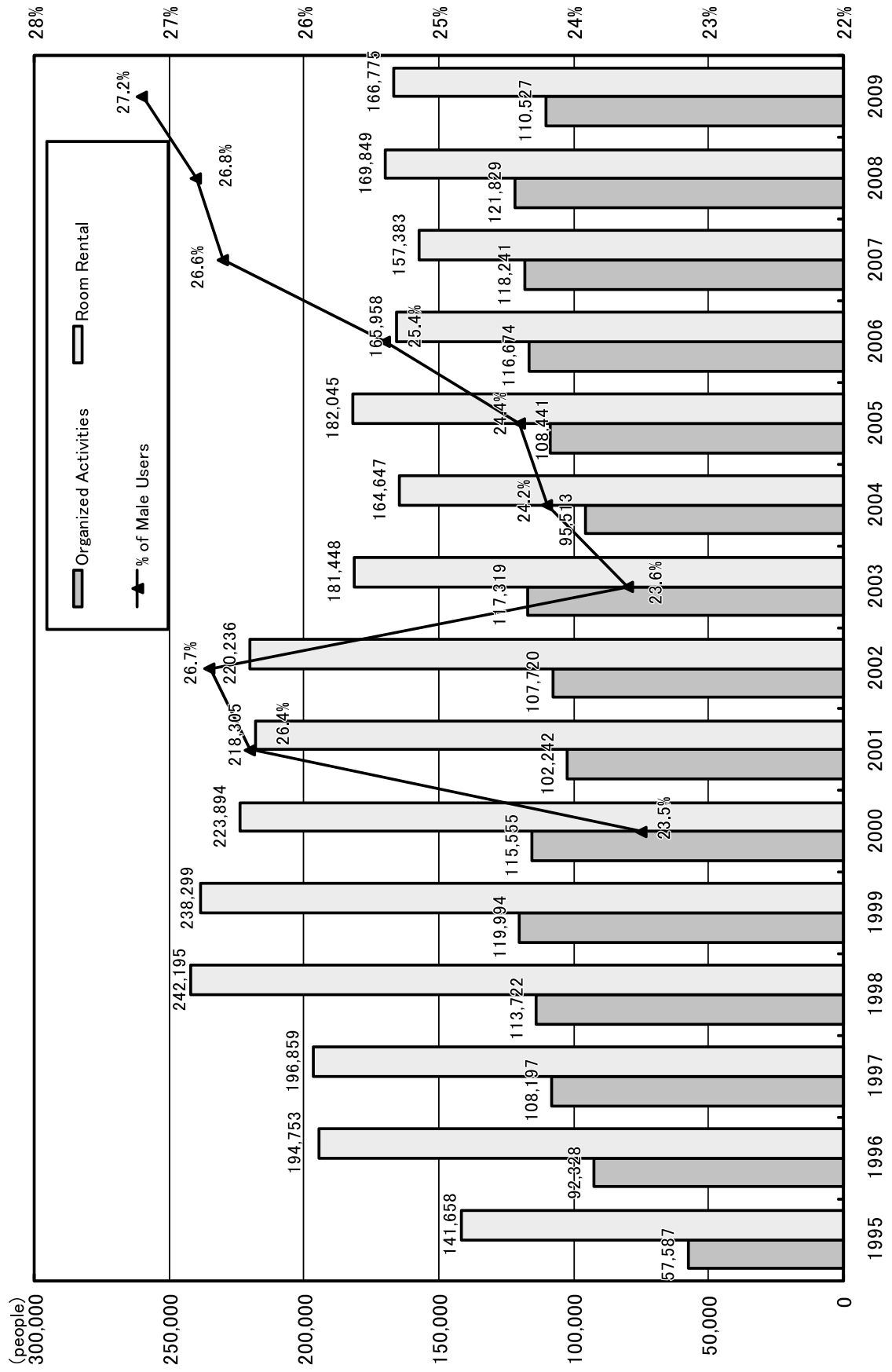
 ----- **4,470,193 Persons**

### (Number of Lecturers and Visitors)

	Total in FY 2009 (April 2009–March 2010)		Total in FY 2008 (April 2008–March 2009)	
	Number of Times	Number of Participants	Number of Times	Number of Participants
Number of lecturers ※	22	1,635	30	1,880
Number of visitors (Domestic)	19	188	20	125
Number of visitors (Overseas)	3	64		
<b>Total</b>	<b>44</b>	<b>1,887</b>	<b>50</b>	<b>2,005</b>

※ Dispatch of lecturers for trainings on the prevention of sexual harassment and gender equality lecturers, other

# Yearly Trend in the Number of Users



# **Financial Statements**

Summary Table of Changes in Net Worth  
(FY 2009)

(Unit : yen)

Account	Total	General Account	Special Account for International Training Projects	Special Account for Needs Assessment on Education to Prevent Dating Violence	Special Account for the Management and Operation of Kitakyushu Municipal Gender Equality Projects	Special Account for Independent Projects of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center	Special Account for Maintenance and Management of the Kitakyushu Otemachi Building
<b>I. Changes in Unrestricted Net Assets</b>							
1. Operating income and expenditure							
(1) Ordinary revenues and gains	4,084,739	4,084,739	0	0	0	0	0
Income from basic funds	790,500	790,500	0	0	0	0	0
Membership fees	231,090	210,090	21,000	0	0	0	0
Operating income	9,980,461	0	8,054,684	0	0	9,980,461	0
Income from independent operational fees	8,054,684	0	8,054,684	0	0	0	0
Income from contracted services (City of Kitakyushu)	266,672,500	0	0	997,500	231,509,000	0	34,166,000
Income from contracted services (City of Kitakyushu)	66,846,000	66,846,000	0	0	0	0	0
Grants, other	0	0	0	0	0	0	0
Contributions	89,229	88,309	920	0	0	0	0
Miscellaneous income	1,190,090	1,190,090	0	0	0	0	0
Transfer in from other accounts	73,209,293	73,209,228	8,076,604	997,500	231,509,000	9,980,461	34,166,000
Total revenues and gains	357,939,293	357,939,228	8,076,604	997,500	231,509,000	9,980,461	34,166,000
(2) Expenses and losses							
Expenditures for survey and research projects	19,115,214	19,115,214	0	0	0	0	0
Expenditures for exchange and training projects	11,949,211	11,949,211	0	0	0	0	0
Expenditure for information collection and communication projects	9,076,498	9,076,498	0	0	0	0	0
General and administrative expenditures	31,004,040	31,004,040	0	0	0	0	0
Expenditure for international training projects	6,569,877	0	6,569,877	0	0	0	0
Expenditure for the Study on Education to Prevent Dating Violence	759,105	0	0	759,105	0	0	0
Expenditure for the management and operation of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center	222,404,995	0	0	0	222,404,995	0	0
Expenditure for user fees of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center	8,162,678	0	0	0	0	8,162,678	0
Expenditure for maintenance and management of the Kitakyushu Otemachi Building	31,403,180	0	0	0	0	0	31,403,180
Expenditure from repayments	12,751,462	0	555,032	0	9,433,610	0	2,762,820
Expenditure from return of grants	6,609,530	6,609,530	0	0	0	0	0
Expenditure from transfer in from other accounts	1,190,090	0	951,695	238,395	0	0	0
Total expenditures	360,995,880	77,754,493	8,076,604	997,500	231,838,605	8,162,678	34,166,000
Total changes in operating activities for the year	△ 3,056,587	△ 4,544,765	0	0	△ 329,605	1,817,783	0
2. Non-operating activities							
(1) Revenue from non-operating activities	0	0	0	0	0	0	0
Total revenues from non-operating activities	0	0	0	0	0	0	0
(2) Expenses and losses from non-operating activities	0	0	0	0	0	0	0
Total expenses and losses from non-operating activities	0	0	0	0	0	0	0
Total changes in unrestricted net assets	△ 3,056,587	△ 4,544,765	0	0	△ 329,605	1,817,783	0
Unrestricted net assets at beginning of year	22,205,889	16,256,686	0	0	2,549,592	3,399,611	0
Unrestricted net assets at end of year	19,149,302	11,711,921	0	0	2,219,987	5,217,394	0
<b>II. Changes in Restricted Net Assets</b>							
Total changes in restricted net assets for the year	0	0	0	0	0	0	0
Restricted net assets at beginning of year	323,166,095	323,166,095	0	0	0	0	0
Restricted net assets at end of year	323,166,095	323,166,095	0	0	0	0	0
Net Assets at End of Year	342,315,397	334,878,016	0	0	2,219,987	5,217,394	0

Summary Table of Revenues and Expenditures  
(FY 2009)

(Unit : yen)

Account	Total	General Account	Special Account for International Training Projects	Special Account for needs Assessment on Education to Prevent Dating Violence	Special Account for the Management and Operation of Kitakyushu Municipal Gender Equality Projects	Special Account for Independent Projects of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center	Special Account for Maintenance and Management of the Kitakyushu Otemachi Building
<b>I Operating Activities</b>							
1. Income and gains from operating activities							
① Income from basic funds	4,084,739	4,084,739	0	0	0	0	0
② Membership fees	790,500	790,500	0	0	0	0	0
③ Operating income	231,090	210,090	21,000	0	0	0	0
④ Income from independent operational fees	9,980,461	0	0	0	0	9,980,461	0
⑤ Income from contracted services	8,054,684	0	8,054,684	0	0	0	0
⑥ Income from contracted services (City of Kitakyushu)	266,672,500	0	0	997,500	231,509,000	0	0
⑦ Income from grants, other	66,846,000	66,846,000	0	0	0	0	0
⑧ Income from contributions	0	0	0	0	0	0	0
⑨ Miscellaneous income	89,229	88,309	920	0	0	0	0
⑩ Income from transfer in from other accounts	1,190,090	1,190,090	0	0	0	0	0
Total income and gains from operating activities	357,939,293	73,209,728	8,076,604	997,500	231,509,000	9,980,461	34,166,000
2. Expenditure from operating activities							
① Expenditure for survey and research projects	19,115,214	19,115,214	0	0	0	0	0
② Expenditure for exchange and training projects	11,949,211	11,949,211	0	0	0	0	0
③ Expenditure for information collection and communication projects	9,076,498	9,076,498	0	0	0	0	0
④ General and administrative expenditure	30,316,006	30,316,006	0	0	0	0	0
⑤ Expenditure for international training projects	6,569,877	0	6,569,877	0	0	0	0
⑥ Expenditure for the Study on Education to Prevent Dating Violence	759,105	0	0	759,105	0	0	0
⑦ Expenditure for the management and operation of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center	221,137,200	0	0	0	221,137,200	0	0
⑧ Expenditure for user fees of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center	8,152,663	0	0	0	0	8,152,663	0
⑨ Expenditure for maintenance and management of the Kitakyushu Otemachi Building	31,403,180	0	0	0	0	0	31,403,180
⑩ Expenditure from repayments	12,751,462	0	555,032	0	9,433,610	0	2,762,820
⑪ Expenditure from return of grants	6,609,530	6,609,530	0	0	0	0	0
⑫ Expenditure from transfer in from other accounts	1,190,090	0	951,695	238,395	0	0	0
Total expenditures from operating activities	359,030,036	77,066,459	8,076,604	997,500	230,570,810	8,152,663	34,166,000
Net income and expenditures of operating activities	△ 1,090,743	△ 3,856,731	0	0	938,190	1,827,798	0
<b>II Investing Activities</b>							
1. Income from investing activities							
Total income from investing activities	0	0	0	0	0	0	0
2. Expenditure from investing activities							
① Expenditure from restricted assets	262,000	262,000	0	0	0	0	0
② Expenditure for fixed assets	938,190	0	0	0	938,190	0	0
③ Other expenditure	0	0	0	0	0	0	0
Total expenditure from investing activities	1,200,190	262,000	0	0	938,190	0	0
Net income and expenditure from investing activities	△ 1,200,190	△ 262,000	0	0	△ 938,190	0	0
<b>III Financing Activities</b>							
1. Income from financing activities							
Income from financing activities	0	0	0	0	0	0	0
2. Expenditure from financing activities							
Expenditure from financing activities	0	0	0	0	0	0	0
Net income and expenditure from financing activities	0	0	0	0	0	0	0
Net surplus from income over expenditures for the year	△ 2,290,933	△ 4,118,731	0	0	0	1,827,798	0
Surplus from income over expenditures at beginning of year	11,329,180	7,979,654	0	0	0	3,349,526	0
Surplus from income over expenditures at end of year	9,038,247	3,860,923	0	0	0	5,177,324	0

Balance Sheet  
(FY 2009)

(Unit : yen)

Accounts	Total	General Account	Special Account for International Training Projects	Special Account for needs Assessment on Education to Prevent Dating Violence	Special Account for the Management and Operation of Kitakyushu Municipal Gender Equality Projects	Special Account for Independent Projects of the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center	Special Account for Maintenance and Management of the Kitakyushu Otemachi Building	Elimination of Internal Transactions
<b>I Assets</b>								
1. Current assets								
Total current assets	55,719,219	14,818,656	1,164,573	997,500	36,706,349	6,082,608	6,338,529	10,388,996
2. Fixed assets								
(1) Basic funds								
Total assets from basic funds	329,245,773	329,245,773	0	0	0	0	0	0
(2) Restricted assets								
Total restricted assets	1,010,000	1,010,000	0	0	0	0	0	0
(3) Fixed assets (other)								
Total restricted assets (other)	4,031,377	1,771,320	0	0	2,219,987	40,070	0	0
Total fixed assets	334,287,150	332,027,093	0	0	2,219,987	40,070	0	0
Total assets	390,006,369	346,845,749	1,164,573	997,500	38,926,336	6,122,678	6,338,529	10,388,996
<b>II Liabilities</b>								
1. Current liabilities								
Total current liabilities	46,680,972	10,957,733	1,164,573	997,500	36,706,349	905,284	6,338,529	10,388,996
2. Fixed liabilities								
Total fixed liabilities	1,010,000	1,010,000	0	0	0	0	0	0
Total liabilities	47,690,972	11,967,733	1,164,573	997,500	36,706,349	905,284	6,338,529	10,388,996
<b>III Net Assets</b>								
1. Restricted net assets								
Total restricted net assets	323,166,095	323,166,095	0	0	0	0	0	0
(Allocated for basic fund)	( 323,166,095 )	( 323,166,095 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )
(Allocated for restricted assets)	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )
2. Unrestricted net assets								
Total unrestricted net assets	19,149,302	11,711,921	0	0	2,219,987	5,217,394	0	0
(Allocated for basic fund)	( 6,079,678 )	( 6,079,678 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )
(Allocated for restricted assets)	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )
Total net assets	342,315,397	334,878,016	0	0	2,219,987	5,217,394	0	0
Total liabilities and net assets	390,006,369	346,845,749	1,164,573	997,500	38,926,336	6,122,678	6,338,529	10,388,996

## Summary Table of Footnotes for Financial Statements

As of March 31, 2010

### 1. Significant Accounting Policies

- (1) Valuation basis and method for securities  
Bonds to be held until maturity---Acquisition cost
- (2) Depreciation method for fixed assets  
Vehicles---Fixed rate/declining balance method  
Office equipment---Fixed rate/declining balance method  
Intangible fixed assets---Straight line method
- (3) Accrued allowance reserves  
Accrued retirement benefits  
Calculated based on the actual payment of retirement benefits for the current year.
- (4) Accounting for consumption taxes  
Transactions subject to consumption taxes are stated at the gross amount of the related consumption taxes.

### 2. Details about changes and balance of assets for basic funds and restricted assets are set out below. (Unit: Yen)

Account	Ending balance of previous year	Increase	Decrease	Ending balance of current year
<b>Basic funds</b>				
Investment securities	299,950,000	0	0	299,950,000
Fixed deposits	29,295,773	0	0	29,295,773
<b>Sub-total</b>	<b>329,245,773</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>329,245,773</b>
<b>Restricted assets</b>				
Deposits for retirement benefit funds	748,000	262,000	0	1,010,000
<b>Sub-total</b>	<b>748,000</b>	<b>262,000</b>	<b>0</b>	<b>1,010,000</b>
<b>Total</b>	<b>329,993,773</b>	<b>262,000</b>	<b>0</b>	<b>330,255,773</b>

### 3. Details of financial resources of assets of basic funds and restricted assets are set out below. (Unit: Yen)

Account	Ending balance of previous year	(Allocated from net restricted assets)	(Allocated from unrestricted assets)	(Correspond to liabilities)
<b>Basic funds</b>				
Investment securities	299,950,000	299,950,000	0	—
Fixed deposits	29,295,773	23,216,095	6,079,678	—
<b>Sub-total</b>	<b>329,245,773</b>	<b>323,166,095</b>	<b>6,079,678</b>	<b>—</b>
<b>Restricted assets</b>				
Deposits for retirement benefit funds	1,010,000	0	0	1,010,000
<b>Sub-total</b>	<b>1,010,000</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1,010,000</b>
<b>Total</b>	<b>330,255,773</b>	<b>323,166,095</b>	<b>6,079,678</b>	<b>1,010,000</b>

### 4. Acquisition costs, accumulated depreciation, and ending net book value of fixed assets are set out below. (Unit: Yen)

Account	Acquisition cost	Accumulated depreciation	Ending net book value
<b>Other fixed assets</b>			
Vehicles	1,700,000	1,699,998	2
Office equipment	13,425,465	9,934,090	3,491,375
<b>Total</b>	<b>15,125,465</b>	<b>11,634,088</b>	<b>3,491,377</b>

### 5. Details of investment securities held by maturity, book value, fair value and gains/losses from valuation are set out below. (Unit: Yen)

Account	Book value	Fair value	Gains/losses from valuation
<b>Investment securities</b>			
Local government bond market	199,900,000		
Osaka Prefectural public bond	100,000		
City of Kitakyushu bond	99,950,000	101,905,600	1,955,600
<b>Total</b>	<b>299,950,000</b>	<b>101,905,600</b>	<b>1,955,600</b>

### 6. Details of grants and grant providers, and changes in and balance of grants for this year are set out below. (Unit: Yen)

Subscriptions	Grant provider	Ending balance of previous year	Increase	Decrease	Balance of current year	B/S account
<b>Grants</b>						
Grants from city		300,000,000	— —	— —	300,000,000	Restricted net assets
Receipt of city grants	City of Kitakyushu	— —	66,846,000	66,846,000	0	
<b>Total</b>		<b>543,557,000</b>	<b>66,846,000</b>	<b>0</b>	<b>300,000,000</b>	

# Documentation

## **History of Kitakyushu Forum on Asian Women (KFAW)**

August 23, 1989

The Asian Women's Forum (provisional name) was chosen from 101 entries as the City of Kitakyushu's Hometown Revitalization Project as a "System for Research on and Training for Asian Women."

November 1, 1989

The Master Plan Committee for the Kitakyushu Forum on Asian Women was organized as a personnel advisory organ to the Mayor to gather comprehensive suggestions for the policies and activities of the Forum and to work out a master plan. The committee was headed by Ms. Hisako Takahashi, Former President of KFAW.

December 26, 1989

The Master Plan Committee proposed a revision of the provisional name to the "Kitakyushu Forum on Asian Women." The revision was approved.

January 19-21, 1990

The Kitakyushu Forum on Asian Women (KFAW) was introduced as a proposed project in a slide exhibition at Tokyo Dome as part of the Community Revitalization Exhibition.

February 11-March 24, 1990

With backing from the Planning Committee for Women's Conferences, which was organized in the seven wards of the City of Kitakyushu, a series of symposiums, exchange meetings, exhibitions and lectures were held in each of the wards to build momentum for the founding of KFAW.

March 30, 1990

The Committee to Formulate a Basic Plan for the Asian Women's Forum submitted the Basic Plan for the Kitakyushu Forum on Asian Women to the Mayor of the City of Kitakyushu.

March 31, 1990

The Asian International Symposium '90 was organized under the theme of "Asia, Women, and the Future: Let's Think Together and Move Forward."

June-September, 1990

The 1<sup>st</sup> Asian Seminar was organized (The seminar has been held annually since.)

July 5, 1990

The Working Group on the Kitakyushu Forum on Asian Women was set up as a private advisory organ to the Mayor of the City of Kitakyushu in order to explore potential future activities for the Forum.

July 23, 1990

Based on the above proposition, the master plan for the Kitakyushu Forum on Asian Women was decided.

October 20, 1990

KFAW was officially established (First President, Ms. Hisako Takahashi).

October 20, 1990

In order to commemorate the establishment of KFAW, Ms. Sumiko Ito, a Tokyo High Court Judge, delivered a lecture on "Women's Roles in International Society."

October, 1990

A joint research project on “The Influence of Development on Women and Families” began.

March 9-10, 1991

The 1<sup>st</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was held under the theme of “Asian Women Today.” The conference has been held annually since.

March, 1991

The first issue of the information magazine *Asian Breeze* was published.

April, 1991

Research projects began.

May, 1991

Recruitment of foreign correspondents began (This annual project has continued ever since.)

December 1-2, 1991

The 2<sup>nd</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of “Women in Decision Making.”

March 18-27, 1992

The 1<sup>st</sup> Seminar for Government Officers on the Improvement of the Status of Women was held (commissioned by JICA). This seminar has been held annually since.

July 24, 1992

With the aim of gaining status as a foundation by October 1993, a fundraising committee was set up to raise the necessary money to create a basic fund. The members of the Board of Directors took the initiative in fundraising activities.

November 13-15, 1992

The 3<sup>rd</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was held under the theme of “Women in Environment and Development.”

November 24, 1992

When the UNIFEM Japan Committee was formed to support the United Nations Development Fund for Women (UNIFEM), KFAW became a full UNIFEM member and member of the Liaison Committee for the International Women’s Year, together with the Yokohama Women’s Association.

March, 1993

The 1<sup>st</sup> volume of *Asian Women Series* was published (China).

May, 1993

Production of Educational Videotapes for International Understanding began.

September 17, 1993

A meeting to promote the establishment of KFAW as a foundation was held.

September 22, 1993

KFAW received approval as a foundation from the Ministry of Labour.

October 1, 1993

KFAW became a foundation (President, Ms. Hisako Takahashi).

November 19-21, 1993

The 4<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of “Population and Our Earth’s Future.”

February 8, 1994

Ms. Hisako Takahashi, President, was appointed as High Court Judge and resigned from office. Ms. Yoshiko Misumi, Managing Director, was appointed as acting president.

April, 1994

A joint research project “Working Women in Asia Series” started.

September 1-8, 1994

The 1<sup>st</sup> Foreign Correspondents’ Seminar was held.

November 18-20, 1994

The 5<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was held under the theme of “Women and the Family.”

April 1, 1995

KFAW was commissioned by the City of Kitakyushu to manage and operate the Kitakyushu Women’s Center.

June 15, 1995

KFAW moved its offices to the Kitakyushu Otemachi Building.

June 22, 1995

Mr. Hachiji Okuda took office as the second President.

July 1-8, 1995

Opening events for the Kitakyushu Women’s Center were held.

September 4-11, 1995

KFAW received observer status to participate in The United Nations Commission on Status of Women, and participated in the Fourth World Conference on Women as an observer. KFAW also participated in the conference NGO Forum and held a workshop.

November 17-19, 1995

The 6<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of “Women and Labor.”

February 16-March 21, 1996

KFAW organized the “1<sup>st</sup> Seminar on Women and Environment and Development” commissioned by JICA (This seminar has been held annually since.)

November 15-17, 1996

KFAW held the 7<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women under the theme of “Women and the Media.”

January, 1997

KFAW established a website.

April 1, 1997

Ms. Yoshiko Misumi, Managing Director, was appointed as acting president.

September 22, 1997

The Visiting Researcher Program was introduced.

November 7-9, 1997

KFAW organized the 8<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women under the theme of “Women’s Empowerment and Education.”

March 24, 1998

Ms. Hisako Takahashi took office as the third President of KFAW.

June, 1998

The International Cooperation Seminar started.

October 10, 1988

KFAW celebrated the 5<sup>th</sup> anniversary of the establishment of the foundation

November 7-8, 1998

KFAW organized the 9<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women under the theme of “Mainstreaming Gender for Sustainable Development in Asia.”

December 12-13, 1998

KFAW held a Seminar on Global Citizenship Education.

April 12, 1999

The Japan Society Local Government and Public Policy Fellowship Project was initiated.

September, 1999

A discussion meeting was held on the future of KFAW.

October 17-31, 1999

KFAW implemented a training program for women entrepreneurs commissioned by the Kitakyushu Women’s Center.

November 6-7, 1999

KFAW held the 10<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women under the theme of “Towards a Gender Equal Century: the Women 2000 Conference and Beyond.”

January 9-15, 2000

A study tour for women entrepreneurs was organized in San Francisco, U.S.A.

June 5-9, 2000

KFAW participated in the United Nations Special General Assembly “Women 2000: Gender Equality, Development and Peace for the Twenty-first Century” as an accredited NGO.

June 5-8, 2000

KFAW participated in a “Women 2000” related NGO conference, Beijing+5 Global Feminist Symposium in New York,

U.S.A, and held a workshop.

September 3, 2000

KFAW organized the Women's Environment Congress for Asia and Pacific to coincide with the Environment Congress for Asia and the Pacific.

November, 2000

KFAW received an award for Community Development in the World from the Minister of Home Affairs.

December 28, 2000

KFAW changed from a presidential to chair-based system, and gained approval for changing the regulations concerning the KFAW Endowment Act.

February 25-March 5, 2001

KFAW organized an Environment Study Tour (Malaysia).

April 1, 2001

Ms. Hiroko Hara took office as the first Chair, Ms Yoshiko Misumi as the fourth President and Ms. Hisako Takahashi, former President, as an Advisor.

July 26-28, 2001

KFAW participated in the Stakeholders' Meeting for North-East Asia in Preparation for the World Summit on Sustainable Development, 2002 and The North-East Asian Sub-Regional Preparatory Meeting for the World Summit on Sustainable Development in Beijing, China.

July-September, 2001

KFAW implemented projects related to the JAPAN EXPO 2001 Kitakyushu.

- JICA trainees report: "From JAPAN to the World! and From Japan to the Future"
- Ms. Masako Atsumi (attorney-at-law) took part in a gender equality talk show: "The Yamauchi Family Partnership."

September 12-16, 2001

KFAW participated in the 1<sup>st</sup> North-East Asian Women's Conference on the Environment in Seoul, Korea.

October 6-7, 2001

The 12<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of "An Autonomous Healthy Life in a Gender Equal Society."

November 24-December 1, 2001

KFAW participated in the High-level Regional Meeting for the World Summit on Sustainable Development (WSSD) and Asia-Pacific Round Table on Sustainable Development in Phnom Penh, Cambodia.

November 28-December 2, 2001

A photo exhibition on "Afghan Women and Children" and Afghanistan Seminar: Part 1 was organized.

January 18, 2002

KFAW held an Environment Series Seminar on "Rio+10: Worldwide Preparations for the Johannesburg Summit that is the World Summit on Sustainable Development."

February 9-17, 2002

KFAW held a roundtable discussion on the “World Summit on Sustainable Development in Kitakyushu and Tokyo.”

March 1-10, 2002

KFAW participated in the 46<sup>th</sup> Session of the United Nations Commission on the Status of Women (CSW) in New York, U.S.A.

March 22, 2002

The Afghanistan Seminar: Part 2 was held.

March 23-April 5, 2002

KFAW participated in the 3<sup>rd</sup> Preparatory Committee Meeting for WSSD (PrepCom 3) in New York, U.S.A.

March 25-30, 2002

An Environment Study Tour (China, Korea) was organized.

April 1, 2002

Kitakyushu Women’s Center was renamed the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center.

July, 2002

KFAW was accredited with NGO Special Consultative Status to the UN Economic and Social Council. KFAW was the first NGO in Kyushu to gain such status.

July 31, 2002

KFAW was awarded the Special Merit Prize for International Cooperation for 2002 from the Japan International Cooperation Agency (JICA).

August 23-September 5, 2002

KFAW participated in and held workshops at the World Summit on Sustainable Development (The Senior Researcher of KFAW worked as an advisor to the Japanese Government Delegation).

October 12, 14, 2002

Women environmental activists gathered from Japan, China, Korea and Mongolia to hold the 2<sup>nd</sup> North-East Asian Women’s Conference on the Environment in Kitakyushu and Tokyo.

March 2-16, 2003

KFAW participated in the 47<sup>th</sup> Session of the United Nations Commission on the Status of Women (CSW) in New York, U.S.A.

March 16-21, 2003

KFAW participated in the 3<sup>rd</sup> World Water Forum in Kyoto, Shiga and Osaka.

May, 2003

The KFAW Seminar, formerly referred to as the International Cooperation Seminar, was held.

May 17, 2003

KFAW joined the Kitakyushu City Committee for the Compilation of Women’s History.

October 11, 2003

Projects were implemented to mark the 10<sup>th</sup> Anniversary of KFAW's establishment as a foundation.

October 12, 2003

The 14<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of "Women's Empowerment and ICT."

February 26-March 13, 2004

KFAW participated in the 48<sup>th</sup> Session of the United Nations Commission on the Status of Women (CSW) in New York, U.S.A.

June 29-July 4, 2004

KFAW organized a study tour to attend the Asia-Pacific NGO Forum (Bangkok, Thailand).

September 7-10, 2004

KFAW participated in the High-level Intergovernmental Meeting to Review the Regional Implementation of the Beijing Platform for Action and Its Regional and Global Outcomes organized by UN ESCAP (Bangkok, Thailand).

November 6-7, 2004

The 15<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of "Gender and Human Security: Toward Beijing+10."

February 28-March 6, 2005

KFAW participated in the 49<sup>th</sup> Session of the United Nations Commission on the Status of Women (CSW) on the occasion of the tenth anniversary of the Fourth World Conference on Women (New York, U.S.A).

November 5-6, 2005

The 16<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of "Women Who Have Made History."

December 7, 2005

KFAW published *A Centennial History of Women in Kitakyushu* (Japanese).

January 16-23, 2006

KFAW organized a study tour on "Thinking in India about the Human Rights of Women and Children."

February 27-March 10, 2006

KFAW participated in the 50<sup>th</sup> Session of the United Nations Commission on the Status of the Women (CSW) in New York, U.S.A.

February 19, 2006

Along with the Committee of Ecolife Stage, KFAW held the "Kitakyushu Resident's Environmental Forum towards the Creation of the World Environmental Capital." Dr. Wangari Maathai, the Nobel Peace Prize winner, was invited as the keynote speaker.

April 1, 2006

KFAW was designated as a special management body to manage and operate the Kitakyushu Municipal Gender Equality Center, MOVE on behalf of the City of Kitakyushu government.

September 28, 2006

The Kitakyushu ESD (Education for Sustainable Development) Council was established (44 local organizations).

October

KFAW was recognized as a model organization for The United Nations Decade of Education for Sustainable Development (UNDESD) by the Ministry of Environment.

October 15, 2006

Based on *A Centennial History of Women in Kitakyushu* (Japanese), KFAW published *The 100 Years History of Women of Kitakyushu from Newspapers' Perspectives* (Japanese).

November 11-12, 2006

In commemoration of the original publication of *A Centennial History of Women in Kitakyushu* (Japanese), KFAW produced a women's history drama called *Autumn Tri-colored Pansy*.

November 18-19, 2006

The 17<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of "Creating a Just and Plentiful Future—What is the Education for Sustainable Development?—."

December 5, 2006

KFAW was recognized as the fourth Regional Centre of Expertise (RCE) by the United Nations University to promote Education for Sustainable Development in Kitakyushu City.

February 26-March 9, 2007

KFAW participated in the 51<sup>st</sup> Session of the United Nations Commission on the Status of Women (CSW) in New York, U.S.A.

March 1-8, 2007

KFAW carried out a study tour to Australia on "Empowerment of Aboriginal Women, Art and Community."

April 1, 2007

Ms. Hiroko Hara took office as Advisor, Ms. Yoshiko Misumi as second Chair and Ms. Kuniko Yoshizaki as fifth President.

KFAW started work as the secretariat of the Kitakyushu ESD Council.

October 12-16, 2007

KFAW organized a study tour on ESD (Education for Sustainable Development) to Korea to learn about progressive ESD approaches.

November 10-11, 2007

The 18<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of "Let's Link Together and Create a More Sustainable Future."

December 14, 2007

KFAW and the U.S. Consulate Fukuoka jointly organized a seminar on the situation in Myanmar.

February 22-March 7, 2008

KFAW participated in the 52<sup>nd</sup> Session of the United Nations Commission on the Status of Women (CSW) in New York, U.S.A.

March 10-12, 2008

KFAW visited Incheon Metropolitan City, one of Kitakyushu's sister cities.

April, 2008

KFAW prepared for the Establishment of the KFAW Asian Researchers Network.

May 26, 2008

A delegation from Incheon YWCA (11 people) visited KFAW.

June 25, 2008

KFAW participated in an international conference organized by Chungcheongnam-do Women's Policy Development Institute (CWPDI) and gave a presentation on "Human Resources Development for Women: The Present Status and Career Development Policies in Japan."

September 6, 2008

KFAW held a special commemorative lecture on "Women's Current Status in the Asia-Pacific Region" to commemorate the 15<sup>th</sup> Anniversary of the foundation of the Forum.

November 15, 2008

KFAW and CWPDI organized the Japan-Korea International Seminar on "Female International Migrants' Current Status of Cultural Conflicts and Health Problems in Japan and R.O.K."

November 15-16, 2008

The 19<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of "Eat the Earth, Eat on the Earth."

February 27-March 6, 2009

KFAW participated in the 53<sup>rd</sup> Session of the United Nations Commission on the Status of Women (CSW) in New York, U.S.A. KFAW's Chief Researcher made a presentation on "Necessity of East Asian Networks for Elderly Care" at a side event.

March 31, 2009

The secretariat work of the Kitakyushu ESD Council was transferred to the Environment Bureau of Kitakyushu City.

April 1, 2009

Ms. Yoshiko Misumi took office as Advisor.

June, 2009

A network of researchers on gender development was established.

August 6, 2009

KFAW held an exchange program between Kitakyushu YMCA and students from the Oriental Faculty of Chelyabinsk State University, Russia (7 students).

August 10, 2009

KFAW organized a seminar on "The Meaning of Michelle Obama: The Evolving Role of the First Lady" with the Fukuoka American Center.

September 13, 2009

KFAW held the 2<sup>nd</sup> Japan-Korea International Seminar: "From the Earth to the Dining Table: Let's think about food safety from a gender perspective."

September 29, 2009

The Dalian Women's Federation visited KFAW via charter flight which commemorated the 30<sup>th</sup> anniversary of the friendship agreement between Kitakyushu and Dalian.

October 26, 2009

KFAW organized a seminar on "Women in Singapore Now" with the Embassy of the Republic of Singapore

November 2, 2009

KFAW concluded a Memorandum of Understanding with CWPDI on academic exchange.

November 28-29, 2009

The 20<sup>th</sup> Kitakyushu Conference on Asian Women was organized under the theme of "Women Now in the World: Viewing the World from Kitakyushu."

February 26-March 7, 2010

KFAW participated in the 54<sup>th</sup> Session of the United Nations Commission on the Status of Women (CSW).

March 1, 2010

KFAW organized a joint Japan-Korea seminar (CSW parallel event) with CWPDI in New York.

## List of Publications

### Ajia Josei Kenkyu

<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 1	Ajia ni okeru Kaihatsu to Josei	(J)	¥1,000 (sold out)
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 2	Kankyo, Kaihatsu, Josei	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 3	A Chikyu no Mirai to Jinko Mondai B Ajia no Josei to Jinko Mondai	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 4	Josei to Kazoku	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 5	Josei to Rodo	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 6	Josei to Media	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 7	Josei to Kyoiku	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 8	Jenda no Shiten no Shuryuka wo Mezashite	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 9	Danjyo Kyodo Sankaku no Seiki wo Hiraku	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 10	Jenda Shuryuka ni Mukete	(J)	¥1,000 (sold out)
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 11	Jenda to Kenko	(J)	¥1,000 (sold out)
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 12	Jizokukano na Kaihatsu-Jenda no Shiten kara	(J)	¥1,000 (sold out)
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 13	ICT to Jenda	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 14	Ningen no Anzen Hoshō to Jenda	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 15	Gurobaruka to Jenda	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 16	Jenda to Seiji (Poritikusu)	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 17	Fukushi to Jenda	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 18	Kagaku to Jenda	(J)	¥1,000
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Vol. 19		(J)	(on request)
<i>Ajia Josei Kenkyu</i> Supplementary Volume	Treads in Women's Studies in Asia	(J)	¥200

### Journal of Asian Women's Studies

<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 1	Women in Development in Asia	(E)	¥800
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 2	Environment, Development and Women	(E)	¥1,000
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 3	Population and Our Earth's Future Women's Reproductive Rights and Population Problems in Asia	(E)	¥1,000
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 4	Women and Family	(E)	¥1,000
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 5		(E)	¥1,000 (sold out)
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 6 & 7		(E)	¥1,500 (sold out)
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 8		(E)	¥1,000
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 9		(E)	¥1,000 (sold out)
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 10	Women/Gender and Globalization	(E)	¥1,000 (sold out)
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 11	Participation and Good Governance: Environmental Issues from a Gender Perspective	(E)	¥1,000 (sold out)
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 12	Cairo+10: Reviewing Reproductive Health and Rights	(E)	¥1,000
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 13	ICT and Gender	(E)	¥1,000
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 14		(E)	¥1,000
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 15		(E)	¥1,000
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 16		(E)	¥1,000
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 17	Welfare and Gender	(E)	¥1,000
<i>Journal of Asian Women's Studies</i> Vol. 18		(E)	E - Journal

**Environment Series**

<i>Ajia ni okeru Kankyo to Josei—Jissen Jireishu—</i>	(J)	¥500
<i>Chikyu Ondanka Taisaku no Mirai</i>	(J)	¥500
<i>Noberu Heiwa-sho Jushosha Wangari Maathai san to Kataru Kitakyushu Shimin, Kankyo Horam Sekai no Kankyo-Shuto wo Mezashite</i>	(J)	¥300
<i>Jizokukanona kaihatsu notameno kyoiku —Ajia Josei Koryu Kenkyu Foramu no Katsudokiroku—</i>	(J)	(on request)

**Female Farmers Series**

<i>Empowerment of Female Farmers in Asia—Korea and China—</i>	(E)	¥1,500 (sold out)
<i>Ajia no Nogyo Josei no Empawamento—Kankoku to Chugoku karano Hokoku—</i>	(J)	¥1,000
<i>Empowerment of Female Farmers in Asia—Vietnam and Thailand—</i>	(E)	¥1,500

**Domestic Violence Series**

<i>Ajia no Domesutikku Baiorensu (Hardcover)</i>	(J)	¥2,500
<i>Ajia no Domesutikku Baiorensu (Paperback)</i>	(J)	¥2,000
<i>Domestic Violence in Asia—A Report from Korea and Cambodia—</i>	(E)	¥800

**Asian Family Series**

<i>A Comparative Study on the Family Consciousness between Korea and Japan —Centered on Seoul and Fukuoka—</i>	(E)	¥2,000
<i>Nippon to Kankoku no Kazoku-Ishiki no Hikaku Kenkyu —Fukuoka, Soru Chosa wo Chushin ni—</i>	(J)	¥2,000
<i>A Study of Family Consciousness in Contemporary Thailand —With Comparison among Bangkok, Seoul and Fukuoka—</i>	(E)	¥2,000
<i>Gendai Tai no Kazoku-Ishiki no Kenkyu —Bankoku, Soru, Fukuoka Chosa no Hikaku to tomoni—</i>	(J)	¥2,000
<i>A Study on Life and Consciousness of Contemporary Urban Family in China —A Research in Beijing with Comparison among Bangkok, Seoul and Fukuoka—</i>	(E)	¥2,000 (sold out)
<i>Gendai Chugoku ni okeru Toshi-Kazoku no Ishiki to Seikatsu ni kansuru Kenkyu —Pekin Chosa oyobi Bankoku, Soru, Fukuoka tonon Hikaku—</i>	(J)	¥2,000
<i>The Influences of Economic Development upon Women and Families —Experiences in Seven Asian Countries—</i>	(E)	¥2,000
<i>Ajia no Keizai Hatten to Kazoku oyobi Jenda</i>	(J)	¥1,000
<i>Effects of Socio-Economic Development on Family and Gender Relations Before Economic Crisis in Malaysia—Focusing on Kuala Lumpur—</i>	(E)	¥2,000
<i>Mareshia no Keizai Kaihatsu to Kazoku oyobi Jenda—Keizai Kiki no Zenya made—</i>	(J)	¥2,000
<i>Ajia no Keizai Hatten to Kazoku oyobi Jenda—Kaitei-ban—</i>	(J)	¥1,200

**Working Women Series**

<i>Pakisutan no Hataraku Josei—Watatsumi Josei Rodosha to Hoseigyō no Josei Rodosha—</i>	(J)	¥1,000
<i>Betonamu no Hataraku Josei—Hochimin-shi Hosei Kojo no Josei Iju Rodosha—</i>	(J)	¥1,000
<i>Firipin Mindanao Hokubu ni okeru Keizai Kaihatsu to Josei —Kaihatsu ni okeru Shakai, Keizai Jenda Bunseki (SEGA) Moderu no Kensho—</i>	(J)	¥1,000

### Visiting Researcher's Research Paper Series

<i>Marehia to Shingaporu ni okeru Josei to Seiji—Nashonarizumu, Kokka Kensetsu, Jenda—</i>	(J)	¥1,000
<i>Chugoku ni okeru Shakaifukushi Seisaku no Tenkai Jokyo ni kansuru Kenkyu</i>	(J)	¥1,000
<i>Globalization no Shinchoryu to “Kankyo-Hozen-gata Keizai Hatten no Kadai” —Tonan Ajia Shokoku ni okeru “Chukan Kaiso” no Zodai tonno Kanren de—</i>	(J)	¥1,000 (sold out)
<i>Shanghai-shi Josei Koreisha Seikatsu Jokyo ni kansuru Homon Chosa</i>	(J)	¥1,000
<i>Aung San Suu Kyi no Shiso to Kodo</i>	(J)	¥1,000
<i>Aung San Suu Kyi no Shiso to Kodo (with Burmese appendix)</i>	(J)	¥1,500 (sold out)
<i>Gurobarizeshon no Shinchoryu to Kankyo-Hozen-gata Keizai Hatten no Kadai —Tonan Ajia Shokoku no Jirei de—</i>	(J)	¥1,000
<i>Myamma ni okeru Josei no Chii</i>	(J)	¥1,000
<i>Indo ni okeru Shogai ni Wataru Kenko to Jenda</i>	(J)	¥1,000
<i>Indo no Keizai Kaihatsu to Saisei Kano Enerugi Riyo —Josei no Shakaiteki Yakuwari no Zodaisuru naka de—</i>	(J)	¥1,000
<i>Josei Rodosha no Hi-seikika ni kansuru Nikkan Hikaku —Rodo Shijo to Josei Seisaku, Shokuba no Jenda Kozoka no Bunseki—</i>	(J)	(on request)
<i>“Ho”, “Hinkon”, “Jenda”: Ho-Tagen-Shugi to Seigi eno Akusesu</i>	(J)	(on request)
<i>Firipin to Myamma ni okeru Wakamono oyobi Josei wo Taisho toshita HIV/AIDS Taisaku ni kansuru Chosa Kenkyu</i>	(J)	(on request)
<i>“Kenri wo Yoridokoro nisuru Apurochi” no Tenkai to Ajia no Josei no Empawamento</i>	(J)	(on request)
<i>Dairen-shi ni Shinshutsu no Nippon Kigyo ni okeru Genchi Saiyo Josei Jugyoin no Rodo Jittai to Kigyo no Shakaiteki Sekinin</i>	(J)	(on request)
<i>Hyogen Ato Serapi o Oyoshita Risachi Shuho no Kanosei —Jinshin Baibai Higaisha no “Hommono no Katari”—</i>	(J)	(on request)
<i>Tohoku Ajia ni okeru Jenda Yosan no Doko—Nippon, Kankoku, Taiwan wo Jirei toshite—</i>	(J)	(on request)
<i>Chuo Ajia Shokoku ni okeu Komyuniti Kenkyu—Jenda no Shiten kara— (Uzbekisutan, Tajikisutan, Kazafusutan, Kirugisu no Jirei yori—</i>	(J)	(on request)
<i>Jichitai no Nyusatsu, Keiyaku ni okeru Pojitibu Akushon Hyoka ni yoru Danjo Kyodo Sankaku Suishin ni kansuru Hikaku Kenkyu</i>	(J)	(on request)
<i>Trasnational Migration from Southeast to East Asia and the Transformation of Reproductive Labor: Comparative Study between Korea, Taiwan and Japan</i>	(E)	(on request)
<i>Naisen, Tsunami Saigaika no Kodomo no Kenko —Suriranka, Torinkomare-ken no Jittaichosa ni miru Seisa—</i>	(J)	(on request)

**Entrepreneur Series**

<i>Watashi no Kigyō Taiken—Kitakyūshū, Fukuoka no Josei Kigyōka Tachi—</i>	(J)	¥1,000
<i>Ajia no Josei Kigyōka</i>	(J)	¥1,000
<i>Women Entrepreneurs in Selected Asian Countries</i>	(E)	¥1,000

**Asian Women Series**

<i>Chugoku no Josei</i>	(J)	¥1,000
<i>Suriranka no Josei</i>	(J)	¥1,000
<i>Indonesia no Josei</i>	(J)	¥1,000
<i>Kankoku no Josei</i>	(J)	¥1,000
<i>Firipin no Josei</i>	(J)	¥1,000
<i>Banguradeshu no Josei</i>	(J)	¥1,000
<i>Betonamu no Josei</i>	(J)	¥1,000
<i>Tai no Josei</i>	(J)	¥1,000
<i>Chugoku no Josei (Kaitei-ban)</i>	(J)	¥1,000
<i>Shingaporu no Josei</i>	(J)	¥1,000
<i>Maresia no Josei</i>	(J)	¥1,000
<i>Indo no Josei</i>	(J)	¥1,000

**Foreign Correspondents' Reports**

Vol. 1 (J) (E)		¥500
Vol. 2 <i>Kazoku Kyoiku to Josei</i> (J) [ <i>Women in Home Education</i> ] (E)		¥800 (sold out)
Vol. 3 <i>Kyoiku to Josei</i> (J) [ <i>Women in Education</i> ] (E)		¥800
Vol. 4 <i>Josei to Kazoku</i> (J) [ <i>Women and Family Life</i> ] (E)		¥800
Vol. 5 <i>Josei to Rodo</i> (J) [ <i>Women and Work</i> ] (E)		¥800
Vol. 6 <i>Josei to Empawamento</i> (J) [ <i>Women's Empowerment</i> ] (E)		¥800
Vol. 7 <i>Josei to Empawamento</i> (J) [ <i>Women's Empowerment</i> ] (E)		¥800
Vol. 8 <i>Josei to Kigyōka</i> (J) [ <i>Women Entrepreneurs</i> ] (E)		¥800
Vol. 9 <i>Koreisha to Kodomo</i> (J) [ <i>The Elderly and/or Children</i> ] (E)		¥800
Vol. 10 <i>Kankyo to Josei</i> (J) [ <i>Women in Environment</i> ] (E)		¥800
Vol. 11 <i>Kenko to Josei</i> (J) [ <i>Women and Health</i> ] (E)		(on request)

**Contemporary Research Series on the Middle Class**

<i>Gendai Firipin ni okeru "Chukankaiso" no Kenkyu</i>	(J)	¥1,000
<i>Gendai Tai ni okeru "Chukankaiso" no Kenkyu</i>	(J)	¥1,000
<i>Gendai Indonesia ni okeru "Chukankaiso" no Kenkyu</i>	(J)	¥1,000
<i>Gendai Maresia ni okeru "Chukankaiso" no Kenkyu</i>	(J)	¥1,000
<i>Gendai Singaporu ni okeru "Chukankaiso" no Kenkyu</i>	(J)	¥1,000
<i>Tonan Ajia ni okeru "Chukankaiso" no Kenkyu</i>	(J)	¥1,000

**Other**

<i>Princess Sunflower</i>	(E)	¥1,500
---------------------------	-----	--------

**Videotapes (NTSC)**

Educational Videotapes for International Understanding (with expository text)	*Library price	¥10,000	*Regular price
<i>Chugoku no Kodomo Tachi/Suriranka no Sabomi-chan</i>	(J)		¥3,000 (sold out)
<i>Sugao no Kankoku/Hohoemi no Kuni Tai</i>	(J)		¥3,000 (sold out)
<i>Indonesia no Kodomo Tachi/Tomoni Ikiru Ajia no Rinjin</i>	(J)		¥3,000 (sold out)
<i>Yokina Firipin no Kodomo Tachi/Te to te wo Musubo</i>	(J)		¥3,000
<i>Konnichiwa Maresia no Kodomo Tachi/Maresia tte Donnakuni?</i>	(J)		¥3,000
<i>Tabunkashakai no Kodomo Tachi/Osutoraria tte Donnakuni?</i>	(J)		¥3,500
<i>Sin-chao Konnichiwa Betonamu/Betonamu no Kodomo Tachi</i> — <i>Ichiban Taisetsuna Mono wa Nani?</i> —	(J)		¥3,500

Notes:

- (1) J: Japanese and E: English.
- (2) Taxes are included.
- (3) Publication and videotapes can be mailed if additional postage is paid.

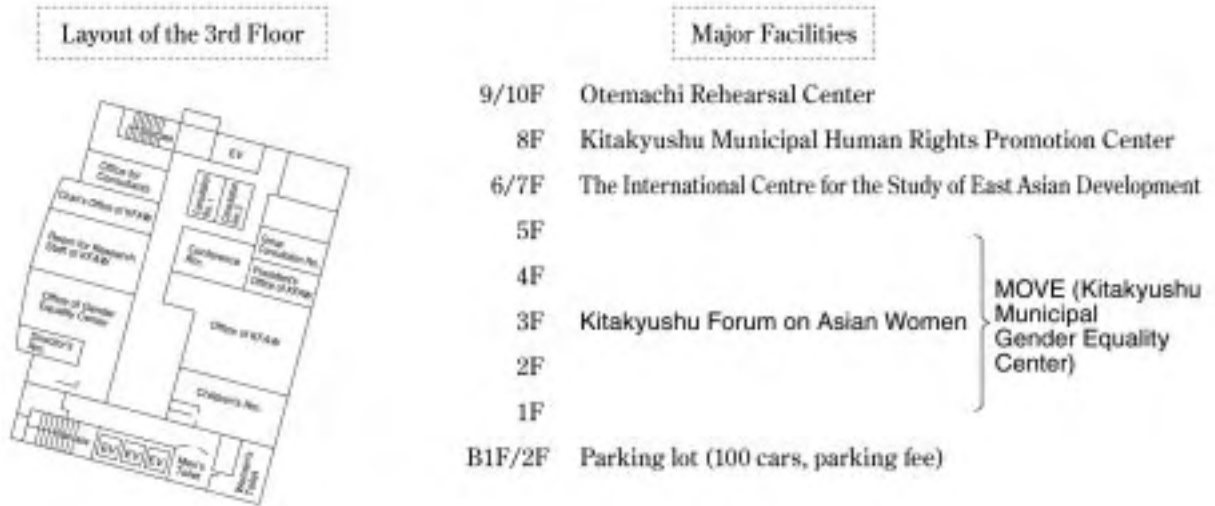
## Overseas Networks

961 people in 104 countries and two regions (As of March 2010)

<b>Asia (24 countries)</b>	<b>669</b>	<b>Pacific (8 countries)</b>	<b>45</b>
1 State of Israel	1	1 Commonwealth of Australia	17
2 India	53	2 Independent State of Samoa	2
3 Republic of Indonesia	50	3 Solomon Islands	1
4 Republic of Uzbekistan	1	4 Independent State of Papua New Guinea	13
5 Kingdom of Cambodia	21	5 Republic of Palau	1
6 Republic of Cyprus	1	6 Republic of Vanuatu	2
7 Republic of Singapore	29	7 Republic of the Fiji Islands	8
8 Democratic Socialist Republic of Sri Lanka	32	8 Federated States of Micronesia	1
9 Kingdom of Thailand	65	<b>Middle East (7 countries)</b>	<b>25</b>
10 Republic of Korea	62	1 Islamic State of Afghanistan	5
11 People's Republic of China (Hong Kong)	75	2 Republic of Yemen	2
12 Kingdom of Nepal	4	3 Republic of Iraq	1
13 Islamic Republic of Pakistan	40	4 Islamic Republic of Iran	3
14 People's Republic of Bangladesh	32	5 Syrian Arab Republic	1
15 The Democratic Republic of Timor-Leste	41	6 Republic of Turkey	5
16 Republic of Philippines	1	7 Hashemite Kingdom of Jordan	8
17 Kingdom of Bhutan	81	<b>Africa (32 countries)</b>	<b>69</b>
18 Brunei Darussalam	2	1 People's Republic of Algeria	1
19 Socialist Republic of Vietnam	2	2 Republic of Uganda	4
20 Malaysia	18	3 Arab Republic of Egypt	1
21 Union of Myanmar	34	4 State of Eritrea	1
22 Republic of Maldives	7	5 Republic of Ghana	4
23 Mongolian People's Republic	3	6 Gabonese Republic	1
24 Lao People's Democratic Republic	11	7 Republic of Cameroon	2
<b>North America (3 countries)</b>	<b>69</b>	8 Republic of Kenya	9
1 United States of America	63	9 Republic of Cote d'Ivoire	3
2 Canada	4	10 Republic of Congo	1
3 Republic of Haiti	2	11 Democratic Republic of Congo (Previously Zaire)	2
<b>Latin America and Caribbean (14 countries)</b>	<b>39</b>	12 Democratic Republic of Sao Tome and Principe	1
1 Oriental Republic of Uruguay	6	13 Republic of Zambia	3
2 Republic of Costa Rica	2	14 Republic of Zimbabwe	2
3 Republic of Colombia	2	15 Kingdom of Swaziland	1
4 Jamaica	1	16 Republic of Equatorial Guinea	1
5 Republic of Suriname	3	17 Republic of Senegal	1
6 Saint Lucia	1	18 United Republic of Tanzania	4
7 Republic of Chile	4	19 Republic of Chad	2
8 Republic of Nicaragua	1	20 Central African Republic	1
9 Republic of Panama	3	21 Federal Republic of Nigeria	4
10 Republic of Paraguay	1	22 Republic of Niger	4
11 Federative Republic of Brazil	4	23 Burkina Faso	2
12 Republic of Peru	6	24 Republic of Burundi	1
13 Republic of Honduras	1	25 Republic of Benin	1
14 United Mexican States	5	26 Republic of Botswana	1
<b>Europe (including NIS countries) (16 countries)</b>	<b>34</b>	27 Republic of Madagascar	1
1 United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland	7	28 Republic of Malawi	5
2 Republic of Italy	2	29 Republic of Mali	2
3 Kingdom of the Netherlands	3	30 Republic of South Africa	1
4 Kyrgyz Republic	2	31 Republic of Mauritius	1
5 Republic of Croatia	1	32 Islamic Republic of Mauritania	1
6 Kosovo	1	<b>Regions (2 regions)</b>	<b>11</b>
7 Republic of Tajikistan	2	1 British Virgin Islands	1
8 Czech Republic	1	2 Taiwan	10
9 Kingdom of Denmark	1		
10 Federal Republic of Germany	2		
11 Kingdom of Norway	1		
12 Republic of Finland	2		
13 Bosnia and Herzegovina	5		
14 Portuguese Republic	1		
15 Former Yugoslav Republic of Macedonia	1		
16 Russian Federation	2		

## Location and Facilities

Kitakyushu Otemachi Building was opened in July, 1995. The building has 10 floors above ground level and 2 basement floors. MOVE (Kitakyushu Municipal Gender Equality Center) occupies floors one to five, and the Kitakyushu Forum on Asian Women has its offices on the 3rd floor.



### Access :

- About 15 minutes from JR Nishikokura Station on foot
- Nishitetsu Bus Service
  - 1) From Kokura Bus Station: Route 27, 45, 110, 134, 138, circular line (inbound or outbound) or express for Minami-Kusami or Showa-Ike.  
Get off at Kyushu Kosei Nenkin Kaikan (Hall) & MOVE- mae.
  - 2) From Nishikokura Station: Route 45, 75, 110, 134, 138, or express for Minami-Kusami or Showa-Ike. Get off at same bus stop as 1.
  - 3) From Nishikokura Station: Circular line (inbound).  
Get off at same bus stop as 1.
- Kitakyushu Urban Expressway  
About 3 minutes from either Otemachi or Katsuyama ramp exit.

※ For further information on MOVE (Kitakyushu Municipal Gender Equality Center):

Tel. 81-93-583-3939

Fax. 81-93-583-5107

---

**(財) アジア女性交流・研究フォーラム  
平成 21 (2009) 年度 年報**

**Kitakyushu Forum on Asian Women  
Annual Report April 2009 to March 2010**

発行 (財) アジア女性交流・研究フォーラム  
Published by Kitakyushu Forum on Asian Women

803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4  
Kitakyushu Otemachi Building 3F  
Otemachi 11-4, Kokurakita-ku, Kitakyushu  
Japan 803-0814

TEL (093) 583-3434 (with Japan)  
TEL 81-93-583-3434 (from overseas)

FAX (093) 583-5195 (with Japan)  
FAX 81-93-583-5195 (from overseas)

ホームページアドレス <http://www.kfaw.or.jp>  
URL <http://www.kfaw.or.jp>

発行月 平成 22 年 12 月  
Published in December 2010

---